
埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 第22集

小 台 遺 跡 (第5次)

1989. 3

深谷市教育委員会

埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 第22集

こ だい 遺 跡 (第5次)
小 台

1989. 3

深谷市教育委員会

序

昭和32年にその存在が報告されて以来、小台遺跡においては通算4次に及ぶ発掘調査が実施されてまいりました。そしてこれらの調査がもたらした数々の成果によって、本遺跡は市内有数の規模を有する縄文時代の大遺跡として、私たちの前にその姿を明らかにしつつあります。これは初報告以来32年間にわたって遺跡の記録保存に携わってきた大勢の方々の御尽力の賜物であり、深谷市における文化財保護行政の歴史に照らしても、この32年間の歩みの持つ意味は重要なものと申せましょう。

この度の第5次発掘調査におきましても、これまでの調査と同様に大量の縄文土器片や石器等が検出され、当地における縄文人の営みの一端を窺う事が出来ました。これらの遺物を観ておりますと、その一つひとつから縄文の人々の掌のぬくもりや息遣いが伝わってくる様に思われます。そして同時に、「現代」に生きる者として、先人達の残した貴重な文化遺産を後世へ引継いでいかねばならないという責務に、身の引締まる思いがいたします。

最後に、発掘調査の実施を快く承諾して下さった土地所有者の清水徳重氏を始めとする関係者の皆様に、心よりの感謝を申し上げ、序といたします。

平成元年3月

深谷市教育委員会
教育長 鳥塚 恵和男

例 言

1. 本書は、埼玉県深谷市上野台字御屋敷2,334所在遺跡における、個人住宅の建築に伴う発掘調査報告書である。事業名は、小台遺跡第5次発掘調査とした。
2. 発掘調査は、昭和63年度事業として国及び県の補助金交付を受け、深谷市教育委員会が主体となって実施した。現地発掘調査期間は平成元年2月14日～3月3日、調査面積は約200㎡である。
3. 本書の執筆、編集及び写真撮影は、古池晋禄が行なった。
4. 図版中の北は、座標北を示す。また報文中に示した遺構に関する数値は、原則として確認面においてのものである。
5. 出土遺物は、深谷市教育委員会が保管している。
6. 本書の作成にあたり、國學院大学大学院の粕谷崇氏より多大の御尽力を賜った。

発掘調査の組織

調査主体者 深谷市教育委員会 教育長 鳥塚恵和男
教育次長 坂本幸一郎

事務局 深谷市教育委員会社会教育課 課長 飯島光武
課長補佐 橋本征彦
文化財保護係長 田中島 功
主任 関根広子
主事 澤出晃越

調査担当者 深谷市教育委員会社会教育課主事補 古池晋禄

調査補助員 町田明弘（埼玉大学学生）

調査参加者 稲付 茂、大塚寿一、前田 肇、八木慶一郎、小川和之、青山絵里、井村雄二、三瓶明子（以上埼玉大学学生）、河合詔子、久米紀子、小沼和子、砂田伊久子、都築百合子、細川ケイ、水野祥代、本橋玲子、森 光代、渡辺哲子

目 次

序	
例 言	
目 次	
I. 発掘調査に至る経緯	1
II. 遺跡の地理的、歴史的環境	1
III. 調査の概要	3
IV. 遺構と出土遺物	
1. 遺 構	5
2. 遺物の出土状態	5
3. 出土遺物	
(1) 出土土器	9
(2) 出土石器	33
V. 結 語	37

写真図版

挿 図 目 次

第1図 遺跡位置図 (1/40,000)	第11図 II類土器実測図 (5) (1/3)
第2図 調査区周辺地形図 (1/5,000)	第12図 III類土器実測図 (1/3)
第3図 調査区全測図 (1/120)	第13図 IV類土器実測図 (1) (1/3)
第4図 土層断面図 (1/80)	第14図 IV類土器実測図 (2) (1/3)
第5図 B区内出土遺物分布図 (1/60)	第15図 IV類土器実測図 (3) (1/3)
第6図 I類土器実測図 (1/3)	第16図 V・VI類土器実測図 (1/3)
第7図 II類土器実測図 (1) (1/3)	第17図 VII・VIII類土器実測図 (1/3)
第8図 II類土器実測図 (2) (1/3)	第18図 石器実測図 (1) (1/3)
第9図 II類土器実測図 (3) (1/3)	第19図 石器実測図 (2) (1/3・1/4)
第10図 II類土器実測図 (4) (1/3)	第20図 石器実測図 (3) (原寸)

I. 発掘調査に至る経緯

深谷市は埼玉県北部に位置し、利根川を挟んで群馬県と接する地域に広がっている。その歴史は古く、室町時代には上杉房憲の築城と伝えられる深谷城の城下町として、また江戸時代には中山道や利根川水運の拠点といった交通の要衝として繁栄していた事はよく知られている。近代日本経済界の偉人、渋沢栄一の生地としても有名であり、歴史的色彩の豊かさを物語っている。その一方、全国的にも有名な深谷ネギに代表される農産物の生産高が県内第一位を誇るなどの面も持っている。最近では交通機関の発達に伴い、工業団地の形成やベッドタウン地域としての住宅の増加といった急速な都市化が進行しており、本市の新たな一面も現われつつある。

小台遺跡の所在する深谷市大字上野台地内は、深谷駅より徒歩約20分の市街化区域であるという状況も手伝って、この様な傾向が最も顕著に現われている地域の一つである。昭和32年3月に深谷市教育委員会による第1次発掘調査が実施されて以来（註1）、昭和53年8月に都市計画街路南大通り線建設に伴って深谷市小台遺跡調査団によって実施された第2次発掘調査（註2）、昭和61年11月～12月の個人住宅建設に伴う第3次発掘調査（註3）、昭和63年5月～7月のマンション建設に伴う第4次発掘調査（註4）と、小台遺跡の発掘調査の殆どがこの都市化の進行に伴って実施されてきた。そしてこれらの発掘調査の結果、本遺跡が縄文時代中期後半～後期初頭の大集落跡である事が明らかになりつつある。

今回の第5次発掘調査は、平成元年2月、深谷市大字上野台字御屋敷2,344番地に個人住宅建設計画がある事が明らかになったのを受け、市教育委員会が主体となって行われたものである。当該地は第3次及び第4次発掘調査地域に近接する立地状況と、中期後半～後期初頭の遺物が地表面において多量に採集される現状から、遺物包蔵地と推定された。このため、市教育委員会は昭和63年度文化財保存事業の一環として発掘調査の実施を決定し、埋蔵文化財発掘調査通知書（平成元年2月9日付深教社発第122号）を提出、準備に入った。

註1 小沢国平 「深谷市小台遺跡調査報告書」 深谷市教育委員会 1957

註2 蛭間真一ほか 「小台遺跡」 深谷市小台遺跡調査団 1979

註3 澤出晃越 「小台遺跡（第3次）」 埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 第16集 1987

註4 現在（平成元年3月）未刊行

II. 遺跡の地理的・歴史的環境

深谷市の地形を概観すると、ほぼ南北に二分する事ができる。北部を占めるのが、利根川中流低地を形成する妻沼低地であり、南部を占めるのが、荒川扇状地の浸食面段丘である櫛挽台地である。この両者は、市内中央部をほぼ東西に走るJR高崎線付近で接している。このうち、櫛挽台地は高位面を形成する櫛挽面（武蔵野II面に比定）と、低位面を形成する寄居面（御稜威ヶ原面、立川面



- 1、深谷町遺跡 2、桜ヶ丘組石遺跡 3、萱場松原遺跡 4、小台遺跡 5、出口遺跡
6、島之上遺跡 7、前畠遺跡

第1図 遺跡位置図 (1/40,000)

に比定)の両段丘面に分ける事が可能である(註1)。両段丘面と低地の標高は、境界面付近で榎挽面が40~50m、寄居面が32~35m、妻沼低地で30~35mとなっている。両段丘面は、この付近で妻沼低地との比高差5~20m(榎挽面)、2~5m(寄居面)をもって接し、荒川扇状地の扇頂である寄居付近(標高約100m)に向かって緩やかに上っている。榎挽面北東端付近に残丘状の小丘陵である仙元山(標高98m)が存在するものの、台地上面としては、一般に平坦であるという事ができる。

小台遺跡は上述の榎挽面上、北東端部を流れる唐沢川によって南北に開析された谷沿いに位置し、深谷市大字上野台の東端部、JR深谷駅より南方約1.2kmの地域に、20ha以上に及ぶ範囲をもって広がっている。本次発掘調査地は、現在の唐沢川より北西に約260mの地点に所在している。第3次及び第4次発掘調査地も含めてこの地域は、本遺跡のほぼ北限に位置している。標高は約56mである。

深谷市における縄文時代遺跡の分布状況を見てみると、早期及び前期の遺跡が若干数確認されており、これが現時点における本市内所在縄文時代遺跡の上限と見られる。しかし榎挽台地寄居面末端部に位置する東方城跡の発掘調査(註2)において尖頭器が検出されており、草創期まで遡る遺跡存在の可能性も今後考えられる。

中期になると遺跡数は急増し、前島遺跡、島之上遺跡、出口遺跡などの大規模な集落が出現している(註3)。小台遺跡も含めこれらの遺跡は、中期後半から後期前半にかけての時期に榎挽面上標高70m付近から北端部にかけての、上唐沢川、押切川、戸田川、唐沢川などによって南北に開析された谷筋に集中して存在している。この状況については、所謂扇端湧水に関連するものとして考えられている(註4)。しかし最近になって、深谷町遺跡(註5)など妻沼低地内における同時期の遺跡数も増加しつつあり、今後これらの新たな発見例も含めた検討が必要となろう。

註1 堀口万吉 『II 埼玉県の地形と地質』「埼玉県史 別編3 自然」 埼玉県 1986

註2 昭和61年8月~9月に発掘調査が行われた。

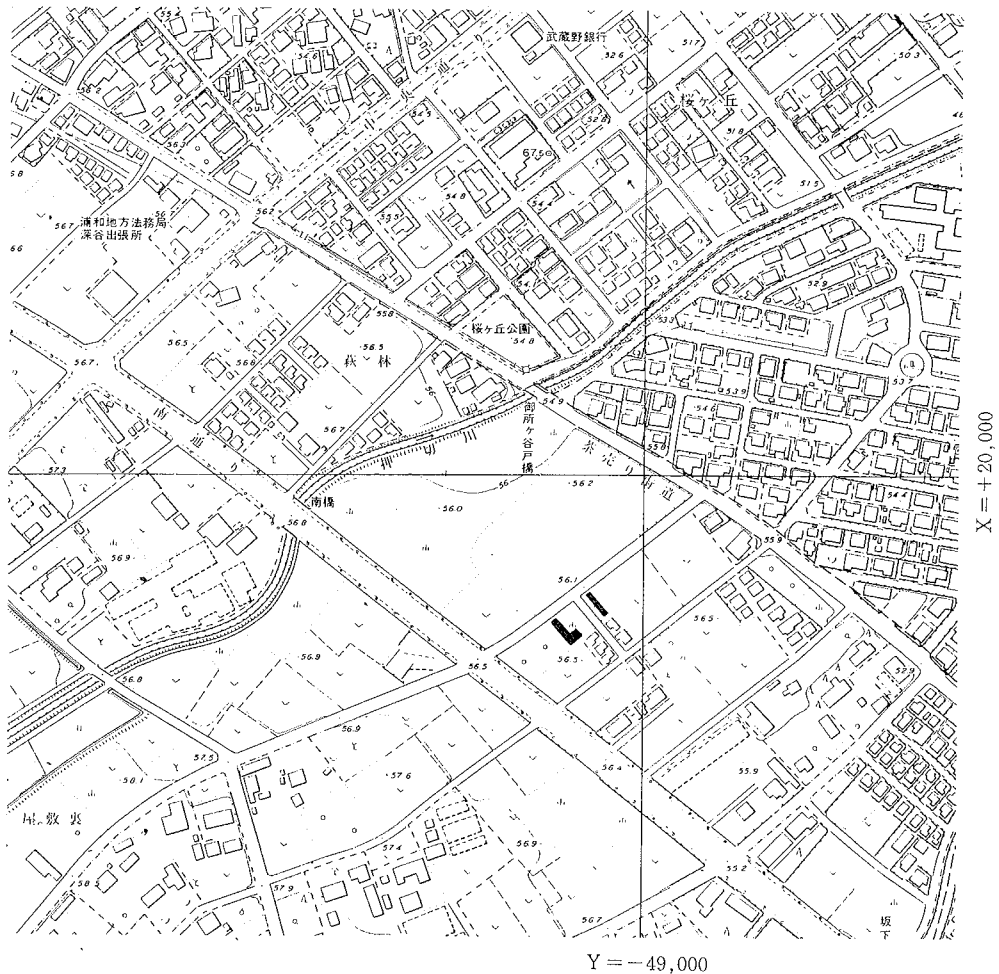
註3 横川好富ほか「前島・島之上・出口・芝山」 埼玉県教育委員会 1977

註4 柿沼幹夫 『II 立地と環境』 註3に所収。

註5 澤出晃越ほか 「深谷町遺跡」 埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 第9集 1985

III. 調査の概要

平成元年2月13日、パワーショベルによって表土を除去。14日、調査区二箇所をA区・B区とし、A区の精査より調査を開始する。A区内は既に地山が露出していた為、遺構プランの明確でない箇所A1トレンチ、A2トレンチを設定して作業を進めた。その結果、21日までには土壌三基と、南西方向への落込みを確認する事ができた。但し、土壌一基を除いては、全て重機による掘削によって著しく攪乱を受けていた。同日、A区全域の平板測量を行うと同時に、各遺構及び調査区全景



第2図 調査区周辺地形図（1/5,000）

の写真撮影を行ない、翌22日、A区における調査を終了した。

B区に関しては21日より精査を開始する。その結果、調査区の西半部全域及び東半部の一部が攪乱を受けている事が判明した。このため、東半部の比較的攪乱を受けていない部分を中心としてB1トレンチ及びB2トレンチを設定し、調査を開始した。両トレンチ内には、ほぼ全域にわたって遺物が包蔵されているのが確認されたため、21、27、28日及び3月1日、3日の五回にわたる出土遺物分布状態の平面図作成を併行して調査を進めた。その結果、地表下20m~70mを中心とした遺物包含層が形成されているのを確認した。B2トレンチでは3月2日に旧河床面を確認し、B1トレンチでは、3日に小規模な埋没谷を確認する。その後、両トレンチの完掘状況及び全景の写真撮影を行ない。B区全域の平板測量を行なう。そしてこれと同時にA・B区全体の平板測量及び写真撮影を行ない、器材を撤収して全調査を終了した。

IV. 遺物と出土遺物（第3図～第20図）

1. 遺構（第3図、第4図）

調査区内はA・B両区ともに攪乱が激しく、遺構として確認し得たのは、A区内における三基の土壌のみであった。

○第1号土壌

A区西南隅に位置する。遺物包含層を切って構築されている。大半が調査区外になるものと思われるが、検出範囲の大半が重機による掘削によって破壊されていたため、規模及び平面プラン等は不明である。底面は中央部から壁面にかけて緩やかに上り、壁面は垂直に近い角度で立ち上がっている。深さは最深部で約30cm、立ち上がりで約20cmを測る。

○第2号土壌

A区東部に位置する。第3号土壌を切る形で構築されている。径は110cm～115cm、平面プランは不整円形を呈する。深さは約18cmを測る。壁は緩やかに立ち上がっている。

○第3号土壌

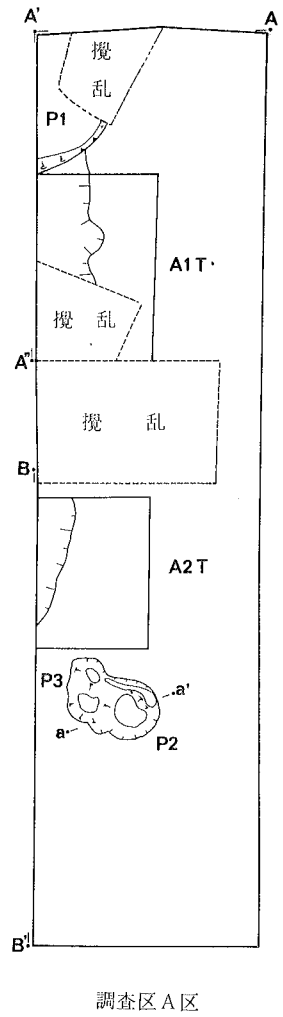
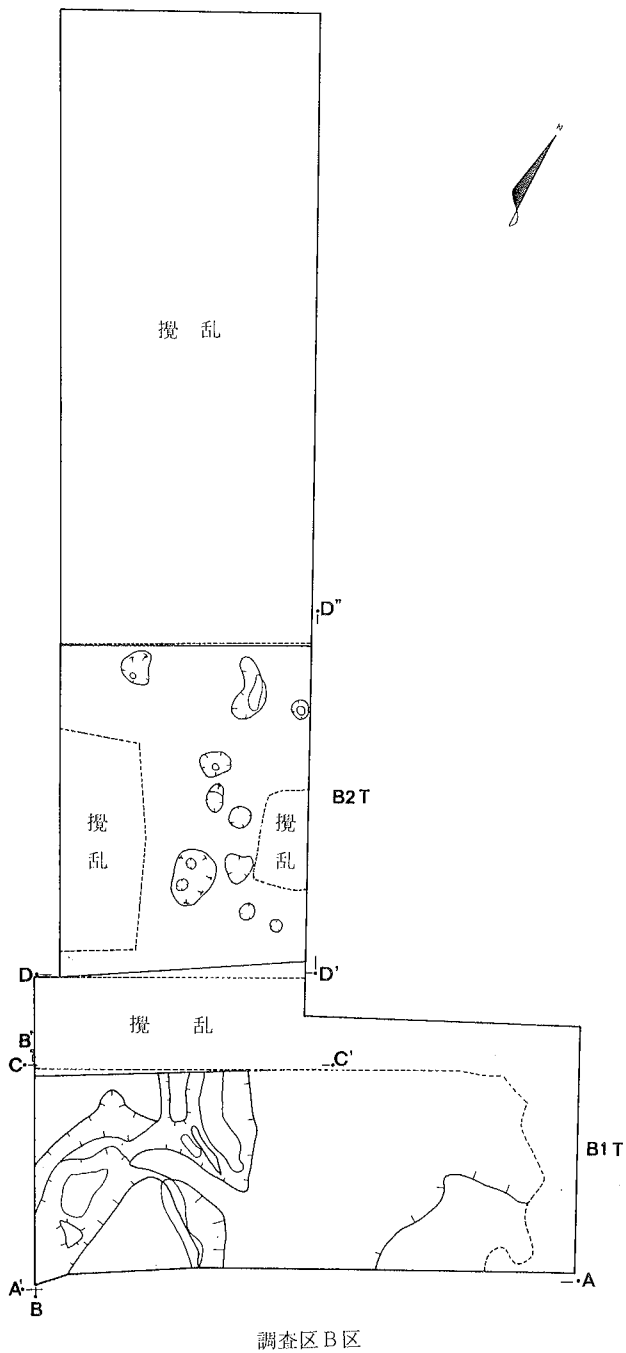
第2号土壌に切られている。長軸105cm、短軸50cm前後、平面プランは不整楕円形を呈する。深さは約16cmを測り、壁は外湾しつつ立ち上がる。

2. 遺物の出土状態（第4図、第5図）

今回の調査における出土遺物は、殆どがB区からのものである。そこで本項では調査時に作成した平面図を基に、遺物の出土状態の概要を観る事とした（第5図）。この結果、出土遺物はB1トレンチ西半部及びB2トレンチ南端部に集中している事が明らかとなった。B1トレンチ西半部には小規模な埋没谷が走っており、B2トレンチ南端部も攪乱によって分断されてはいるもののこれに連続する地域である事や、旧河床面の上、緩やかながら低位へ傾斜しているB2トレンチ北半部にはこの様な集中が認められない事から考えると、この状態が埋没谷への流込みに起因するものと理解できよう。

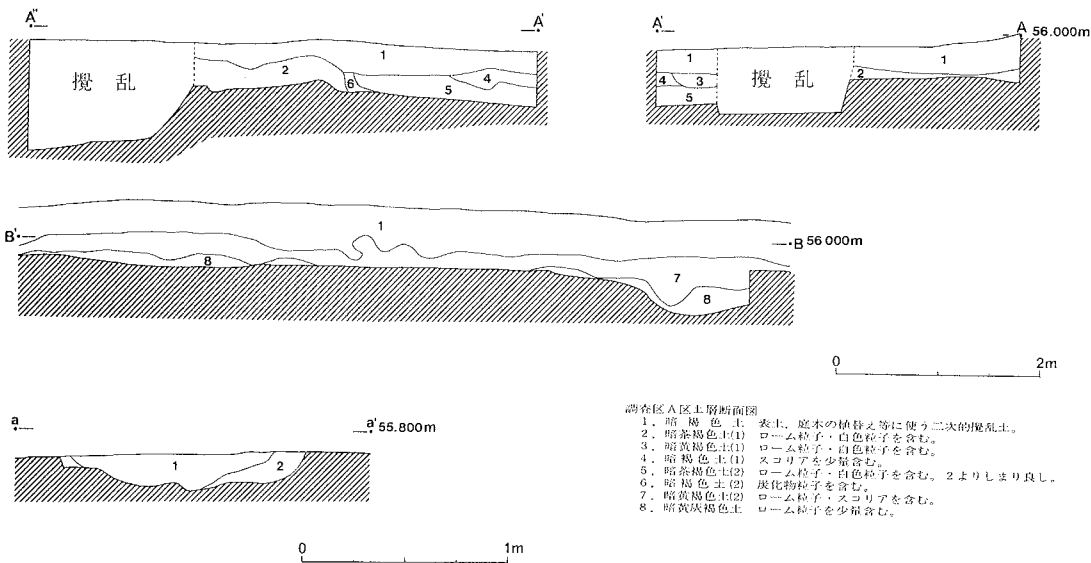
また、この流込みに起因する遺物包含層が厚さ20cm～60cmにわたって確認されている。ここでもやはり埋没谷における遺物集中が認められるが、全体的に地山の傾斜に沿う形で形成されており、流水の影響下にあった事を端的に表している。但し、この包含層は両トレンチにほぼ共通して地山より20cm～30cm高位において形成されており、埋没谷の形成から包含層の形成開始までにある程度の時間幅が存在していた事が推定できよう。更に、この包含層の位置を土層断面図（第4図）と対照させると、これが黒色土層及び暗黄褐色土層の二層にわたるものである事が分かる（註）。しかし出土遺物の分布状態を観ると、この堆積が連続した短期間に進行したと考えられる。

註 垂直分布図に関しては土層断面図と対応させる形で作成したが、攪乱による土層或いは地山の掘削により、かなりの不備が生じている。記して御容赦を乞う次第である。



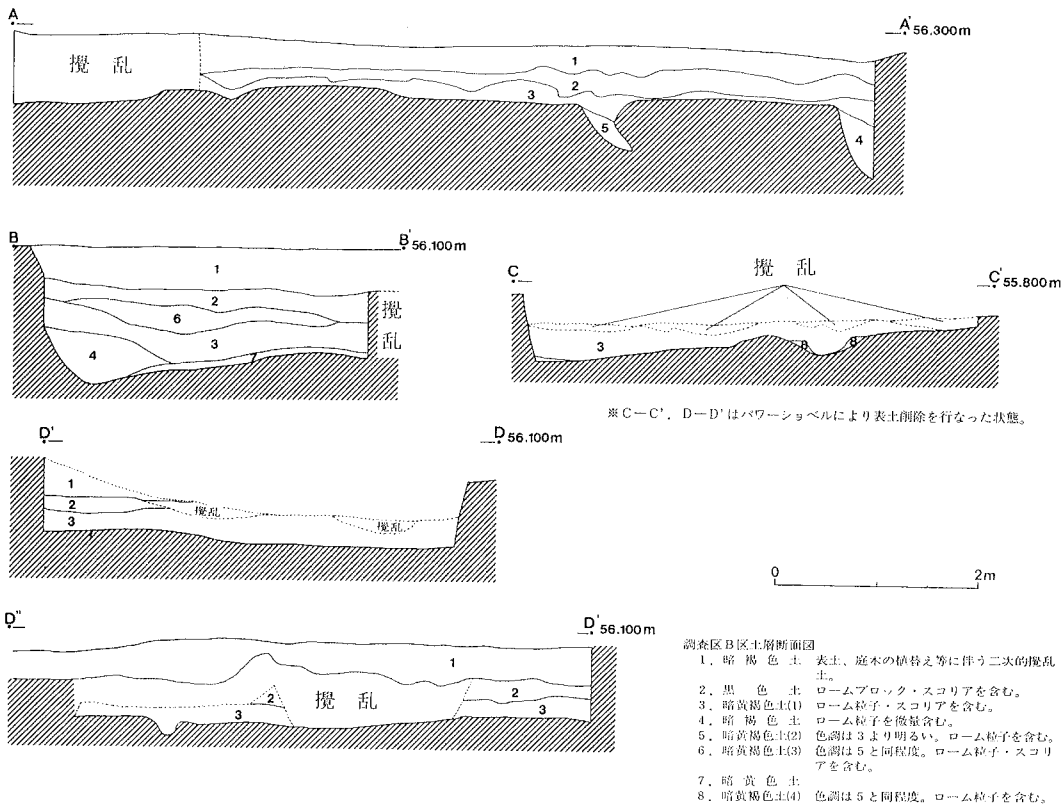
0 4m

第3図 調査区全測図 (1/120)



P2・P3土層断面図

1. 暗茶褐色土 ロームブロックを多量、白色粒子・スコリアを少量含む。粘性強い。しまり良好。
2. 暗黄褐色土 暗茶褐色土の一部に粗く含む。白色粒子を少量含む。粘性やや有り。しまりやや悪い。



第4図 調査区土層断面図 (1/80)



第5図 出土遺物分布状態図（調査区B区拡大）（1/60）

3. 出土遺物（第6図～第20図）

今回の調査で出土した遺物は、A・B両区合わせてコンテナ（545×336×150mm）10箱分である。しかしその大部分はB区包含層中より出土したものである事や、A区内出土遺物も包含層或いは攪乱中よりのものが殆どで、遺構内出土として明確に判別し得る遺物が極めて少量であるといった理由により、本項ではこれらを一括して扱うものとした。このため、出土調査区・遺構に関しては、各遺物毎に記述するものとする。

(1) 出土土器（第6図～第17図）

出土した土器は、遺物包含層を主体とする性格上、小破片が殆どであり、器形等を窺い得る資料は少量であった。しかしその内容は縄文時代前期末葉から後期前半にわたるものであったため、便宜上、下記の分類に従って記述を行なった。

- I類 加曾利E式以前の土器
- II類 加曾利E式土器
- III類 その他の土器群（中期後半）
- IV類 称名寺式土器
- V類 堀之内式土器
- VI類 その他の土器群（後期以降）
- VII類 分類不能な底部
- VIII類 土製品

○ I類（第6図）

1、2は前期諸磯式に属するものである。

1. 底部破片。推定径約8.5cm。横走する浮線文が施されている。胎土は緻密。焼成良好。色調は暗橙黄色を呈する。B1トレンチ出土。

2. 爪形文が施される。胎土は緻密で焼成良好。色調は黄灰白色を呈する。A区内P1出土。

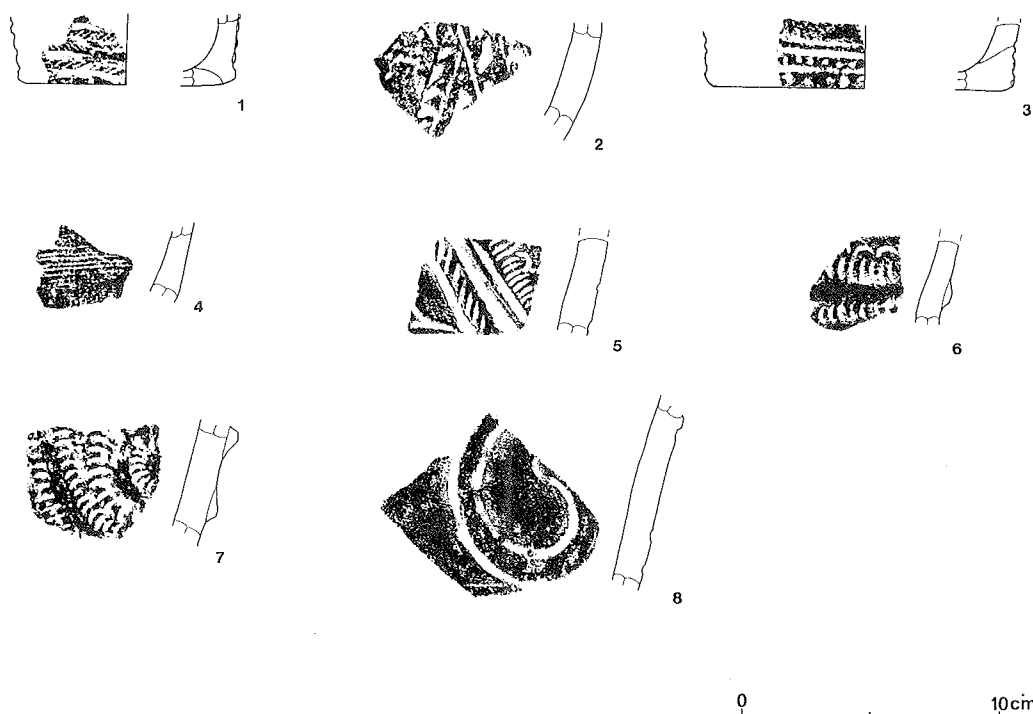
3. 底部破片。推定径約12cm。三段の沈線が横走し、二段目と三段目の間に径約2mmの明瞭な刺突が、三段目下位に径約4mmの浅い刺突が施される。胎土は粗い。焼成良。色調は黄橙色を呈する。B1トレンチ出土。前期に属するものと思われる。

4. 横走する条線が施される。胎土は緻密。焼成良好。色調は褐色を呈する。B区出土。前期に属するものと思われる。

5～7は勝坂式に属するものである。

5. 連続刺突の施される隆帯によって区画された空間内を、沈線、爪形文、半截竹管文によって充填している。胎土緻密。焼成良好。色調は暗赤褐色を呈する。B1トレンチ出土。

6. 隆帯によって区画された空間を、爪形文、半截竹管文により充填している。胎土は緻密。焼成良好。色調は暗赤褐色を呈する。B2トレンチ出土。



第6図 I類土器実測図(1/3)

7. 隆帯によって表現された下向する渦巻文内に、隆帯両側縁部に併走する形で施された爪形文を充填している。胎土は緻密。焼成良好。色調は黄橙色を呈する。B区出土。

8. 沈線によって表現した下向する渦巻文以外の面を研磨し、沈線間の区画を隆帯状に表現している。胎土は緻密。焼成良。色調は暗黄灰色を呈する。B1トレンチ出土。本資料は阿玉台式に属する可能性がある。

○II類(第7図1～第11図85)

1～31までは加曾利E式初頭よりE I式までに属するものであろう。

1～14は口縁部破片を一括した。

1. 口唇部に平行沈線が横走り、口縁部は中央部を沈線化した隆帯によって区画され、区画内には沈線による渦巻文を充填している。胎土は粗い。焼成良。色調は黄橙色を呈する。B2トレンチ出土。

2. 口唇部は外反気味に肥厚、直下に隆帯が横走る。口縁部には隆帯による渦巻文が表現されるものと思われる。全体的によく研磨されている。胎土は緻密。焼成良好。色調は暗赤褐色を呈する。B区出土。

3. 口唇部はほぼ直立し、口縁部には三段にわたって隆帯が横走る。隆帯間によく研磨されている。胎土は粗い。焼成良。色調は暗黄灰色を呈する。B区攪乱内出土。

4. 口唇部直下に隆帯を横走させ、口唇部と一体整形を施している。口縁部には撚糸文Lを地文として、隆帯と沈線を用いた文様が描かれている。胎土は粗い。焼成良好。色調は暗黄橙色を呈する。B区出土。

5. 口唇部以下に隆帯による懸垂文及び蛇行懸垂文を貼付し、その後RL縄文を施文している。胎土は粗い。焼成良。色調は暗赤褐色を呈する。B1トレンチ出土。

6. 隆帯に挟まれた口縁部文様帯に隆帯による杵状文を貼付し、その後区画内にRL縄文を施文している。胎土は緻密。焼成良好。色調は赤褐色を呈する。B1トレンチ出土。

7. 隆帯に挟まれた口縁部文様帯にRL縄文を地文として施文し、隆帯による円形（渦巻文か？）の貼付が施されている。口縁部文様帯直下より隆帯による二条の懸垂文が施されている。胎土は緻密。焼成良好。色調は暗赤褐色を呈する。B区攪乱内出土。

8. 口縁部文様帯内に平行沈線を地文として隆帯による渦巻文や懸垂文が貼付されている。土器表面の剥離が顕著に認められる。胎土は粗い。焼成良好。色調は黄褐色を呈する。B1トレンチ出土。

9. 口縁部文様帯に、RL縄文を地文として、隆帯の貼付と沈線による整形で渦巻文等が表現されている。胎土は粗い。焼成良好。色調は暗茶褐色を呈する。調査区内表面採集。

10. 口唇部直下に横走する隆帯より、隆帯による二条の懸垂文が貼付されている。RL縄文を地文とする。胎土は粗い。焼成良好。色調は暗赤褐色を呈する。B1トレンチ出土。

11. 隆帯によって区画された文様帯内に、平行沈線が施文されている。胎土は緻密。焼成良好。色調は暗黄褐色を呈する。A1トレンチ出土。

12. 隆帯によって区画された文様帯内に、棒状工具によると思われる太い平行沈線を施文する。胎土は緻密。焼成良好。色調は赤橙色を呈する。調査区内表面採集。

13. RL縄文を地文として、隆帯による弧線文、蛇行懸垂文等が貼付される。胎土は粗い。焼成良好。色調は暗橙褐色を呈する。A2トレンチ出土。

14. 撚糸文Lを地文として、隆帯による弧線文等が貼付されている。胎土は緻密。焼成良。色調は暗橙色を呈する。B2トレンチ出土。

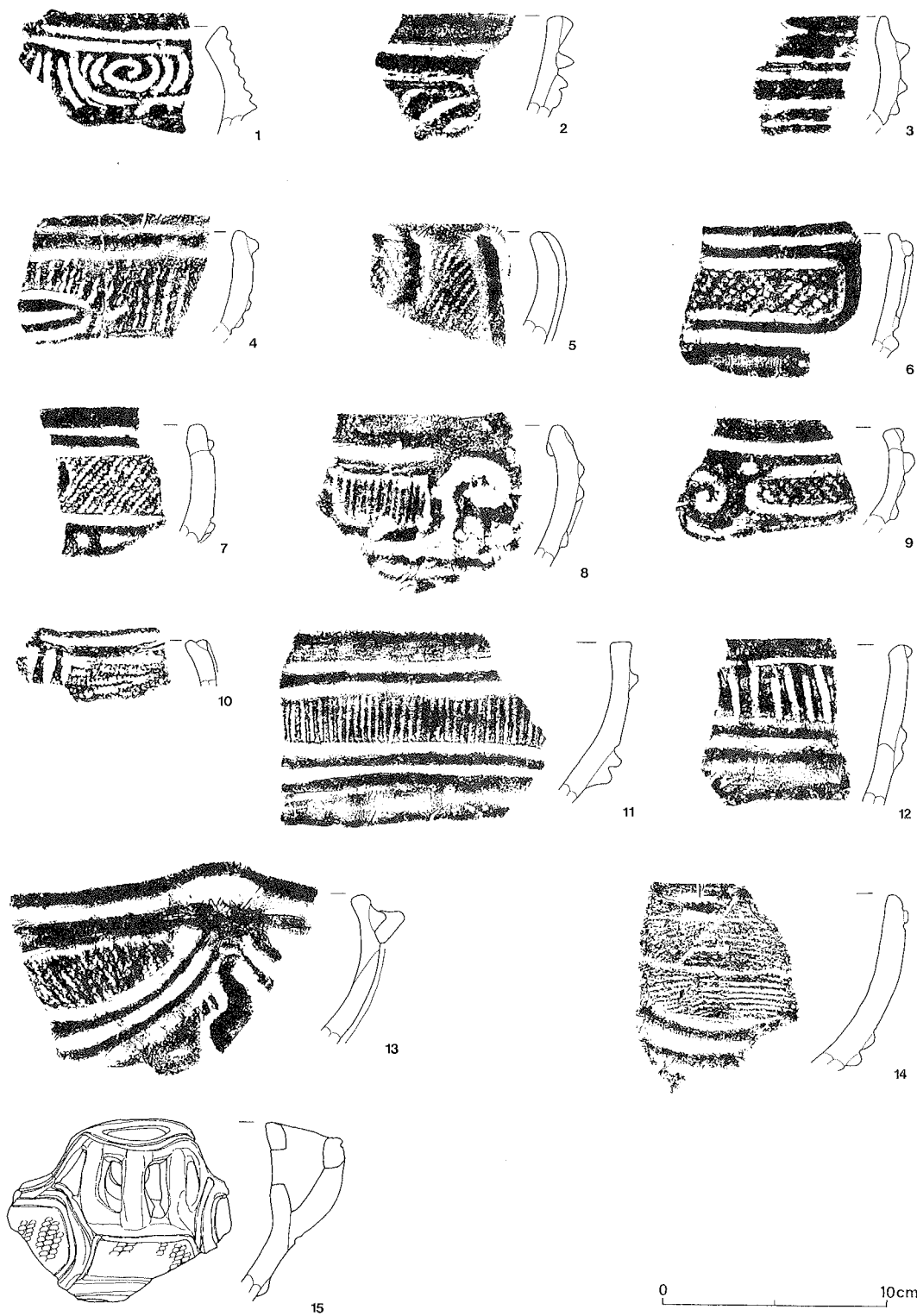
15～17は把手部分である。

15. 隆帯による区画内にRL縄文を施文し、沈線によって区画内を更に取り巻く。内部が中空で五脚で支持されている把手を持つ。胎土は緻密。焼成良好。色調は暗黄橙色を呈する。調査区内表面採集。

16. 環状に把手を成形後、側面には中央部を沈線化した隆帯の重ね合わせを描出し、外面から頂部にかけて、同様に短い隆帯の組み違いによる鎖状文を描出している。把手内面が円孔状にくり抜かれ、把手全体が三脚で支持される状態となっている。全体的に良く調整されている。胎土は緻密。焼成良。色調は黒褐色を呈する。B2トレンチ出土。

17. 環状に把手を成形後、両側面及び外面上半部に沈線を描出する。胎土はやや粗い。焼成良好。色調は明黄灰色を呈する。A区内P1出土。

18～31は頸部・胴部及び底部破片を一括した。



第7图 II類土器実測図 (1) (1/3)

18. 頸部破片である。口縁部とは隆帯で、胴部とは平行沈線で区画されている。頸部には撚糸文Lを横位に粗く、胴部には同じく撚糸文Lを縦位に施文している。胎土は緻密。焼成良好。色調は暗赤褐色を呈する。A1トレンチ出土。

19. 頸部及び胴部を、二条の隆帯で区画し、胴部には同じく隆帯による懸垂文が垂下している。頸部は平滑に調整されており、無文である。胎土はやや粗く、焼成は良好。色調は暗赤橙色を呈する。B2トレンチ出土。

20. 横走する二条の隆帯以下にRL縄文を施文し、隆帯による二条の懸垂文を貼付して区画している。胎土は粗い。焼成良好。色調は暗橙褐色を呈する。B2トレンチ出土。

21. RL縄文を施文後、隆帯による区画及び懸垂文を貼付している。胎土は緻密。焼成良好。色調は暗赤橙色を呈する。調査区内表面採集。

22. 太い撚糸文Lを施文後、隆帯による区画及び懸垂文を貼付する。胎土は緻密。焼成良好。色調は明黄橙色を呈する。A区出土。

23. 撚糸文Lを地文として、二条一組の隆帯による懸垂文が貼付されている。胎土は緻密。焼成良好。色調は明黄灰色を呈する。A1トレンチ出土。

24. 撚糸文Lを地文として、二条の隆帯による懸垂文が貼付されている。胎土は粗い。焼成良好。色調は明黄橙色を呈する。A1トレンチ出土。

25. RL縄文を地文として、隆帯による蛇行懸垂文が貼付される。胎土は緻密。焼成良好。色調は暗黄褐色を呈する。B区攪乱内出土。

26. 細かな撚糸文Lを地文として、隆帯による蛇行懸垂文が貼付される。胎土は緻密。焼成良好。色調は赤橙色を呈する。B区出土。

27. 胴部下半部である。撚糸文Lを地文として、二条の隆帯による懸垂文が貼付される。胎土は緻密。焼成良好。色調は赤橙色を呈する。A2トレンチ出土。

28. RL縄文を地文として、隆帯による二条一組の懸垂文と一条の蛇行懸垂文が貼付されている。胎土は粗い。焼成良好。色調は明黄色を呈する。A2トレンチ出土。

29. 撚糸文Lと思われる縄文を地文として、沈線による意匠文が描出されている。胎土は粗い。焼成良好。色調は暗黄茶褐色を呈する。B2トレンチ出土。

30. RL縄文を地文として、沈線による意匠文が施されている。胎土は緻密。焼成良好。色調は明黄褐色を呈する。B1トレンチ出土。

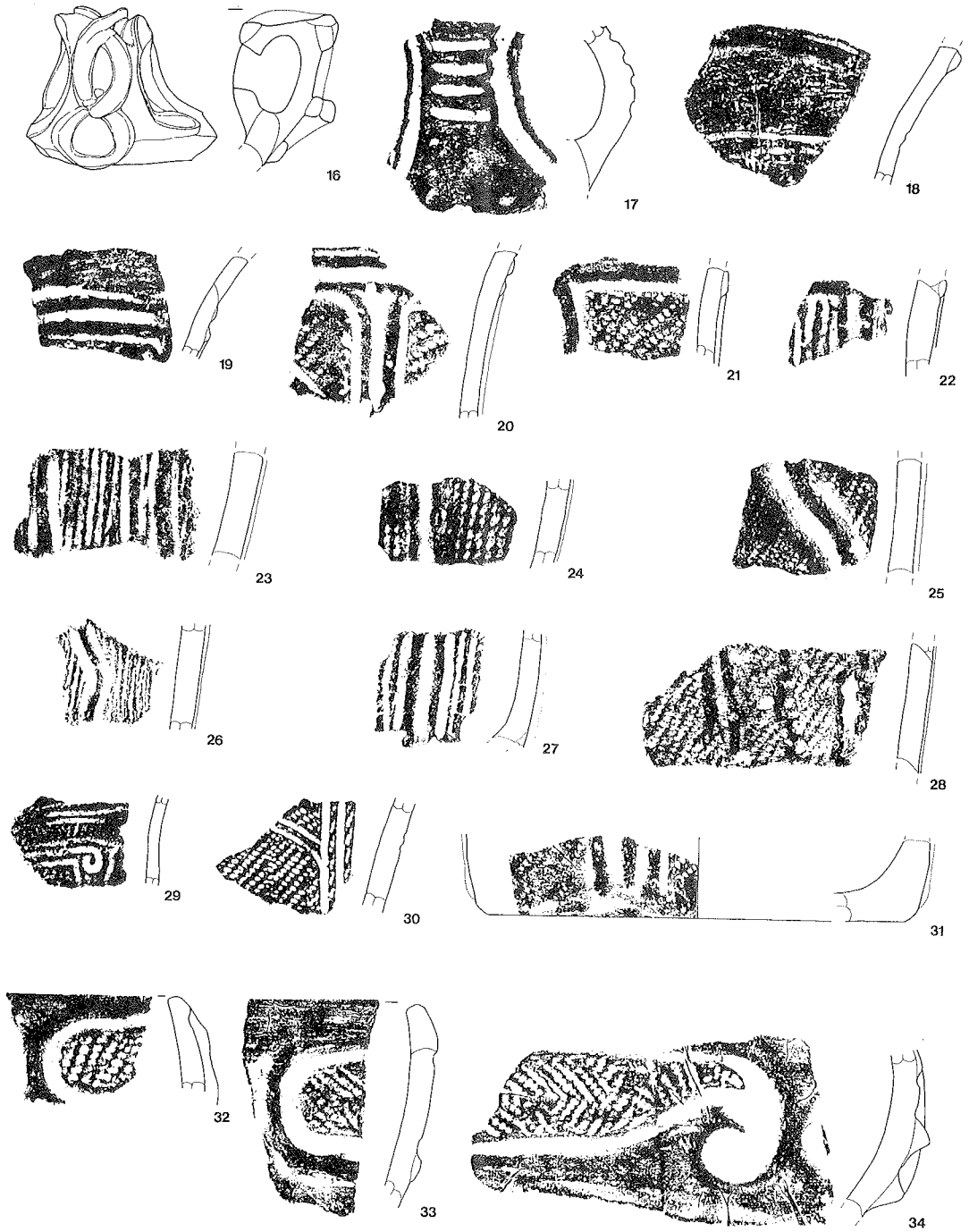
31. RLと思われる縄文を地文として、三条一組の隆帯による懸垂文が貼付されている。胎土は粗い。焼成良好。色調は明黄橙色を呈する。B1トレンチ出土。

32～57は、加曽利EII式よりEIII式に属するものであろう。

32～39は口縁部破片を一括した。

32. 隆帯貼付後、沈線にて区画を施し、区画内にはRL縄文が施文されている。胎土は緻密。焼成良好。色調は暗黄橙色を呈する。B1トレンチ出土。

33. 隆帯貼付後、沈線にて区画を施す。区画内にはLR縄文が施文されている。全体的によく研磨されている。胎土は緻密。焼成良好。色調は暗黄褐色を呈する。B1トレンチ出土。



第8图 II類土器実測図 (2) (1/3)

34. 隆帯貼付整形後、沈線にて口縁部文様帯を描出する。区画内にはR L縄文が三段にわたって羽状に施文されている。胎土は緻密。焼成良好。色調は明黄橙色を呈する。B 1トレンチ出土。

35. 口唇部に平行沈線が横走り、直下にR L縄文が施文される。胎土は粗い。焼成良。色調は暗赤橙色を呈する。調査区内表面採集。

36. 口縁部に平行沈線が横走り、直下にR L縄文が施文される。胎土は粗い。焼成良好。色調は暗黄灰色を呈する。B 1トレンチ出土。

37. 波状口縁下に太い沈線が横走り、文様帯内には同様の太い沈線による区画後R L縄文が充填されている。内外面共に良く調整されている。胎土は緻密。焼成良好。色調は暗茶褐色を呈する。B 1トレンチ出土。

38. 波状口縁下に沈線による楕円区画を持ち、内部に横走るハ字状列点が刺突される。区画の間には二箇所以上の円形刺突が縦位に施されるものと思われる。胎土はやや粗い。焼成良。色調は暗黄橙色を呈する。B区出土。

39. 波状口縁下に沈線による楕円区画を持ち、内部に横走るハ字状列点が刺突される。区画間には円形刺突が縦位に2箇所施されている。胎土は粗い。焼成良好。色調は暗赤橙色を呈する。B 1トレンチ出土。

40～57は頸部、胴部及び底部破片を一括した。

40. 浅鉢の頸部である。隆帯貼付後、沈線にて区画を描出。区画内にR L縄文を施文する。胎土は緻密。焼成良。色調は暗黄橙色を呈する。調査区内表面採集。

41. 口縁部文様帯は隆帯によって区画がなされ、内部にR Lと思われる縄文が施文されている。胴部文様帯にはR L縄文を地文として沈線による懸垂文が二条施されている。胎土はやや粗い。焼成良好。色調は明茶褐色を呈する。B 2トレンチ出土。

42. 口縁部文様帯は隆帯により区画され、内部にR Lと思われる縄文が施文されている。胴部には撚りの弱いR L縄文を地文として二条の沈線による懸垂文が施され、沈線間が磨消されている。胎土は緻密。焼成良好。色調は暗赤橙色を呈する。A 1トレンチ出土。

43. 隆帯による文様帯区画以外に、L Rと思われる縄文を地文として、二条の太い沈線による懸垂文が施され、沈線間が磨消される。胎土はやや粗い。焼成良。色調は明黄褐色を呈する。B 1トレンチ出土。

44. 隆帯による文様帯区画以外に、L Rと思われる縄文を地文として施し、二条の沈線による懸垂文を施文後、沈線間を磨消している。内面の過半が剥離している。胎土は粗い。焼成良。色調は明黄橙色を呈する。B 1トレンチ出土。

45. 隆帯及び沈線による区画文形成後、R L縄文を区画内に施文している。胎土は緻密。焼成良。色調は暗褐色を呈する。B 1トレンチ出土。

46. R L縄文を地文として、横走る平行沈線及び蛇行懸垂文が描出される。胎土はやや粗い。焼成良好。色調は暗茶褐色を呈する。B 1トレンチ出土。

47. R L縄文を地文として、沈線による懸垂文が描出される。胎土はやや粗い。焼成良好。色調は暗黄褐色を呈する。B区出土。



第9图 II类土器实测图 (3) (1/3)

48. 撚糸文Lを地文として、三条一組の沈線による懸垂文が施される。胎土はやや粗い。焼成良好。色調は暗茶褐色を呈する。B区出土。

49. RL縄文を地文として、三条一組の沈線による懸垂文が施される。胎土は粗い。焼成良好。色調は暗黄色を呈する。調査区内表面採集。

50. RL縄文を地文として、沈線による二条一組の懸垂文及び蛇行懸垂文が描出される。懸垂文間は磨消されている。胎土は粗い。焼成良好。色調は暗黄色を呈する。B1トレンチ出土。

51. RL縄文を地文として、沈線による二条一組の懸垂文が描出され、懸垂文間が磨消されている。胎土は粗い。焼成良好。色調は暗黄色を呈する。調査区内表面採集。

52. RL縄文を地文として、沈線による懸垂文が描出され、磨消しが施されている。胎土は粗い。焼成良好。色調は明橙黄色を呈する。A1トレンチ出土。

53. LR縄文を地文として、沈線による懸垂文が描出され、磨消しが施されている。胎土は粗い。焼成良好。色調は明橙黄色を呈する。B1トレンチ出土。

54. RL縄文を地文として、沈線による懸垂文が描出され、磨消しが施されている。胎土は粗い。焼成良好。色調は暗赤橙色を呈する。B1トレンチ出土。

55. RL縄文を地文として二条一組の沈線による懸垂文を描出し、懸垂文間を磨消している。胎土は粗い。焼成良好。色調は明黄橙色を呈する。B区出土。

56. L及びRの異条縄文を地文として、二本一組の沈線による懸垂文を描出し、懸垂文間を磨消している。胎土はやや粗い。焼成良好。色調は暗赤橙色を呈する。B1トレンチ出土。

57. 底部破片である。RL縄文を地文として沈線による懸垂文が描出されている。胎土は粗い。焼成良好。色調は暗黄橙色を呈する。B2トレンチ出土。

58～85は加曾利EⅣ式に属するものと思われる。

58～76は口縁部破片を一括した。

58. 口縁部に隆帯を横走させ、以下に沈線による区画を描出する。隆帯上及び区画内にLR縄文を施文・充填している。胎土はやや粗い。焼成良好。色調は暗橙黄色を呈する。B1トレンチ出土。

59. LR縄文を地文として、口縁部に横走る隆帯を、胴部に二条一組の垂下する隆帯を貼付し、調整が施されている。胎土はやや粗い。焼成良好。色調は暗赤橙色を呈する。B1トレンチ出土。

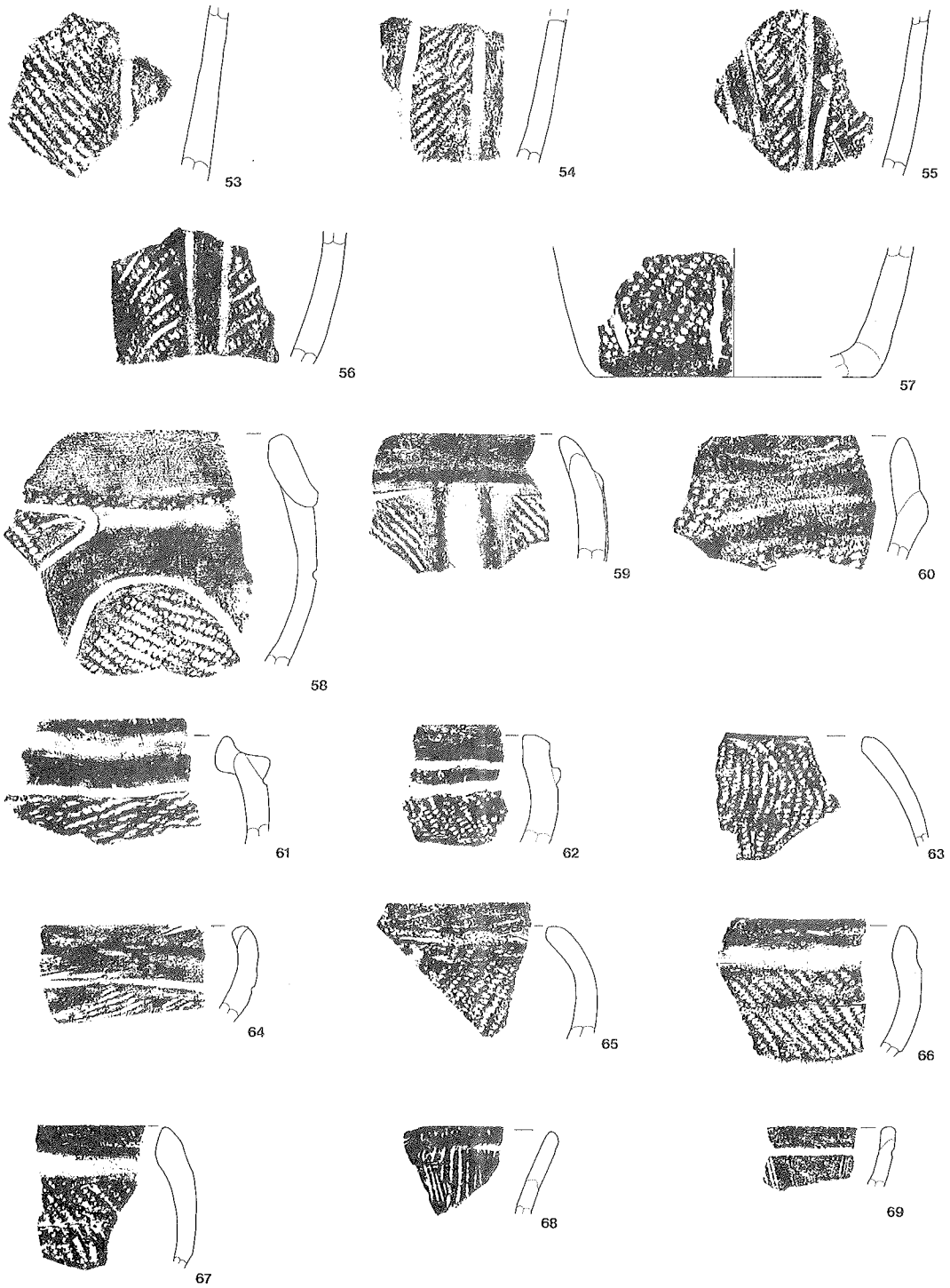
60. 隆帯による区画後、RL縄文を施文している。胎土は粗い。焼成良好。色調は暗黄褐色を呈する。B区出土。

61. 口縁部に隆帯が横走し、RL縄文が地文として施文されている。胎土は緻密。焼成良好。色調は暗黄橙色を呈する。B区出土。

62. 口縁部に隆帯が横走し、LR縄文が地文として施文されている。胎土は粗い。焼成不良。色調は黒灰色を呈する。B区出土。

63. RL縄文が口唇部付近で横位、以下で斜位に施文される。内外面共に良く調整されている。胎土は緻密。焼成良好。色調は明橙黄色を呈する。B1トレンチ出土。

64. 口縁部に沈線が横走し、以下にLR縄文が施文される。胎土は緻密。焼成良好。色調は暗赤橙色を呈する。B1トレンチ出土。



0 10cm

第10图 II類土器実測図 (4) (1/3)

65. 口唇部直下に指ナデによると思われる軽い調整が加えられ、R L縄文が施文されている。胎土はやや粗い。焼成良好。色調は暗橙褐色を呈する。B 2トレンチ出土。

66. 口唇部直下に太い棒状工具或いは指頭によると思われる調整が加えられ、R L縄文が施文されている。胎土は粗い。焼成良。色調は暗茶褐色を呈する。B 1トレンチ出土。

67. 口唇部直下に指ナデによると思われる調整が加えられ、L R縄文が施文されている。胎土は粗い。焼成良。色調は暗茶褐色を呈する。B 1トレンチ出土。

68. 口唇部直下より篋状工具によるものと思われる条線文が施される。胎土は緻密。焼成良好。色調は明黄橙色を呈する。B 1トレンチ出土。

69. 口唇部直下に沈線が横走し、以下に条線文が施文される。胎土は粗い。焼成良。色調は暗茶褐色を呈する。B 1トレンチ出土。

70. 口唇部上端が欠失する。条線文が施文される。胎土は粗い。焼成良。色調は暗黄色を呈する。B 1トレンチ出土。

71. 口縁部に沈線が横走し、直下に条線文が施文される。胎土はやや粗い。焼成良好。色調は暗赤橙色を呈する。調査区内表面採集。

72. 口縁部に沈線が横走し、直下に二条一組と思われる沈線が垂下する。胎土はやや粗い。焼成良好。色調は暗黄褐色を呈する。A 2トレンチ出土。

73. 口唇部直下に平行沈線が横走し、間に列点刺突文が施文される。以下にはR L縄文を地文として、二条の波状沈線が描出される。胎土はやや粗い。焼成良好。色調は暗赤褐色を呈する。B 1トレンチ出土。

74. 口唇部直下に沈線が横走し、L R縄文が沈線直下ではほぼ横位、以下で斜位に施文され波状沈線等が描出されている。胎土はやや粗い。焼成良。色調は暗黄橙色を呈する。B 1トレンチ出土。

75. 波状口縁を呈するものと思われる。L R縄文の口唇部直下と口縁部における角度の異なる斜位施文を、二条の波状沈線により区画された空間に充填している。胎土はやや粗い。焼成良。色調は暗赤橙色を呈する。B 1トレンチ出土。

76. 波状口縁の頂部が欠失する。太い沈線による文様が施文される。胎土は緻密。焼成良。色調は暗黄橙色を呈する。B 2トレンチ出土。

77～85は胴部破片である。

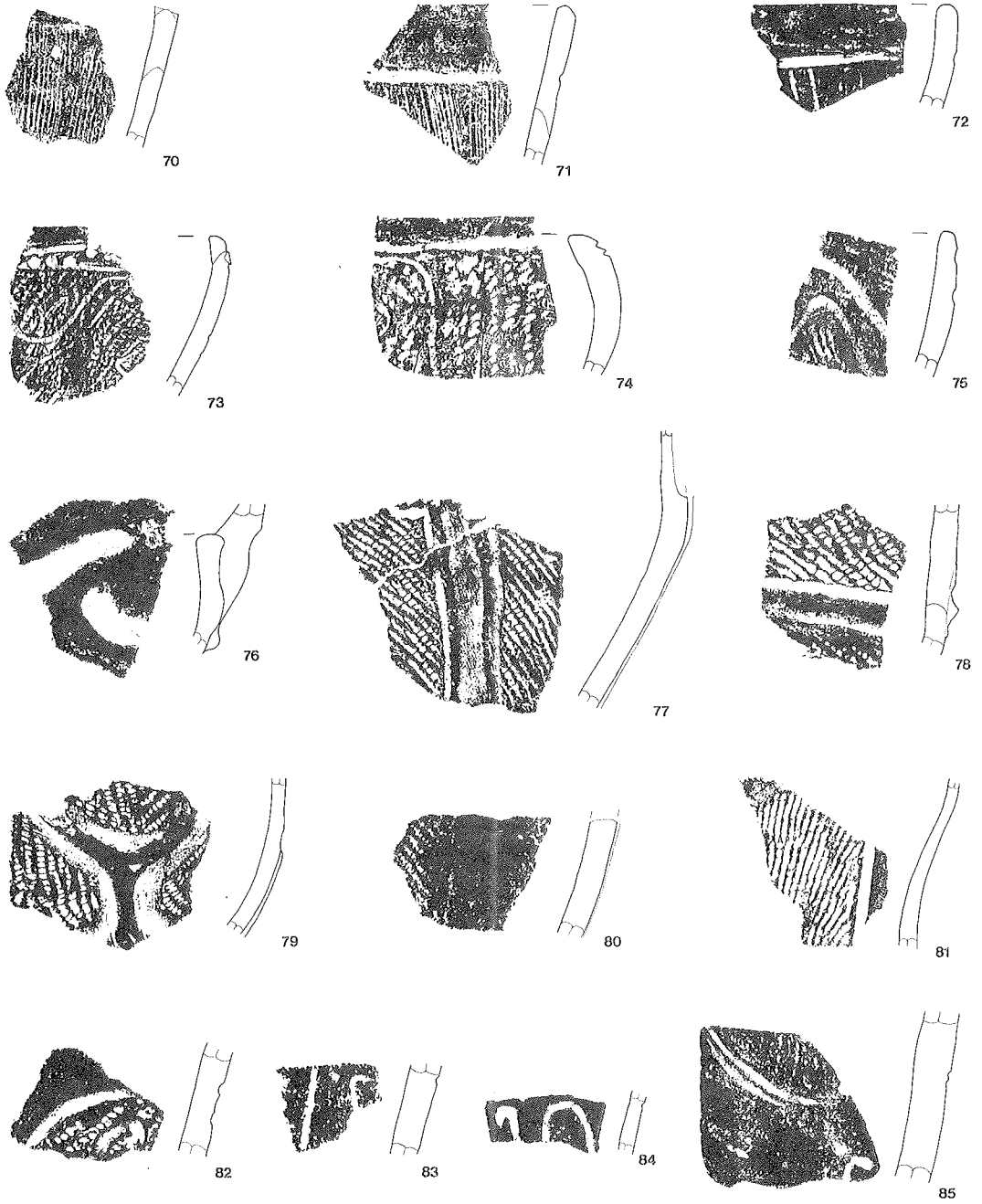
77. 口縁部が剥落している。二条の隆帯を貼付整形し、L R縄文を施文している。胎土は緻密。焼成良好。色調は暗黄橙色を呈する。B 1トレンチ出土。

78. R L縄文を地文として、隆帯の貼付調整を行っている。胎土はやや粗い。焼成良好。色調は薄橙黄色を呈する。B 1トレンチ出土。

79. 隆帯による区画設定後、L R縄文を充填し、隆帯の調整を行なっている。胎土は緻密。焼成良好。色調は暗黄灰色を呈する。B区出土。

80. 隆帯による区画後、R L縄文を充填している。胎土は緻密。焼成良。色調は暗橙黄色を呈する。B 1トレンチ出土。

81. 沈線による区画後、R L縄文を充填している。胎土は緻密。焼成良好。色調は暗黄褐色を呈



第11图 II類土器実測图 (4) (1/3)

する。B 1 トレンチ出土。

82 沈線による「 Ω 」状文内に R L 縄文を充填し、内部に蕨手文を描出している。胎土は緻密。焼成良好。色調は暗黄褐色を呈する。B 1 トレンチ出土。

83 区画沈線及び蕨手文を描出する。区画内の地文は不明。胎土は粗い。焼成良。色調は暗黄橙色を呈する。A 区出土。

84 「 Ω 」状文内に R L 縄文を充填し、区画外に蕨手文を描出する。胎土は緻密。焼成良好。色調は暗黄褐色を呈する。B 1 トレンチ出土。

85 二条の波状沈線による区画内に原体不明の縄文を充填する一方、下半部に蕨手文を描出する。胎土は緻密。焼成良。色調は暗黄褐色を呈する。B 1 トレンチ出土。

○III類 (第12図)

1～9までは、所謂連弧文土器である。

このうち1～4までは口縁部破片を一括した。

1. 条線文を地文として口唇部に平行沈線が横走し、三条の波状沈線が描出されている。器面への残存状態が良くないが、半截竹筥の腹面描出によるものと思われる。胎土は粗い。焼成良。色調は明黄灰色を呈する。A 1 トレンチ出土。

2. 波状口縁を呈する。口唇部直下の平行沈線下に L R 縄文を地文として、二条の波状沈線が腹面描出されている。胎土はやや粗い。焼成良好。色調は暗赤橙色を呈する。B 1 トレンチ出土。

3. 波状口縁を呈する。条線文を地文として口唇部直下に列点刺突文を配列し、二条の波状沈線を描出し、沈線間を磨消す。胎土は緻密。焼成良好。色調は暗黒褐色を呈する。B 2 トレンチ出土。

4. R L 縄文を地文として、口唇部直下に一条の沈線、口縁部に二条の波状沈線を描出する。胎土はやや粗い。焼成良好。色調は暗赤橙色を呈する。B 2 トレンチ出土。

5～9は口縁部～胴部上半部の破片である。

5. 撚糸文 L を地文として、二条～四条の波状沈線を施す。胎土は緻密。焼成良。色調は暗黄橙色を呈する。調査区内表面採集。

6. R L 縄文を地文として、三条の連弧文が描出される。胎土はやや粗い。焼成良好。色調は暗赤橙色を呈する。B 区出土。

7. R L 縄文を地文として三条の連弧文が描出され、上段頂部に渦巻文を施す。胎土はやや粗い。焼成良。色調は暗赤橙色を呈する。調査区内表面採集。

8. 撚糸文 L を地文として三条の連弧文を描出し、上段先端部を渦巻状にしている。胎土はやや粗い。焼成良好。色調は暗紅褐色を呈する。B 区出土。

9. 条線文を地文として、三条の波状沈線を描出する。胎土はやや粗い。焼成良。色調は暗橙黄色を呈する。B 区出土。

10～19は、所謂曾利式土器に属するものであろう。

10～12は口縁部破片である。

10. 隆帯貼付後、沈線による区画文を描出している。胎土は緻密。焼成良好。色調は明赤橙色を



0 10cm

第12图 III類土器実測図(1/3)

呈する。A区出土。

11. 沈線による楕円区画文を描出する。胎土はやや粗い。焼成良好。色調は黒褐色を呈する。B1トレンチ出土。

12. 波状口縁を呈する。口縁部に沈線による楕円区画文を描出し、胴部には条線文を施文している。胎土はやや粗い。焼成良好。色調は暗黄灰色を呈する。B区出土。

13～19は胴部破片である。

13. 条線文を地文とする器面に把手を貼付し、把手下半側辺部に沈線を描出している。全体的に良く研磨されている。胎土は緻密。焼成良好。色調は暗赤褐色を呈する。A2トレンチ出土。

14. ハ字状沈線文を地文として、隆帯及び沈線により描出される円形文と隆帯による懸垂文が貼付されている。胎土は緻密。焼成良好。色調は暗赤褐色を呈する。B2トレンチ出土。

15. 斜行沈線を地文として、隆帯による懸垂文が貼付されている。胎土は粗い。焼成良。色調は暗赤橙色を呈する。調査区内表面採集。

16. 垂下する平行沈線に区画された器面に矢羽状沈線文を施文している。胎土は粗い。焼成良。色調は暗黄灰色を呈する。B1トレンチ出土。

17. 垂下する沈線に区画された器面に矢羽状沈線文を施文している。胎土は粗い。焼成良。色調は暗黄橙色を呈する。B1トレンチ出土。

18. 垂下する平行沈線に区画された器面に矢羽状沈線文を施文している。胎土はやや粗い。焼成良。色調は暗黄橙色を呈する。B1トレンチ出土。

19. 垂下する平行沈線に区画された器面に矢羽状沈線文を施文している。胎土はやや粗い、焼成良。色調は暗黄橙色を呈する。B1トレンチ出土。

16～19は同一個体の可能性が考えられる。

20は、所謂大木式土器に属するものであろう。隆帯の貼付による渦巻文等の意匠文が描出されている。外面の調整はかなり粗雑で、下端部にLR縄文と思われる施文が認められる。胎土は粗い。焼成良好。色調は暗黄橙色を呈する。B1トレンチ出土。

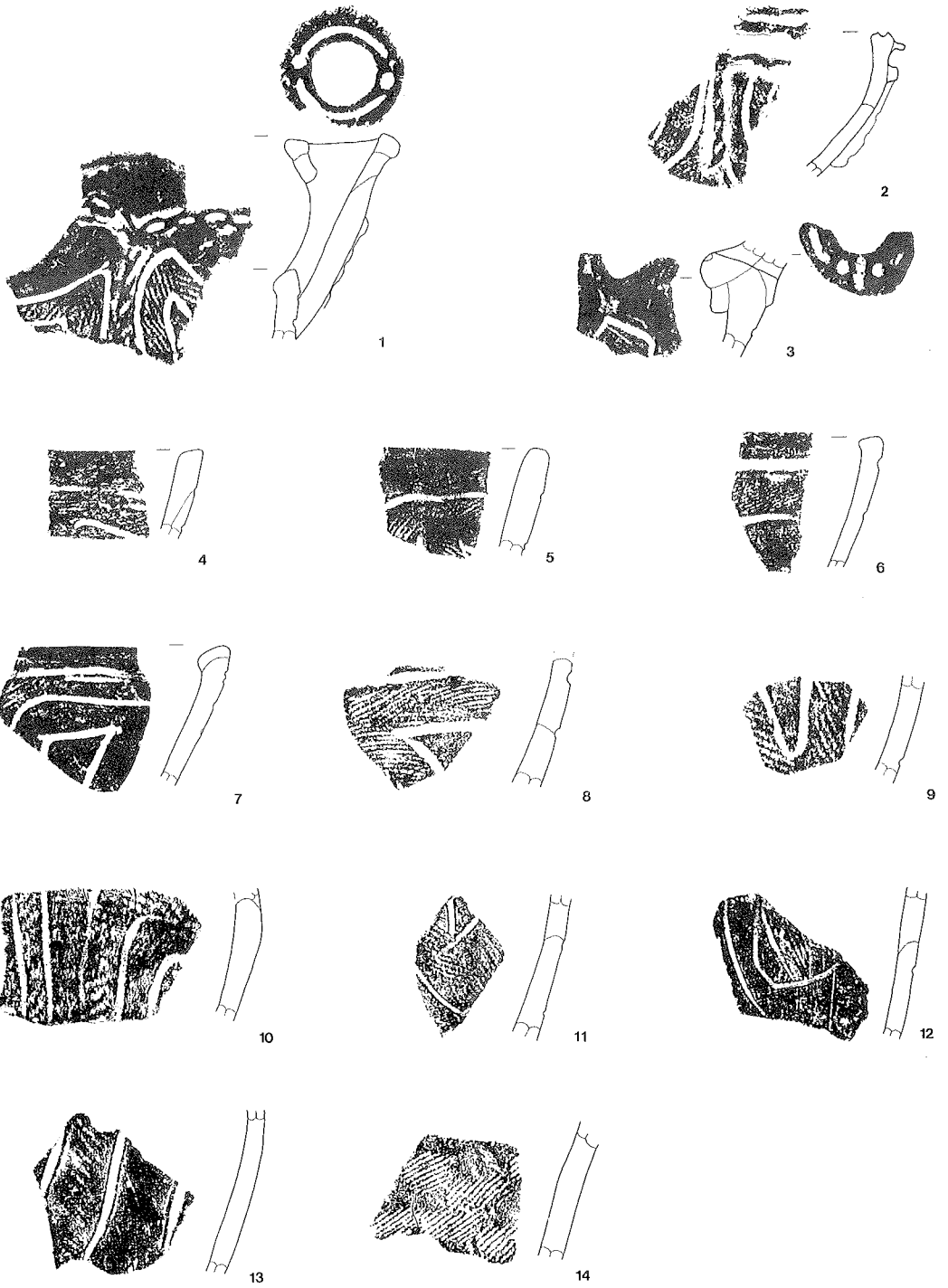
○IV類（第13図1～第15図47）

1～14は、称名寺I式に属するものであろう。

1～7は口縁部破片を一括した。

1. 把手部分である。波状口縁の頂部に管状の把手を付加し、把手上面に貼付した隆帯上に刺突及び沈線による装飾を、頸部には横走する隆帯に刺突を施した鎖状隆帯を貼付し、ここから垂下する隆帯には刺突を施している。口縁部には文様帯が区画され、RL縄文が充填される。胎土は粗い。焼成不良。色調は黒褐色を呈する。B2トレンチ出土。

2. 波状口縁上に付加された把手部分である。上面には沈線が環状にめぐり、頂部には二条の隆帯が横走り、隆帯間が良く調整されている。この隆帯より刻み込みが施された隆帯と、文様帯区画の沈線が垂下している。区画帯にはRLと思われる縄文が充填されている。胎土は緻密。焼成良好。色調は暗黄黒灰色を呈する。B1トレンチ出土。



0 10cm

第13图 IV類土器実測図 (1) (1/3)

3. 環状を呈していたと思われる把手下半部分である。波状口縁上に貼付による環状把手を付加し、内面に刺突及び沈線による装飾を施している。外面下半部には文様帯区画が残存し、R L縄文の充填が認められる。胎土は緻密。焼成良。色調は暗赤橙色を呈する。B区出土。

4. 下方へ屈曲する区画帯内にR L縄文が充填されている。胎土は粗い。焼成良好。色調は暗黄黒灰色を呈する。B 1トレンチ出土。

5. 分岐する区画帯内にR L縄文が充填されている。胎土は緻密。焼成良。色調は暗赤褐色を呈する。B 2トレンチ出土。

6. 口唇部は若干屈曲する。直下に横走する区画帯内にL Rと思われる縄文が充填されている。胎土は緻密。焼成良好。色調は暗黄灰色を呈する。B区出土。

7. 口唇部は若干屈曲する。屈曲して下向する区画帯内にはR L縄文が充填されている。胎土は緻密。焼成良。色調は暗赤橙色を呈する。B 2トレンチ出土。

8～14は胴部破片を一括した。

8. 屈曲して斜位に下向する区画帯内にL R縄文が充填されている。胎土は緻密。焼成良。色調は明黄灰色を呈する。B 1トレンチ出土。

9. J字状文内にR L縄文が充填されている。胎土は緻密。焼成良。色調は暗黄褐色を呈する。B 1トレンチ出土。

10. 屈曲して垂下する区画帯を中心として縦位に併走する計三本の区画帯内にR L縄文が充填されている。胎土は粗い。焼成良。色調は明黄橙色を呈する。B 1トレンチ出土。

11. 屈曲して上向する区画帯内中央部にL R縄文が施文される。区画沈線付近には空間が著しい。胎土は緻密。焼成良好。色調は黒灰色を呈する。A区出土。

12. 非常に粗雑に施文された区画帯突端部内にL R縄文が局部的に充填されている。胎土は緻密。焼成良好。色調は暗黄橙色を呈する。B 1トレンチ出土。

13. 区画帯内中央部のみに、L R縄文が施文される。胎土は緻密。焼成良好。色調は暗黄灰色を呈する。B 1トレンチ出土。

14. R L縄文がX字状に施文されている。文様帯区画沈線は持たない。胎土は緻密。焼成良。色調は暗茶褐色を呈する。B 1トレンチ出土。

15～39は、称名寺Ⅱ式に属するものであろう。

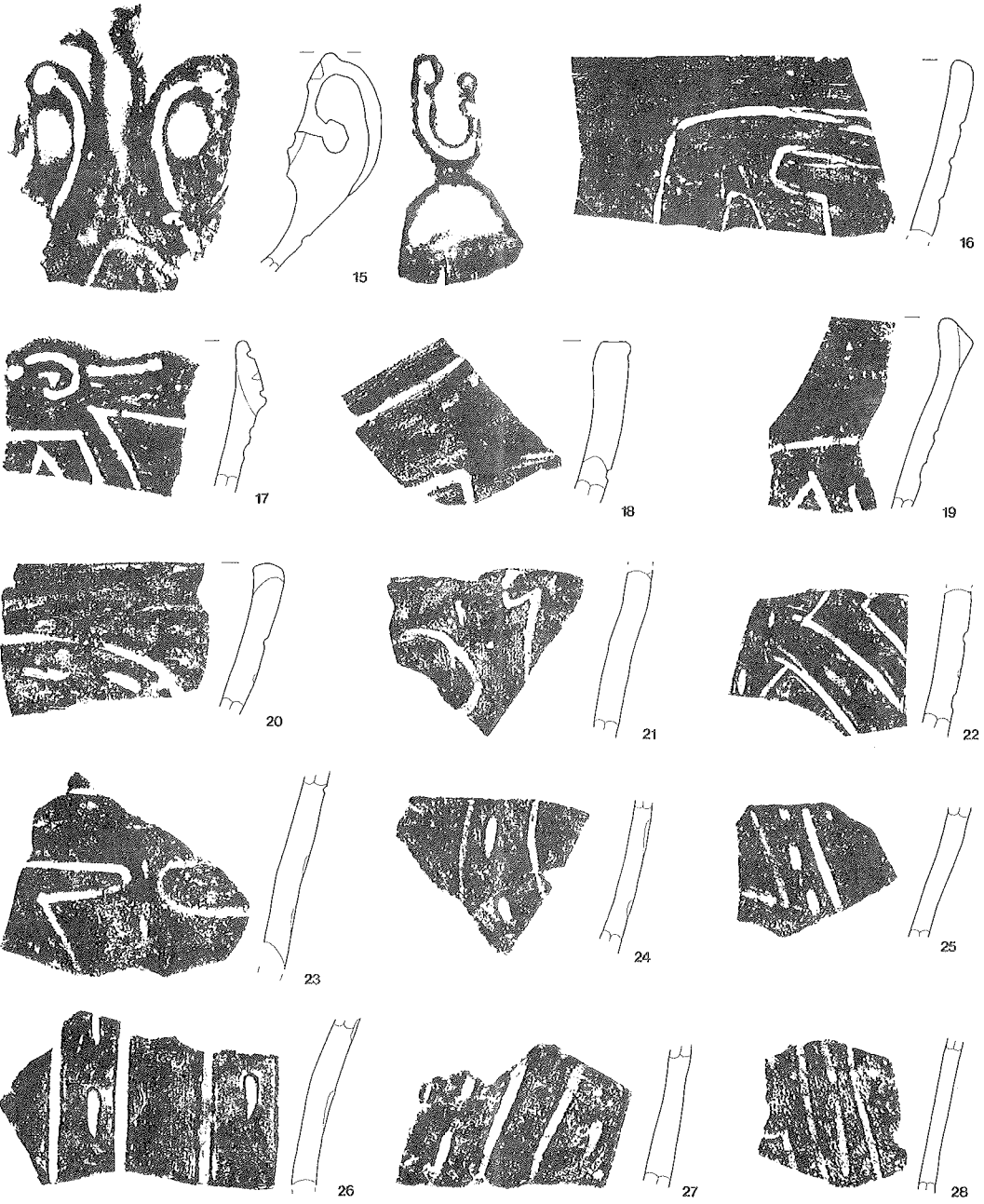
15～19は、口縁部破片を一括した。

15. 把手部分である。波状口縁の頂部に付加した突起上に隆帯貼付によって基本型を作出し、内面及び両側面からの穿孔部を中心として、刺突及び沈線による装飾を施している。口縁部には文様帯の区画沈線が認められる。胎土はやや粗い。焼成良好。色調は明黄灰色を呈する。A区出土。

16. 横走から屈曲して分岐する文様帯区画を持つ。胎土は緻密。焼成良好。色調は明橙色を呈する。B 1トレンチ出土。

17. 口唇部に隆帯貼付の上、沈線及び刺突による渦卷文等を描出する。直下より文様帯区画が施文されている。胎土は緻密。焼成良好。色調は明黄橙色を呈する。B 1トレンチ出土。

18. 波状口縁を呈する。文様帯区画が施文されている。胎土は緻密。焼成良好。色調は暗赤橙色



0 10cm

第14图 IV類土器実測図 (2) (1/3)

を呈する。B 1 トレンチ出土。

19. 波状口縁を呈する。文様帯区画内に刺突文が認められる。胎土は粗い。全面的に良く調整されており、外面に少量の炭化物が付着する。胎土は緻密。焼成良好。色調は暗茶褐色を呈する。B 1 トレンチ出土。

20～39は胴部破片を一括する。

20. 文様帯区画内に横走する列点刺突文が施される。胎土は緻密。焼成良好。色調は暗橙黄色を呈する。B 1 トレンチ出土。

21. 文様帯区画内に刺突文が施される。胎土はやや粗い。焼成良好。色調は暗黄橙色を呈する。B 1 トレンチ出土。

22. 分岐する文様帯区画内に、文様帯に併走する形で列点刺突文が施されている。胎土は緻密。焼成良好。色調は暗黄黒灰色を呈する。B 2 トレンチ出土。

23. スペード状文内に列点刺突文が施される。胎土は緻密。焼成良好。色調は明黄橙色を呈する。B 1 トレンチ出土。

24. 右曲する区画帯内に列点刺突文が施される。胎土は緻密。焼成良好。色調は暗黄褐色を呈する。B 2 トレンチ出土。

25. 左方へ屈曲する区画文内に列点刺突文が施される。胎土は緻密。焼成良好。色調は暗黄橙色を呈する。B 区出土。

26. 併走して垂下する区画文内に列点刺突文が施される。胎土は緻密。焼成良好。色調は暗黄黒灰色を呈する。B 2 トレンチ及び攪乱内出土。

27. 併走して斜行する区画帯内に列点刺突文が施される。胎土はやや粗い。焼成良好。色調は明黄橙色を呈する。B 区出土。

28. 斜行する区画帯内に沈線状の列点刺突文が施される。胎土は粗い。焼成良好。色調は暗黄灰色を呈する。B 1 トレンチ出土。

29. 右曲する区画帯と区画帯先端部内に列点刺突文が施される。胎土は緻密。焼成良好。色調は暗黄褐色を呈する。B 区出土。

30. 左曲する区画帯内に一～三列の列点刺突文が施される。胎土はやや粗い。焼成良好。色調は暗黄褐色を呈する。B 2 トレンチ出土。

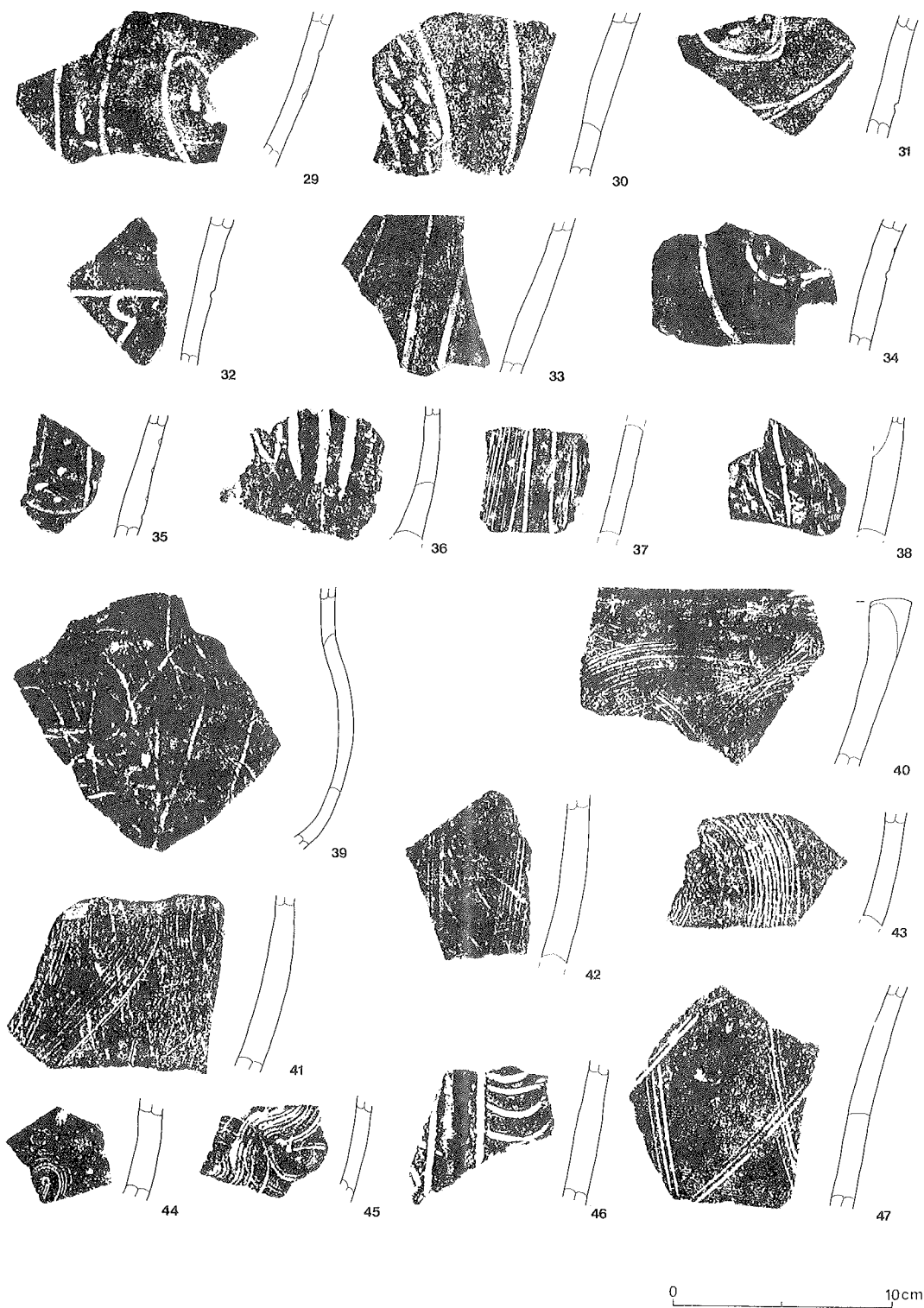
31. 区画帯の屈曲部に列点刺突文が施される。胎土は緻密。焼成良好。色調は暗黄橙色を呈する。B 2 トレンチ出土。

32. スペード状文の一部と思われる。胎土は粗い。焼成良好。色調は暗茶褐色を呈する。B 1 トレンチ出土。

33. 区画帯は斜行している。胎土はやや粗い。焼成良好。色調は暗黄灰色を呈する。B 1 トレンチ出土。

34. 右曲する区画帯及び区画帯先端部で、先端部内に刺突文が施される。胎土は粗い。焼成良好。色調は暗赤橙色を呈する。B 区出土。

35. 左曲する区画帯内に列点円形刺突文が施される。胎土はやや粗い。焼成良好。色調は暗赤橙色



第15図 IV類土器実測図 (3) (1/3)

を呈する。B 1 トレンチ出土。

36. 胴部下半で、底部は剝離している。区画沈線のみ認められる。胎土は粗い。焼成良好。色調は明灰橙色を呈する。B 区出土。

37. 区画帯内に乱雑に条線文が施されている。内面に少量の炭化物の付着が認められる。胎土は緻密。焼成良好。色調は明橙灰色を呈する。B 1 トレンチ出土。

38. 斜行する区画帯内に乱雑に条線文が施されている。内面に多量の炭化物の付着が認められる。胎土はやや粗い。焼成良好。色調は明黄橙灰色を呈する。B 1 トレンチ出土。

39. 胴部破片である。J 字状文が非常に乱雑に施文されている。区画帯内に充填される文様は認められない。器厚は全体的に薄く仕上がっている。内面に少量の炭化物が付着する。胎土はやや粗い。焼成良好。色調は暗黄褐色を呈する。B 1 トレンチ出土。

40～47は、所謂半精製土器として分類される土器群である。

40. 口縁部破片である。条線文が施されている。胎土はやや粗い。焼成良好。色調は暗赤褐色を呈する。B 1 トレンチ出土。

41～47は胴部破片を一括した。

41. 条線文が施されている。胎土はやや粗い。焼成良好。色調は暗赤褐色を呈する。B 1 トレンチ出土。

40及び41は同一個体の可能性が高い。

42. 条線文が施されている。胎土は粗い。焼成良好。色調は暗黄橙色を呈する。B 区出土。

43. 条線文が施されている。胎土はやや粗い。焼成良好。色調は暗橙黄色を呈する。B 1 トレンチ出土。

44. 波状条線文を施している。胎土は緻密。焼成良。色調は暗茶褐色を呈する。A 区出土。

45. 条線を重複させる形で波状に施文している。胎土は緻密。焼成良。色調は暗黄褐色を呈する。B 1 トレンチ出土。

46. 二本の平行沈線が垂下し、縦位に分割された空間内に弧線が多段に施文されている。内面に少量の炭化物が付着する。胎土は緻密。焼成良好。色調は暗黄橙色を呈する。B 1 トレンチ出土。

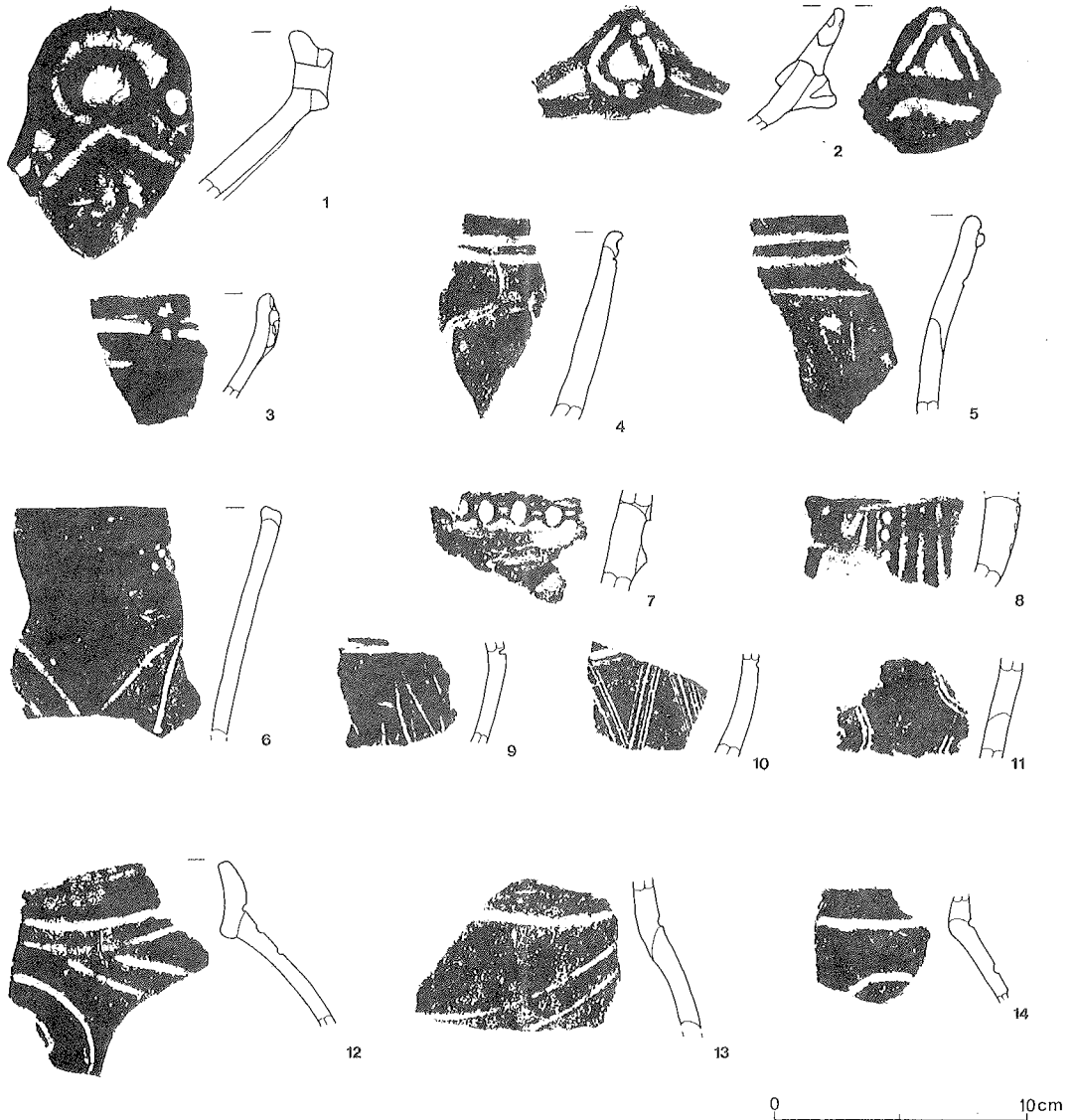
47. 篋状工具らしき施文具によると思われる三条の沈線が斜格子目状に施文される。胎土は緻密。焼成良好。色調は暗橙黄色を呈する。B 1 トレンチ出土。

○V類 (第16図1～11)

1～7は口縁部破片を一括した。

1・2は把手部分である。

1. 口唇部直下に隆帯がめぐり、把手外面上で渦巻状に貼付されている。また把手部分から隆帯による懸垂文が垂下している。このうち、口唇部をめぐる隆帯と懸垂文には刺突による刻み込みが施されている。把手部は穿孔され、また口唇部には竹管による円形刺突文と沈線がめぐらされている。胎土は緻密。焼成良好。色調は暗黄褐色を呈する。B 1 トレンチ出土。



第16図 V・VI類土器実測図(1/3)

2. 隆帯貼付による把手上内外面に、円形刺突文及び沈線による文様が描出されている。胎土はやや粗い。焼成良好。色調は暗黄灰色を呈する。B区出土。

3. 口唇部に長さ約2cmの隆帯を縦位に貼付し、円形刺突文を2ヶ所に施している。また口唇部直下には沈線が横走する。胎土は緻密。焼成良好。色調は暗黄橙色を呈する。B1トレンチ出土。

4. 口唇部一段目以外の沈線は、小形の竹管状工具による腹面描出によるものと思われる。胎土はやや粗い。焼成良好。色調は暗赤褐色を呈する。B2トレンチ出土。

5. 口唇部直下に隆帯と沈線、口縁部に沈線がそれぞれ横走している。胎土は粗い。焼成良好。色調は暗黄褐色を呈する。B1トレンチ出土。

6. 沈線による文様が描出される。器厚は全体的に薄い。胎土は緻密。焼成良好。色調は暗茶褐色を呈する。B区出土。

7～11は胴部破片を一括した。

7. 横走する隆帯上に列点刺突文を施し、直下にも隆帯の貼付が認められる。胎土は粗い。焼成良好。色調は暗黄褐色を呈する。B1トレンチ出土。

8. 横走する沈線の直下より沈線と円形刺突文列が垂下している。胎土はやや粗い。焼成良好。色調は暗橙黄色を呈する。B2トレンチ出土。

9. 先端の尖った施文具により、横走、或いは斜行する沈線が描出される。胎土は緻密。焼成良好。色調は暗黄橙色を呈する。調査区内表面採集。

10. 斜位に施文された沈線直下に、四～六条の条線による鋸歯状文が描出されている。胎土はやや粗い。焼成良好。色調は暗茶褐色を呈する。B1トレンチ出土。

11. RLと思われる縄文を地文として、小型の竹管状工具による腹面描出によると思われる二条の沈線が描かれている。胎土はやや粗い。焼成良好。色調は暗黄橙色を呈する。B1トレンチ出土。

○VI類（第16図12～14）

本項に掲げた資料は、堀之内式期以降に属するものと推定される。全て注口土器或いは小型壺の一部であろう。

12. 頸部に二条の沈線が横走し、胴部に沈線による文様が描出されている。胎土は緻密。焼成良好。色調は暗黄灰色を呈する。B1トレンチ出土。

13. 頸部に沈線が横走し、胴部に沈線による文様が描出される。胎土は粗い。焼成良好。色調は暗赤橙色を呈する。B1トレンチ出土。

14. 頸部に沈線が横走し、胴部に沈線による文様が描出される。胎土は緻密。焼成良好。色調は暗茶褐色を呈する。B1トレンチ出土。

○VII類（第17図1～18）

1～12は、所謂深鉢の底部であろう。

1. 底径7.4cm、二条の垂下する沈線が認められる。胎土はやや粗い。焼成良好。色調は暗黄褐色を呈する。B区出土。

2. 推定底径約7.5cm。計五条の垂下する沈線が認められる。胎土は緻密。焼成良好。色調は暗黄褐色を呈する。調査区内表面採集。

3. 底径8.8cm。胎土は粗い。焼成良好。色調は暗黄橙色を呈する。B1トレンチ出土。

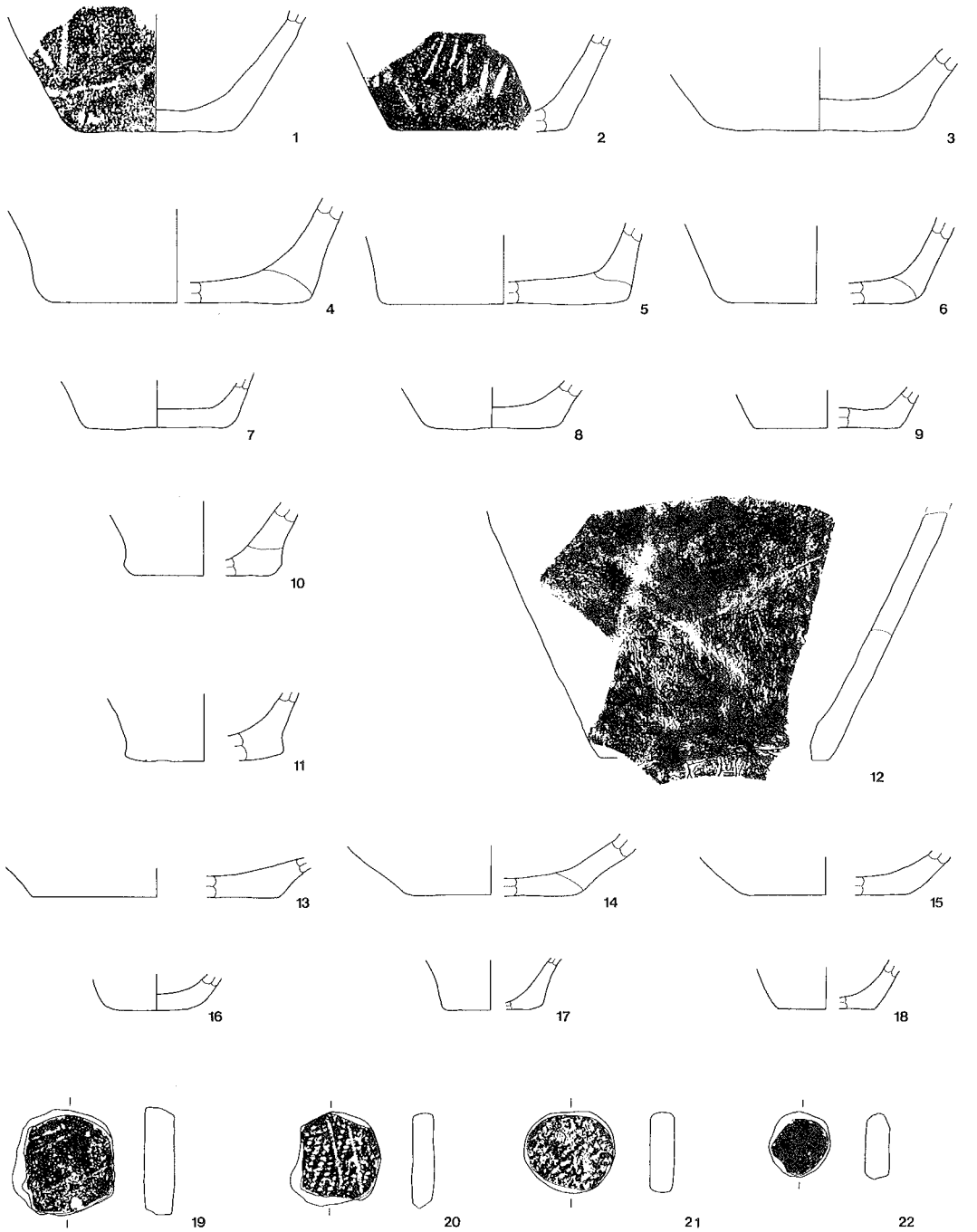
4. 推定底径約12.0cm。胎土は緻密。焼成良好。色調は暗黄橙色を呈する。A1トレンチ出土。

5. 推定底径約10.5cm。胎土はやや粗い。焼成良好。色調は暗赤橙色を呈する。B1トレンチ出土。

6. 推定底径約8.5cm。胎土は粗い。焼成良好。色調は暗赤橙色を呈する。A1トレンチ出土。

7. 底径6.1cm。胎土はやや粗い。焼成良好。色調は暗赤橙色を呈する。B1トレンチ出土。

8. 底径5.8cm。胎土は粗い。焼成良好。色調は暗黄褐色を呈する。B2トレンチ出土。



第17图 VII·VIII類土器実測図(1/3)

9. 推定底径約6.5cm。胎土は緻密。焼成良好。色調は暗橙灰色を呈する。A区P2出土。
10. 推定底径約7.0cm。胎土は緻密。焼成良好。色調は暗赤橙色を呈する。B区出土。
11. 推定底径約7.0cm。胎土は緻密。焼成良好。色調は暗黄橙色を呈する。B1トレンチ出土。
12. 胴部下半部分である。推定底径約9.0cm。底部は穿孔の上、切断面を調整している。胎土はやや粗い。焼成良好。色調は暗黄橙色を呈する。B1トレンチ出土。
- 13~15は所謂浅鉢の底部であろう。
13. 推定底径約10.5cm。胎土はやや粗い。焼成良好。色調は暗黄灰褐色を呈する。B1トレンチ出土。
14. 推定底径約7.0cm。胎土は粗い。焼成良。色調は暗黄褐色を呈する。調査区内表面採集。
15. 推定底径約7.0cm。胎土は緻密。焼成良好。色調は暗黄灰色を呈する。B区出土。
- 16~18は小型土器で、所謂手捏土器の底部であると思われる。
16. 底径4.0cm。胎土は粗い。焼成不良。色調は暗黄褐色を呈する。B2トレンチ出土。
17. 推定底径約5.0cm。胎土は緻密。焼成良。色調は暗黄灰色を呈する。B1トレンチ出土。
18. 推定底径約4.5cm。胎土は緻密。焼成良好。色調は暗赤橙色を呈する。B区出土。

○Ⅷ類（第17図19~22）

今回の調査で検出された土製品は、土製円盤が四点である。いずれも胴部破片の転用と考えられる。本項に関しても、胎土、焼成、色調等の記述は行うものとする。

19. 平均径約3.7cm。調整は粗雑。表面は無文である。胎土は緻密。焼成良。色調は暗黒灰色を呈する。B1トレンチ出土。
20. 平均径約3.7cm。調整は粗雑。一部欠損していると思われる。表面にRL縄文を地文とした平行沈線が認められる。胎土は緻密。焼成良好。色調は暗黄橙色を呈する。B区攪乱内出土。
21. 平均径約3.6cm。丁寧な調整が加えられている。表面にLRと思われる縄文が認められる。胎土は緻密。焼成良。色調は暗黄褐色を呈する。B区攪乱内出土。
22. 平均径約2.7cm。調整は粗雑。表面は無文である。胎土は緻密。焼成良。色調は暗赤橙色を呈する。B1トレンチ出土。

(2)出土石器（第18図~第20図）

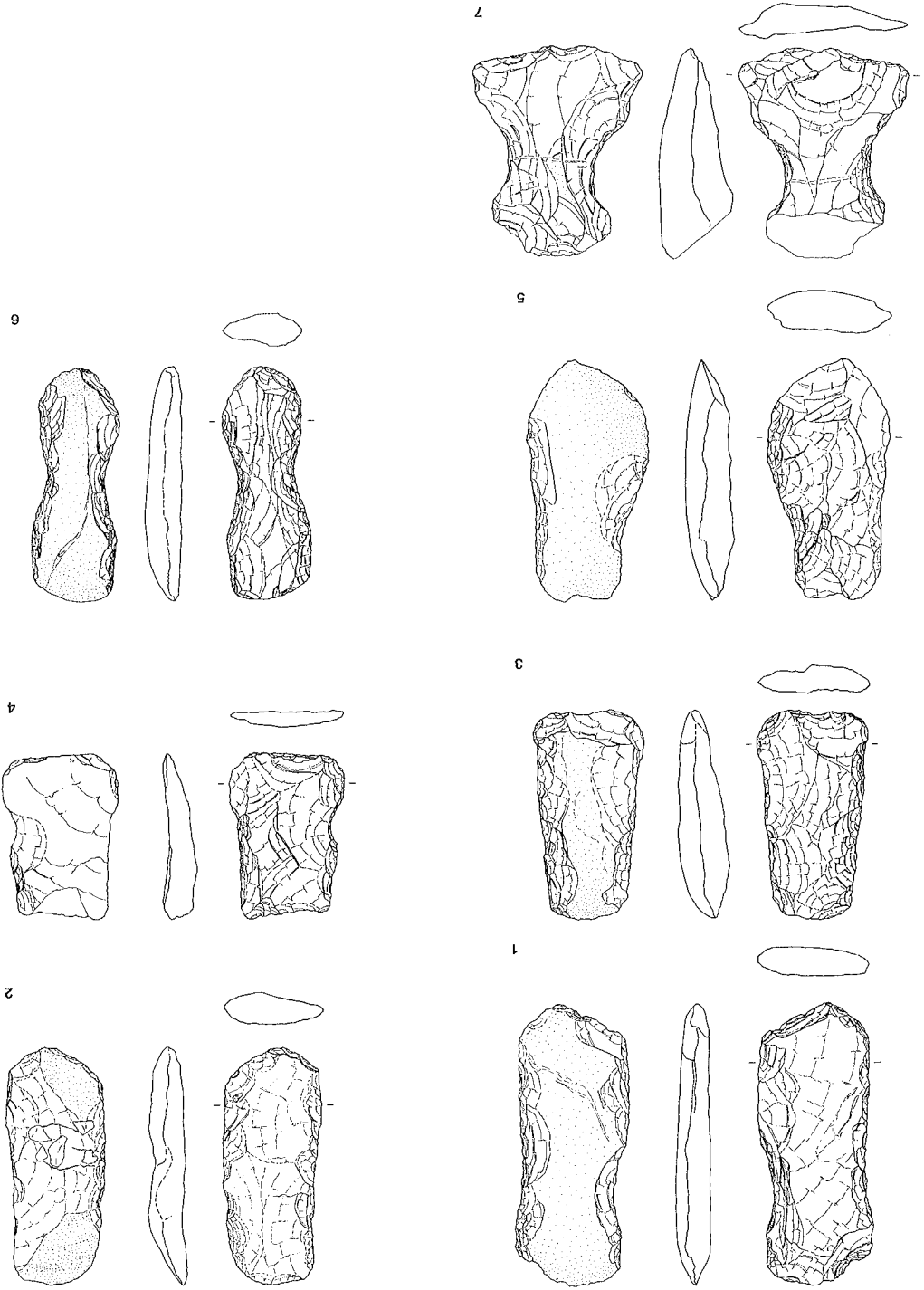
石器に関しては用途別に一括し、出土地点等については前項に準じて各遺物ごとに記述する事とした。

○打製石斧（第18図 第19図1）

1. 現長12.3cm、刃幅4.8cm、厚さ1.5cm、重さ134.8g。主要剥離面、原礫面ともに大半が残存している。刃部調整はやや粗雑で、部分的な磨耗が認められる。石質は砂岩。B区出土。
2. 現長10.4cm、刃幅4.3cm、厚さ1.7cm、重さ96.0g。両端部に原礫面を若干残しているが、成形剥離はほぼ全面に及んでいる。刃部調整はやや粗雑。全面的に風化が著しい。石質は粗粒を多く

第18图 石器类测图 (1) (1/3)

0 10cm



含んだホルンフェルス。B 1 トレンチ出土。

3. 現長9.2cm、刃幅4.8cm、厚さ2.1cm、重さ102.7g。主要剥離面、原礫面ともに中央付近に残存しているものの、両側辺の成形及び調整剥離は比較的細かい。刃部調整はやや粗雑。石質は粗粒砂岩。B 1 トレンチ出土。

4. 残存長7.3cm、刃幅5.0cm、厚さ1.5cm。現重50.9g。上端部を欠失する。原礫面は比較的に入念な剥離を施している一方、主要剥離面は大半が残存している。刃部調整は粗雑。全体的に風化している。石質はホルンフェルス。B 区出土。

5. 現長10.6cm、刃幅5.9cm、厚さ2.2cm、重さ124.0g。主要剥離面は比較的に入念に剥離を施すが、原礫面は両側辺の挟入状調整部以外に残存している。特に図中右側辺部の調整は細かい一方、刃部は成形剥離のみで、調整剥離は殆ど認められない。石質は砂岩。B 1 トレンチ出土。

6. 現長10.2cm、刃幅5.6cm、厚さ1.6cm、重さ86.1g。原礫面が多く残存する。両側辺の挟入部は細かく調整されるが、刃部調整は粗雑で、原礫面側は無調整に近い。石質は砂質頁岩。B 1 トレンチ出土。

7. 残存長9.2cm、刃幅7.4cm、胴幅3.7cm、厚さ3.1cm、現重177.6g。刃部の一端を欠失。両側辺は深い挟入が施される。石質は砂岩。B 1 トレンチ出土。

第19図1、残存長9.6cm、刃幅11.2cm、厚さ2.2cm、現重258g。全体の約三分の一を欠失。原礫面がかなり残存する。側辺部の挟入及び刃部は弧状に細かに調整されている。石質は砂岩。B 1 トレンチ出土。

1、2は短冊型、3、4は撥型、5～7、第19図1は分銅型に分類できよう。

○磨製石斧（第19図2）

残存長7.8cm、残存幅3.9cm、残存厚3.1cm、現重112.4g。頭部と推定される。図中正面に極めて入念な磨痕が認められる。石質は緑泥片岩。B 1 トレンチ出土。

○石器未製品（19図3）

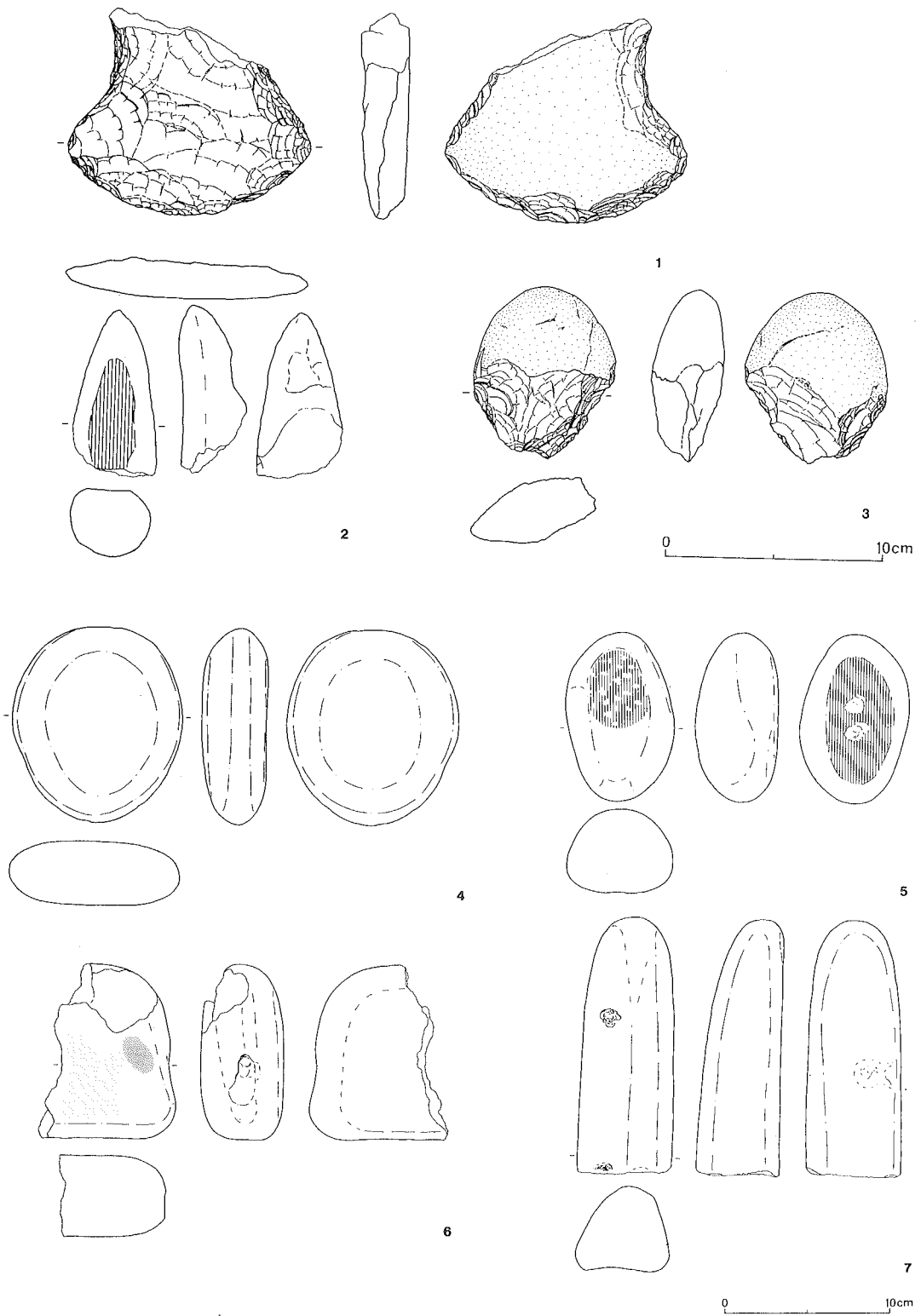
現長8.0cm、現幅6.5cm、現厚3.4cm、重さ184.8g。石器の種類は不明だが、製作に失敗、或いは製作途上の段階に在ったものと推定される。原礫面が過半に残存し、成形部の剥離も粗雑。石質は砂岩。B 区出土。

○磨石（第19図4～6）

4. 長径12.0cm、短径10.4cm、厚さ3.9cm、重さ770g。断面長楕円形を呈する偏平な円礫で、表裏両面に微かに磨痕が認められる。石質は角閃石安山岩。B 1 トレンチ出土。

5. 長径10.4cm、短径6.6cm、最大厚5.0cm、重さ480g。断面隅丸三角形を呈する。やや偏平な卵形の円礫で、表面上半部に若干の使用痕、裏面に二カ所の浅い凹み及び使用痕が認められる。石質は輝石安山岩。B 1 トレンチ出土。

6. 残存長10.7cm、残存幅8.4cm、残存厚5.0cm、現重650g。大半を欠失しており形態は不明。



第19图 石器实测图 (2) (1~3=1/3、4~7=1/4)

各面に面取り状に磨痕を残し、更に図中右側面には敲打痕と思われる痕跡が認められる。火熱を受けた結果と思われる黒斑、亀裂等が認められる。石質は輝石安山岩。A 1 トレンチ出土。

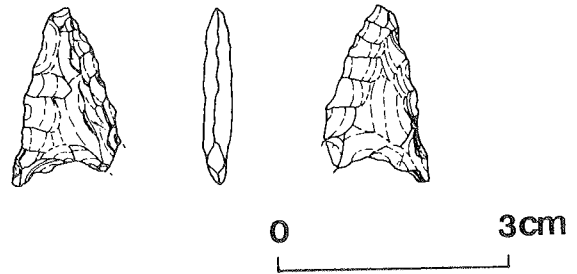
○棒状石製品（第19図7）

残存長15.8cm、残存幅5.9cm、残存厚5.2cm、重さ700g。一端を欠失するが、断面三角形を呈する棒状の礫であったと思われる。正面図中右面は丁寧に研磨され、背面は凹面となっている。左面に二箇所、背面に一箇所、ごく浅い凹みが認められる。石質は砂岩。B 1 トレンチ出土。

○石鏃（第20図）

現長2.4cm、残存幅1.4cm、厚さ0.35cm、現重1.1g。凹基無茎石鏃である。基部の抉入はやや浅い。先端部及び脚部の一端を欠失している。全体的に風化が著しい。石質は凝灰岩系と思われる。

B 1 トレンチ出土。



第20図 石器実測図（原寸）

V. 結 語

今回の調査区は、昭和61年度の第3次調査区を、おおよそ東西に挟む形で設定された。第3次発掘調査時には当該地一帯が既に著しい攪乱を受けている事が判明していたが、今回の場合も相当範囲の攪乱が調査区内を覆っており、最終的にはかなり部分的な調査となってしまった。

発掘調査では、調査区A区内より土壙三基と地形的なものと思われる落込み、B区内より小規模な埋没谷とその覆土中に形成された遺物包含層が検出されている。いずれの場合も攪乱の影響をかなり受けており、詳細については不明である。しかし第3次発掘調査時の成果と総合すると、当該地一帯にはかなり蛇行する埋没谷がほぼ南北方向に走っており、これを中心とした流水の影響をかなり受けていたものと思われる。この事に関しては第3次発掘調査報告書における推定を追認する形となった。しかしその一方、A区などは流水の影響を余り受けておらず、この一帯が当時の小台遺跡内集落の境界付近に含まれるものと推定できるかもしれない。

今回の調査で出土した遺物は土器の小破片が殆どである。そのため判別可能な資料について扱う事としたが、筆者の浅学の故、報文中の分類等にはかなりの不備が生じていると思われる。末筆ながら記してご容赦を乞い、合わせて今後の御指導、御鞭撻をお願いする次第である。

写 真 图 版



1. 調査区全景（南より）



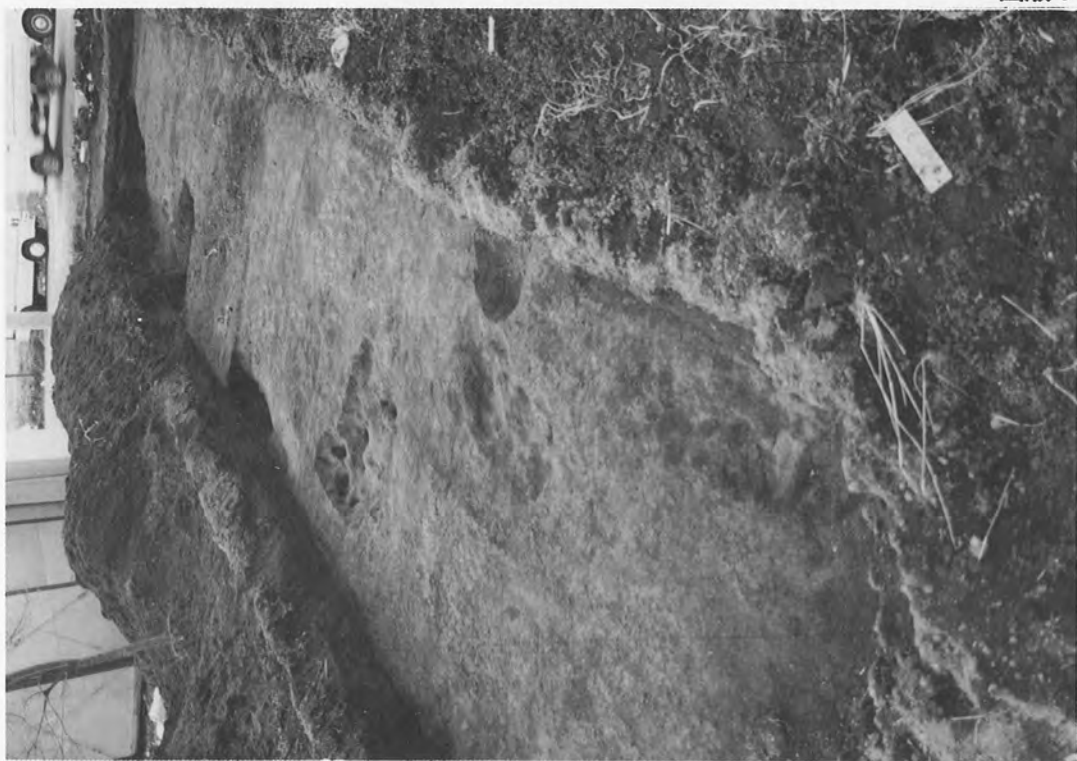
2. 調査風景（A区）



3. 調査風景 (B区)



4. B1トレンチ出土遺物分布状態 (北より)



5. A区完掘状態（東より）



6. B区完掘状態（北より）

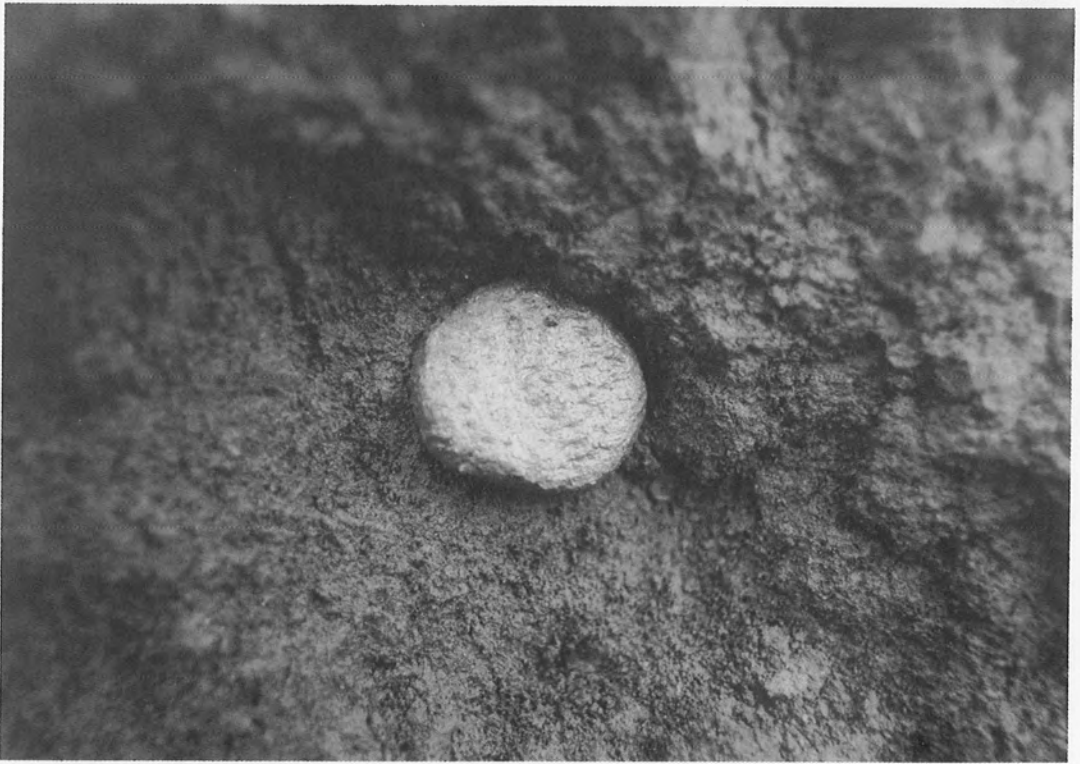
図版 4



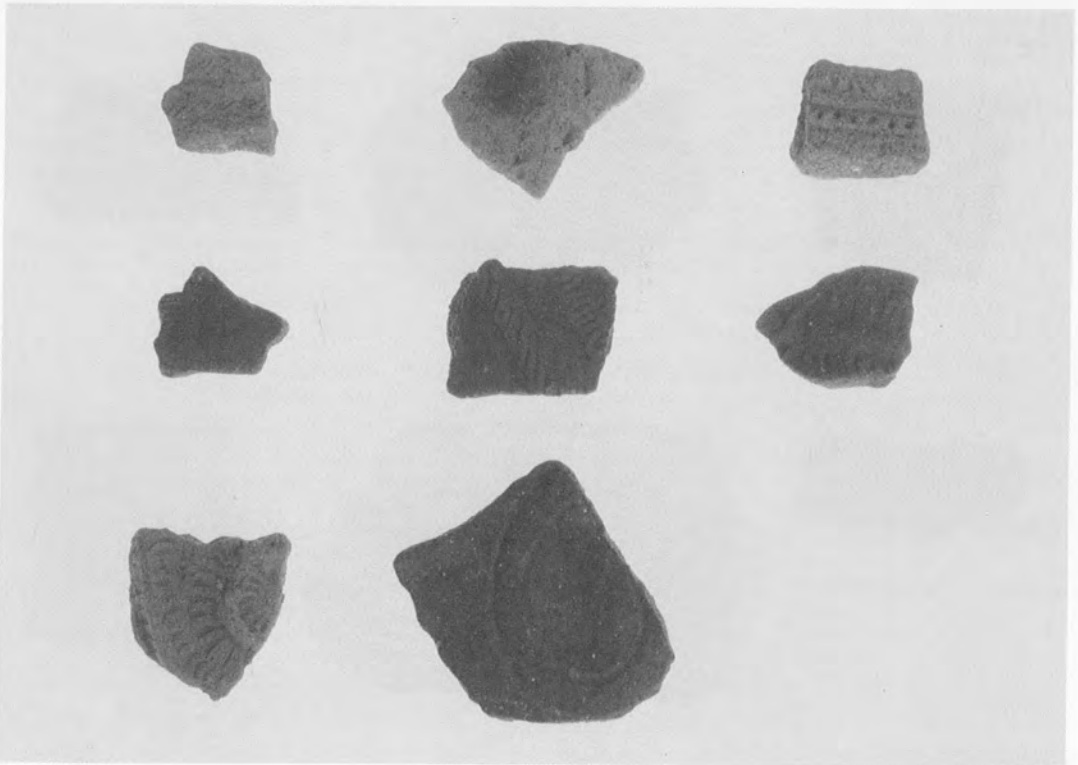
7. P1完掘状態(南東より)



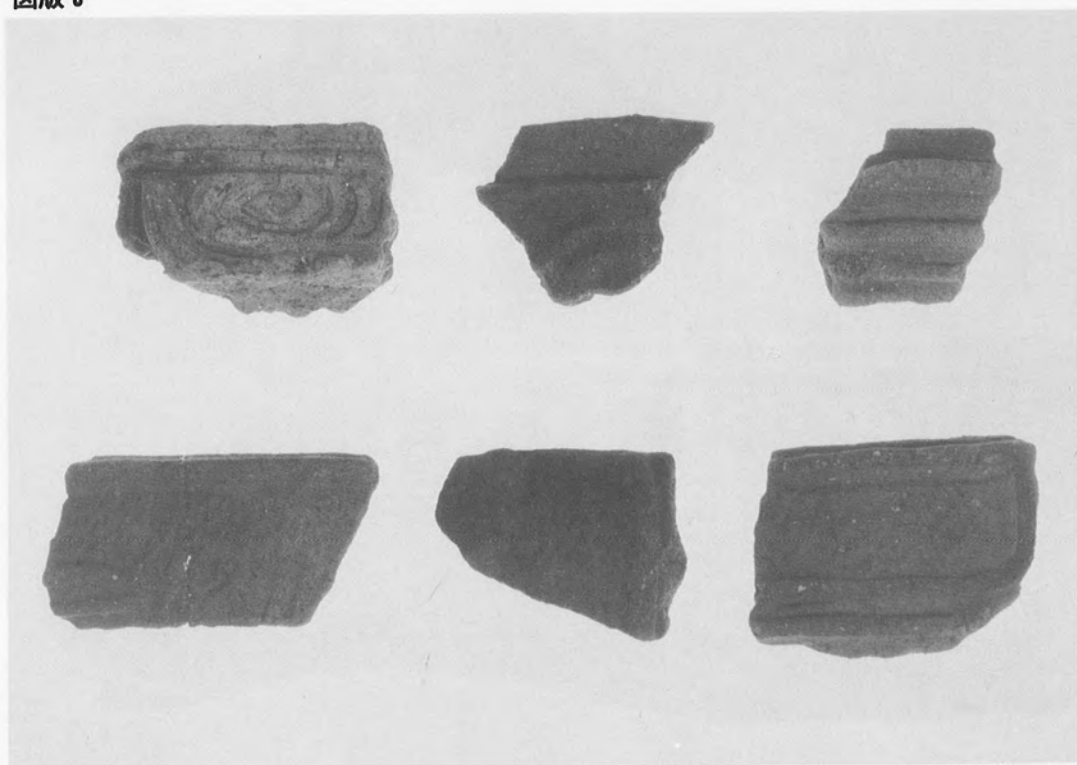
8. P2・P3完掘状態(北西より)



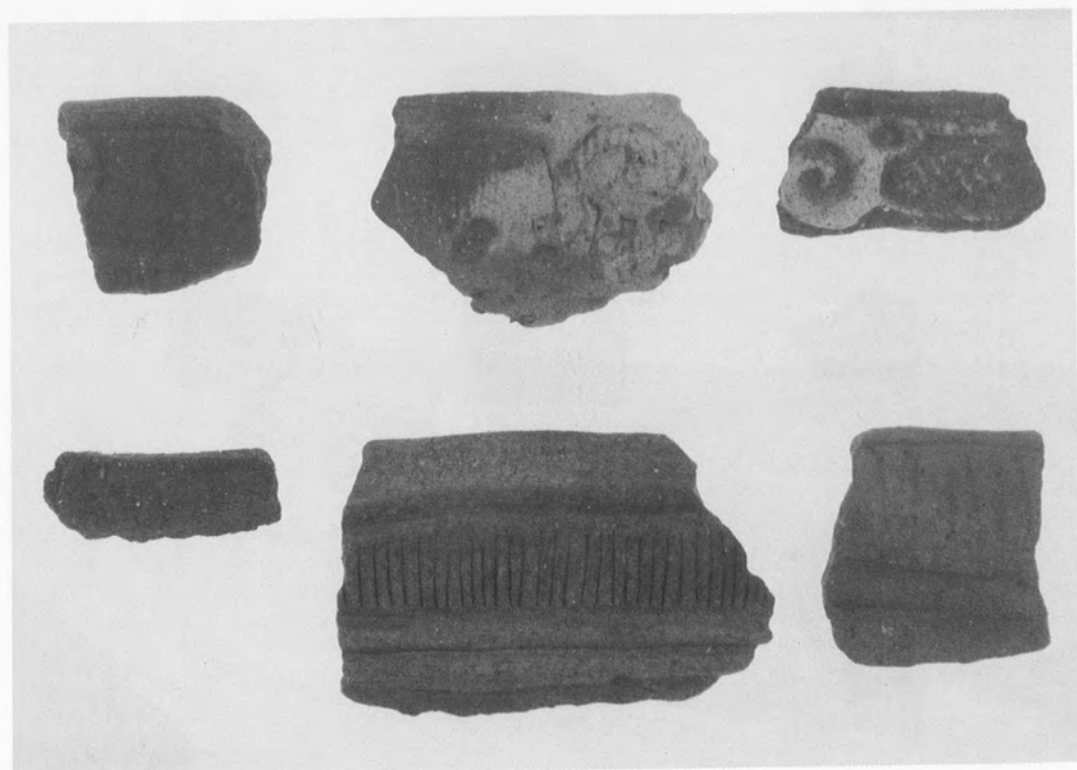
9. 遺物出土状態（土製円盤）



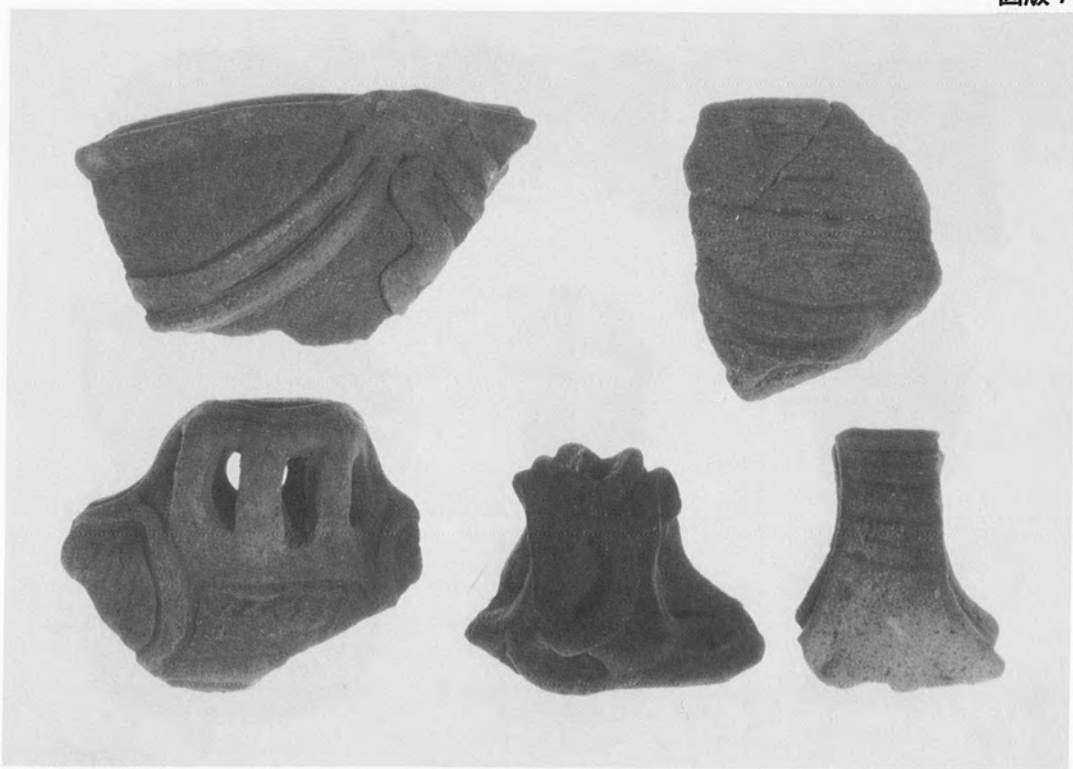
10. I類土器



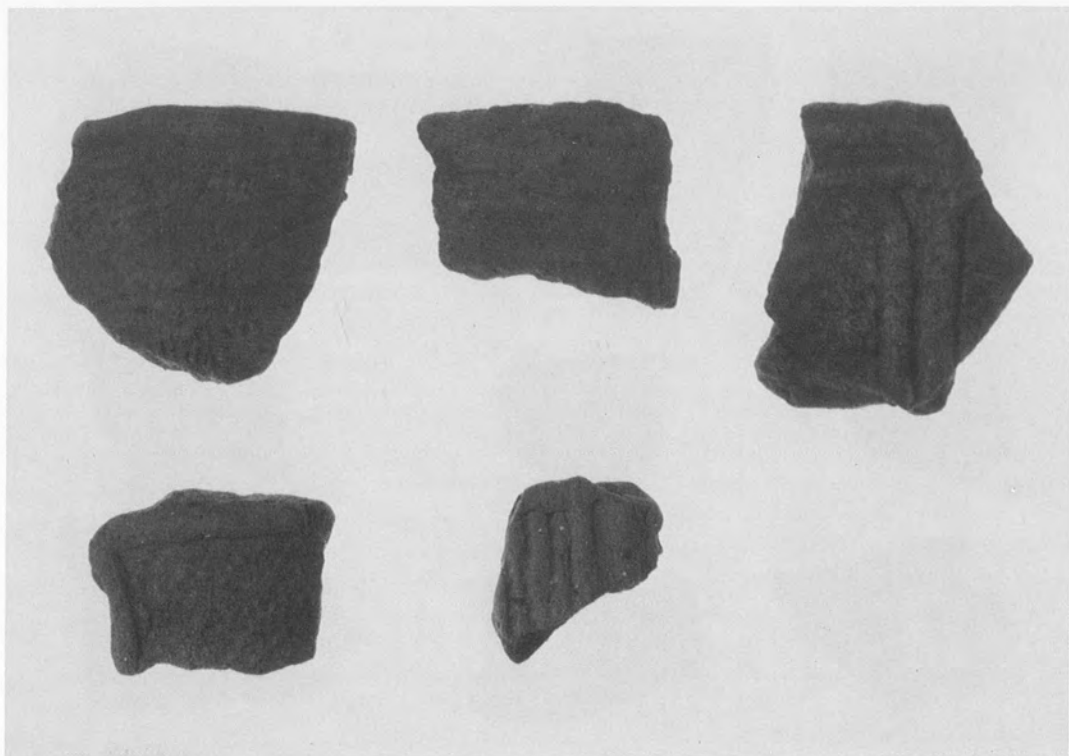
11. II類土器(1)



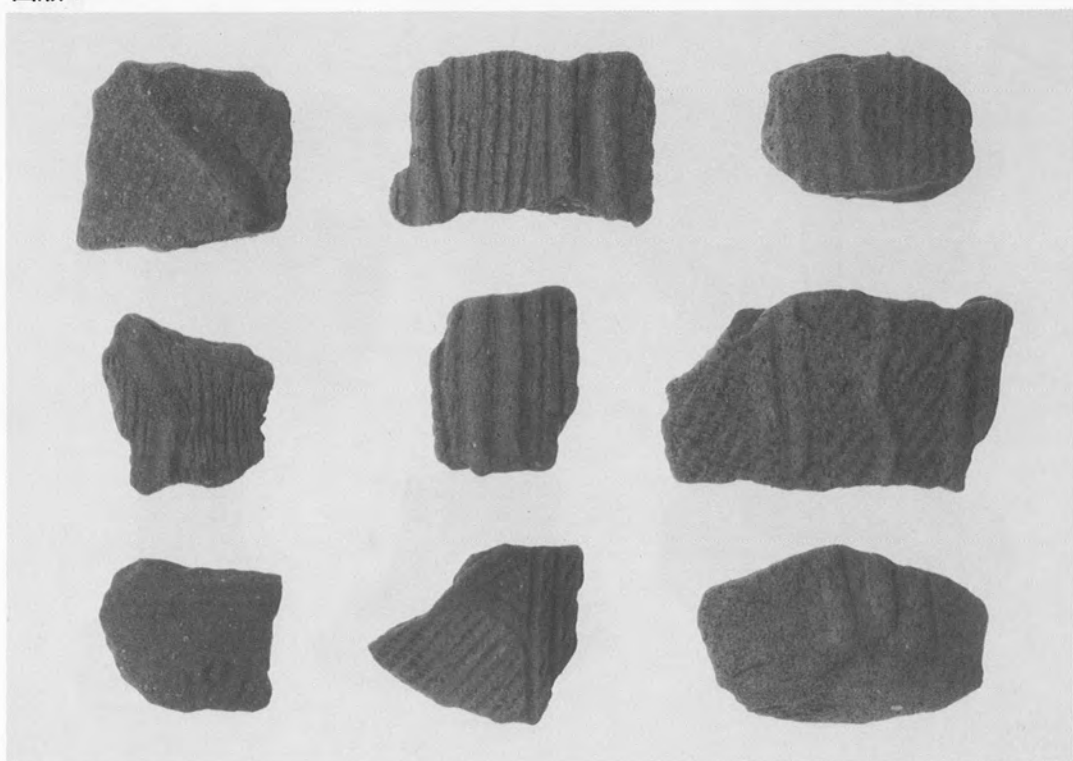
12. II類土器(2)



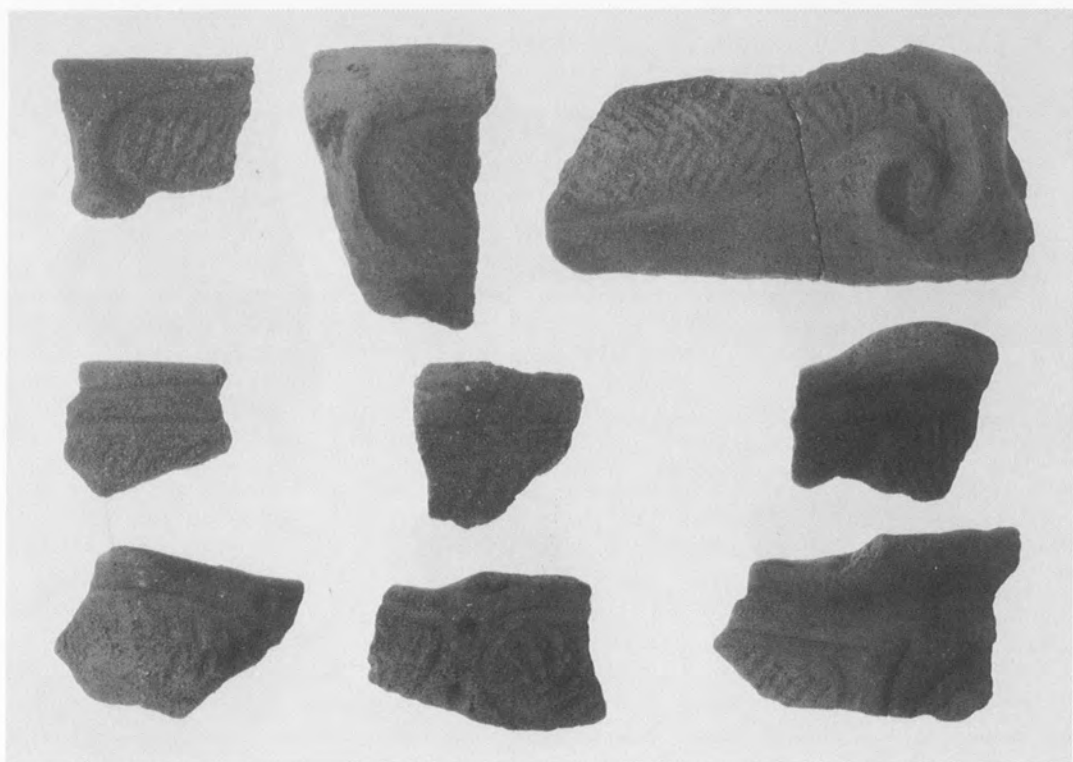
13. II類土器(3)



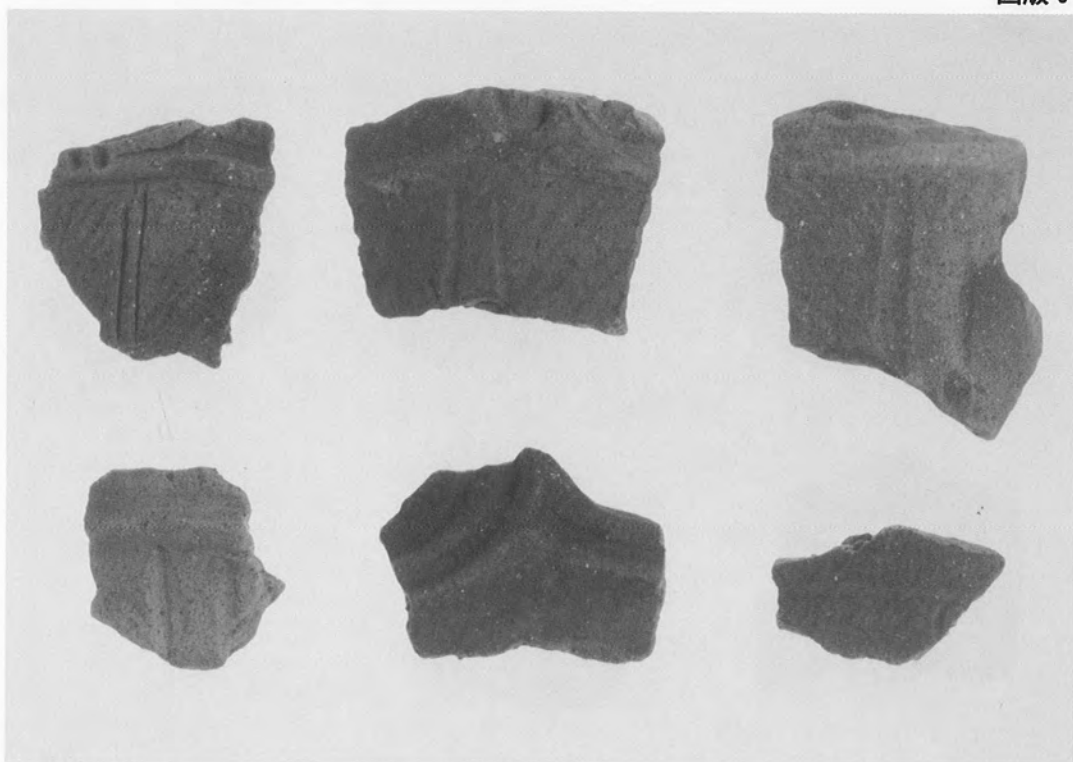
14. II類土器(4)



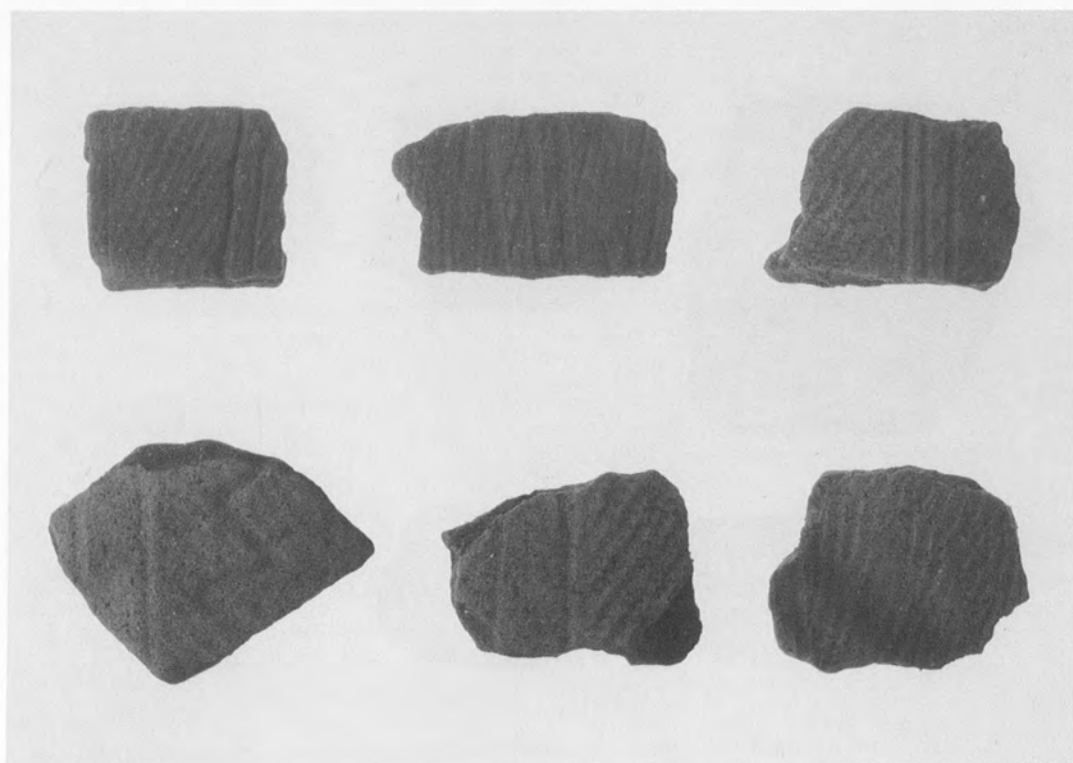
15. II類土器(5)



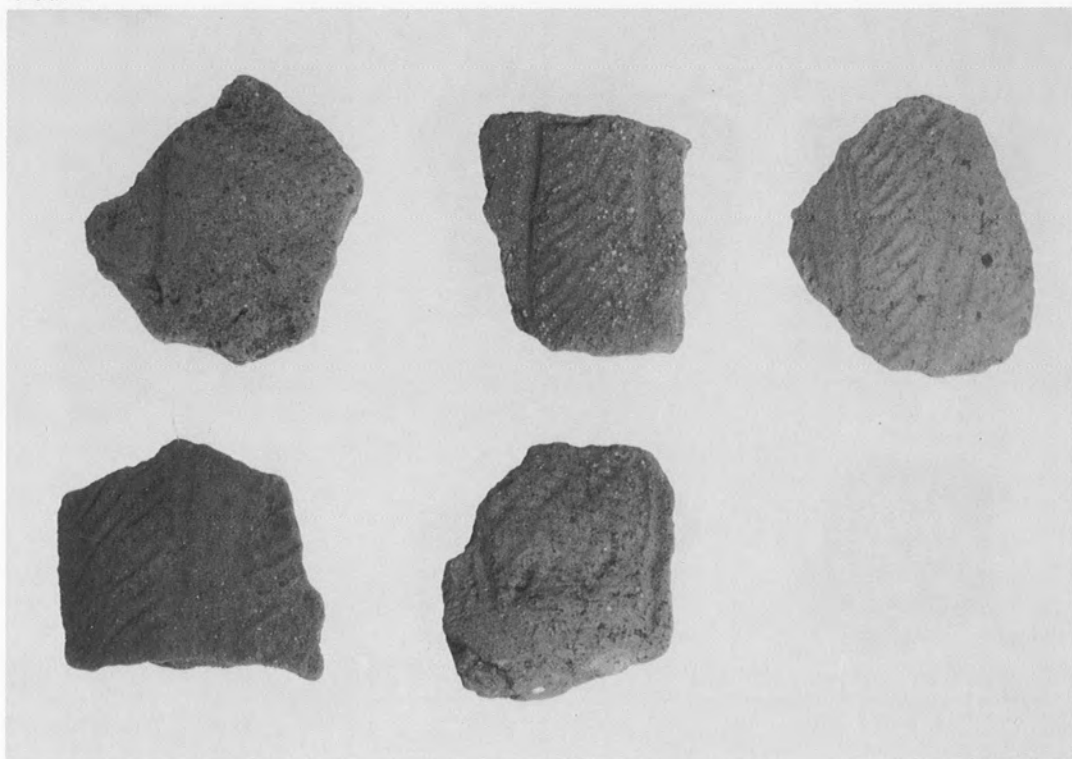
16. II類土器(6)



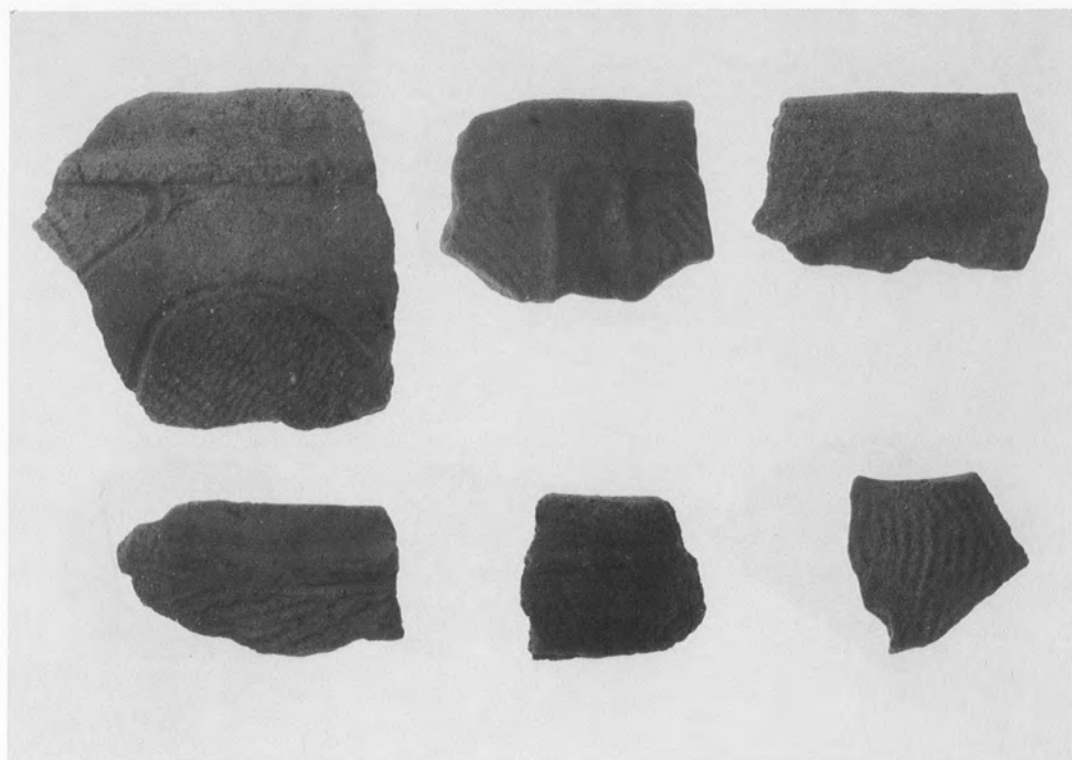
17. II類土器(7)



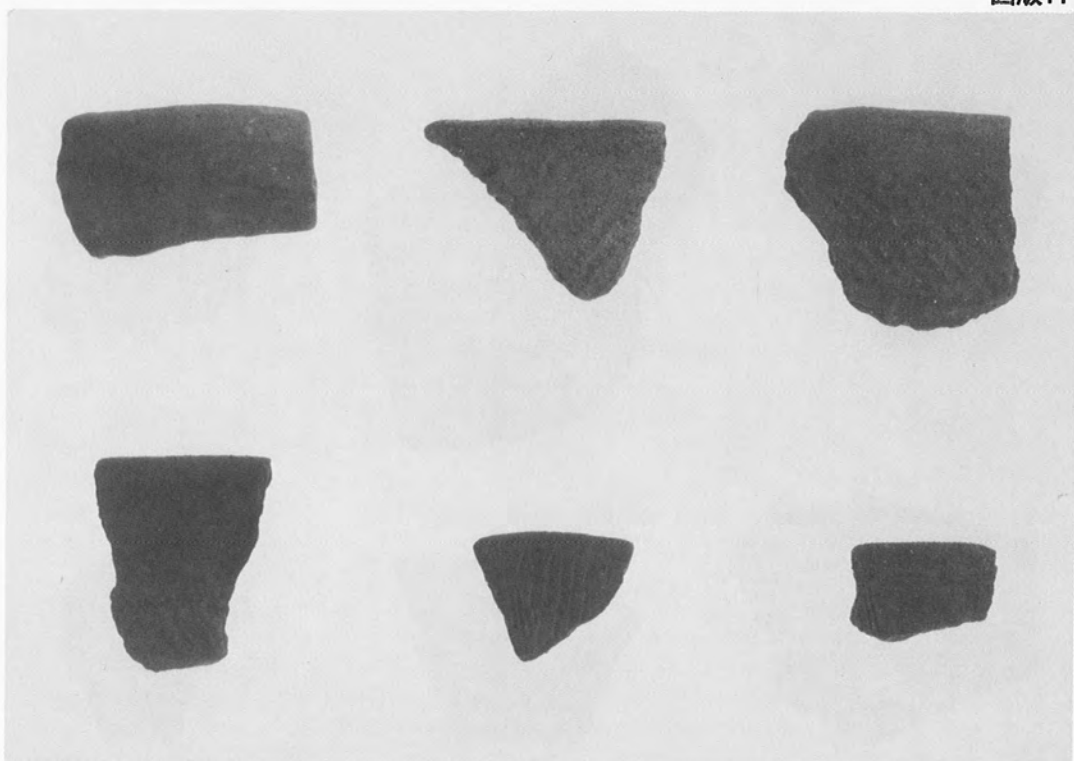
18. II類土器(8)



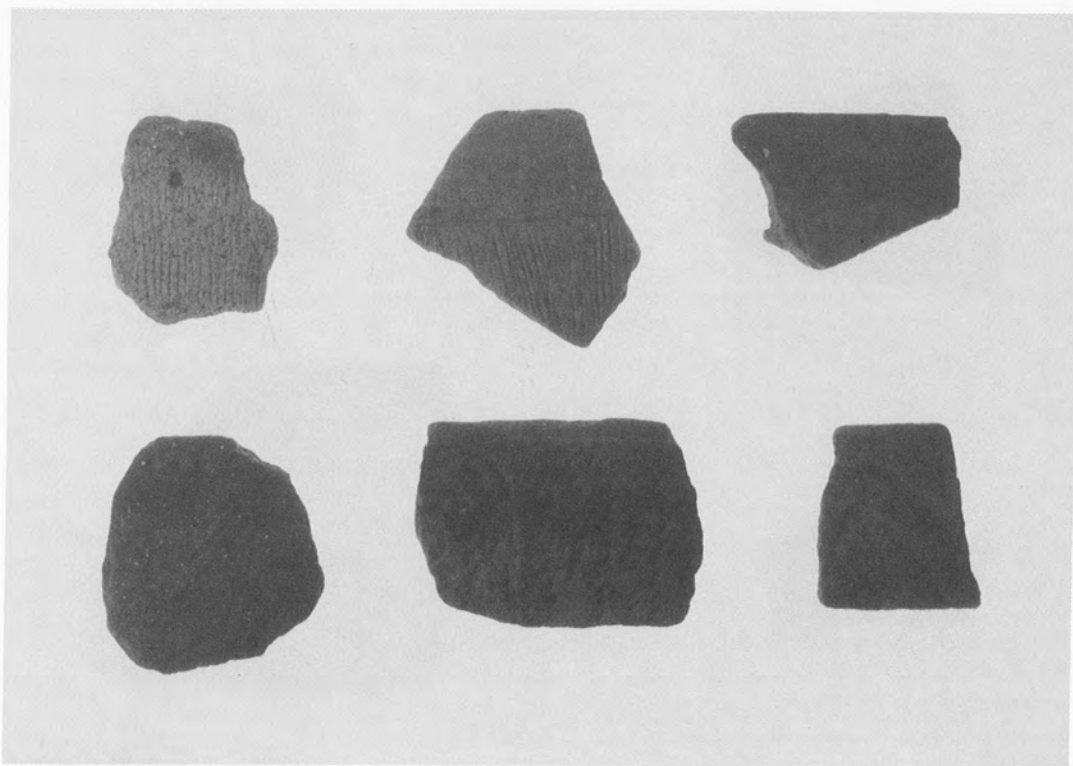
19. II類土器(9)



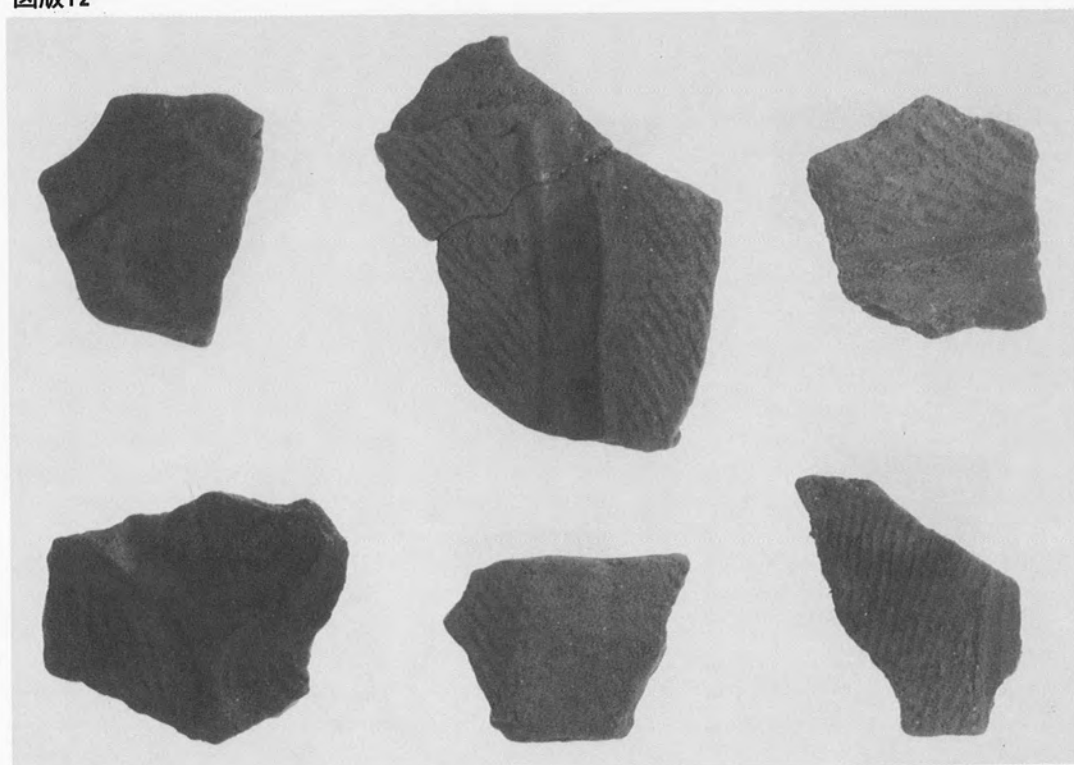
20. II類土器(10)



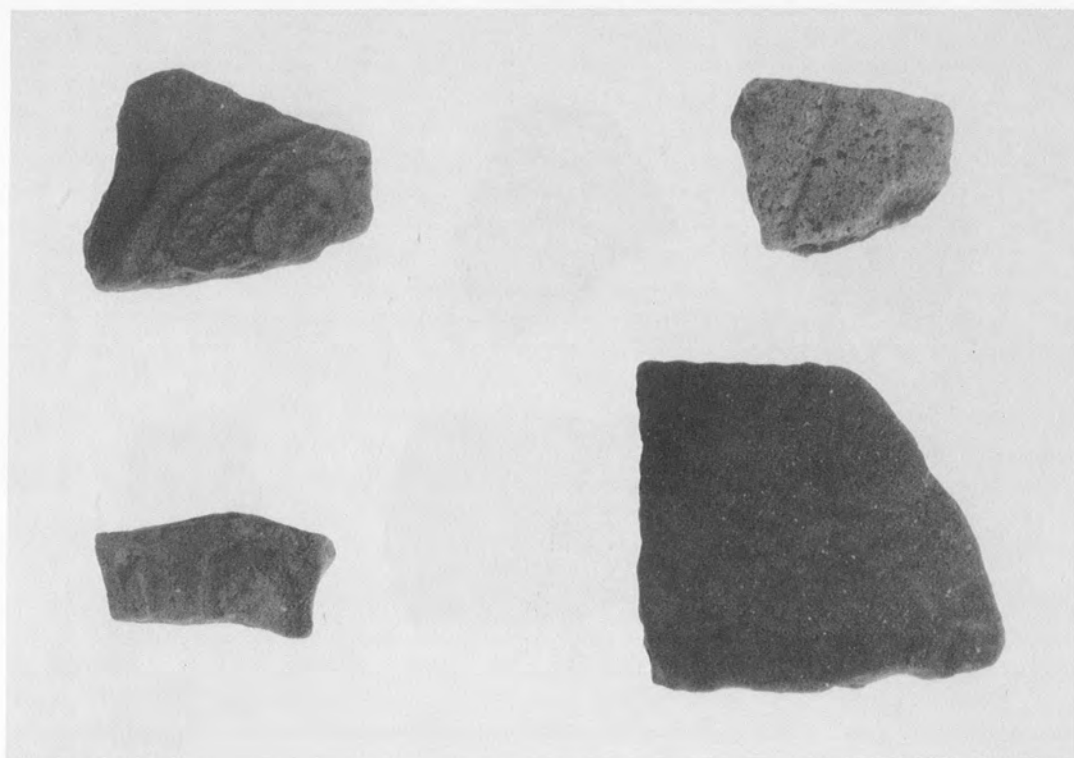
21. II類土器(1)



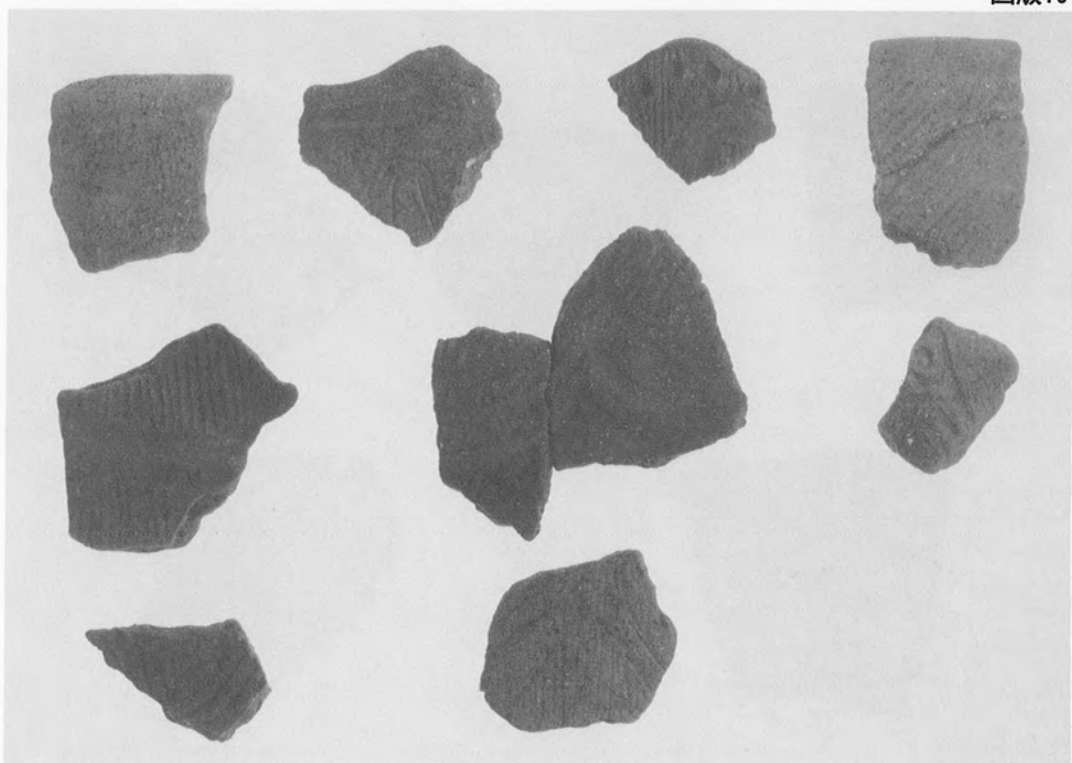
22. II類土器(2)



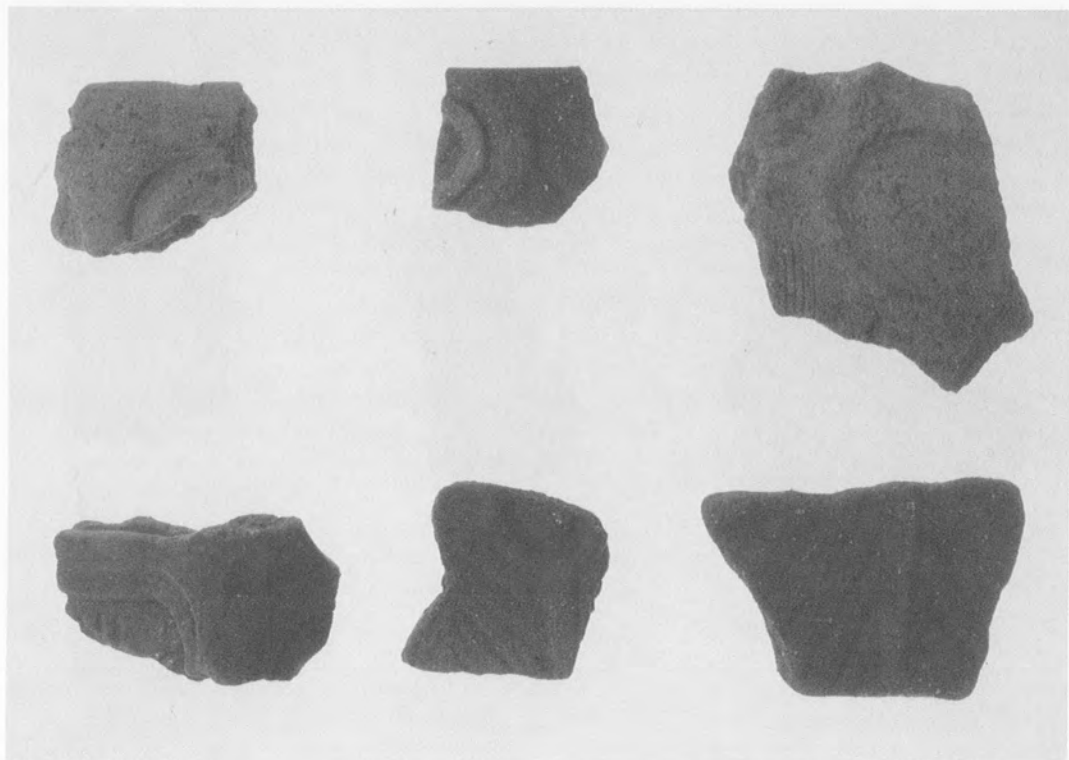
23. II類土器(13)



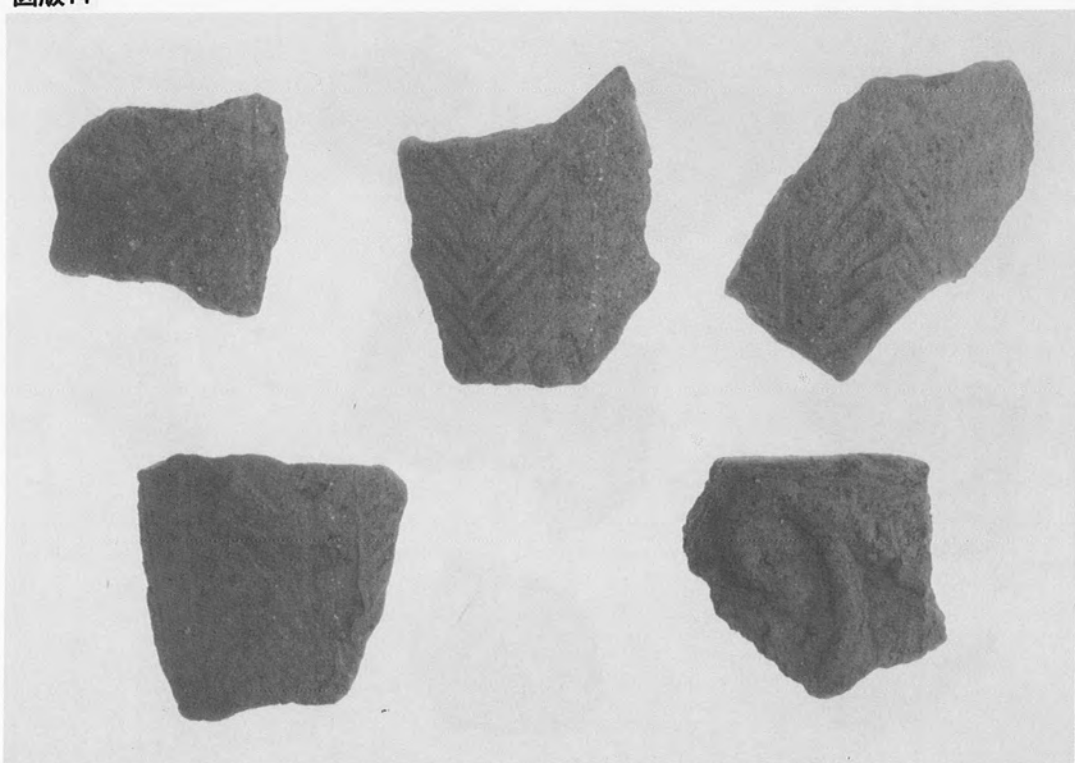
24. II類土器(14)



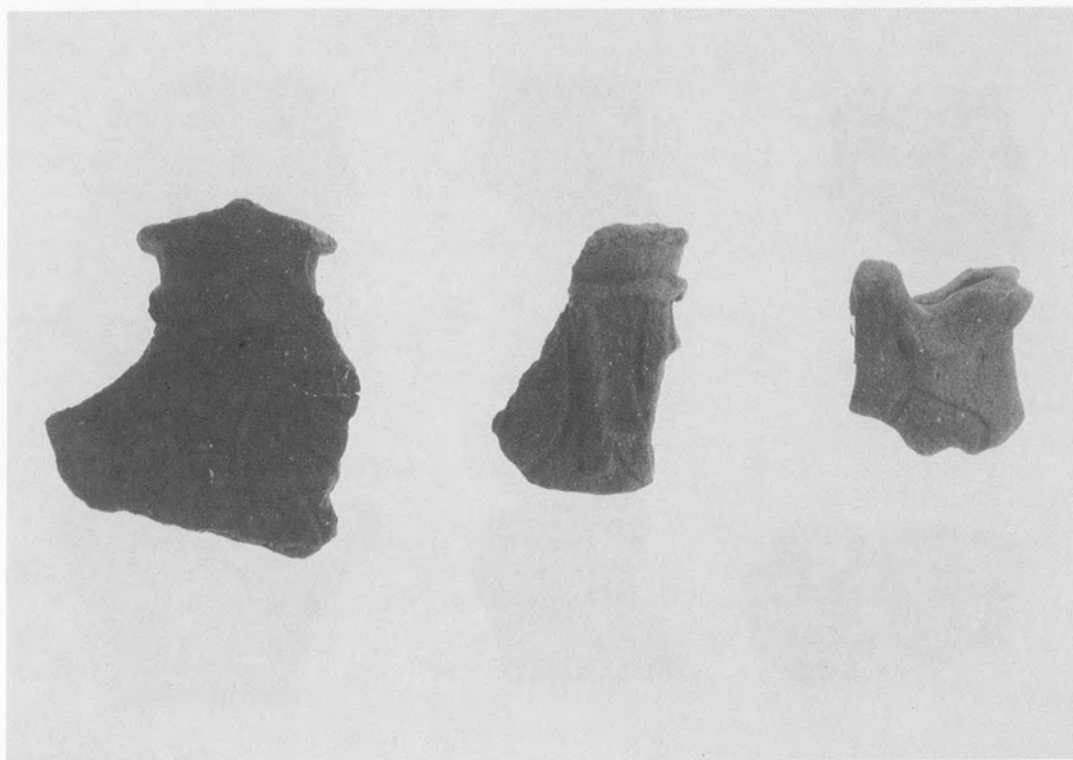
25. III類土器(1)



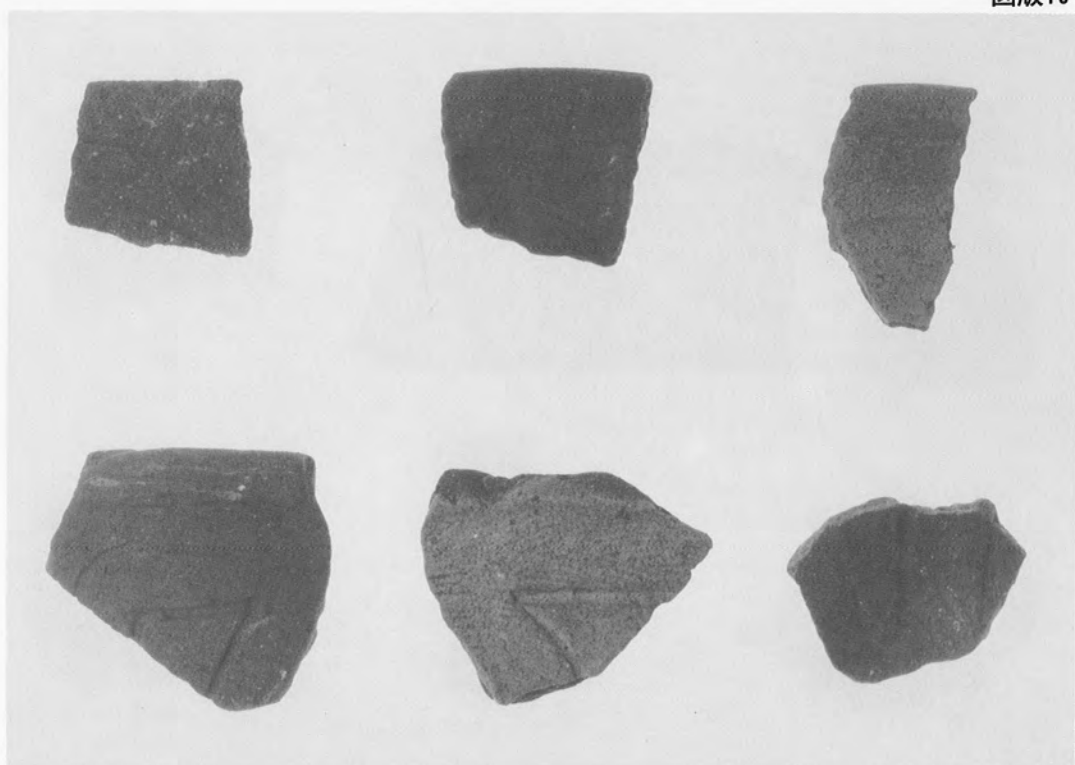
26. III類土器(2)



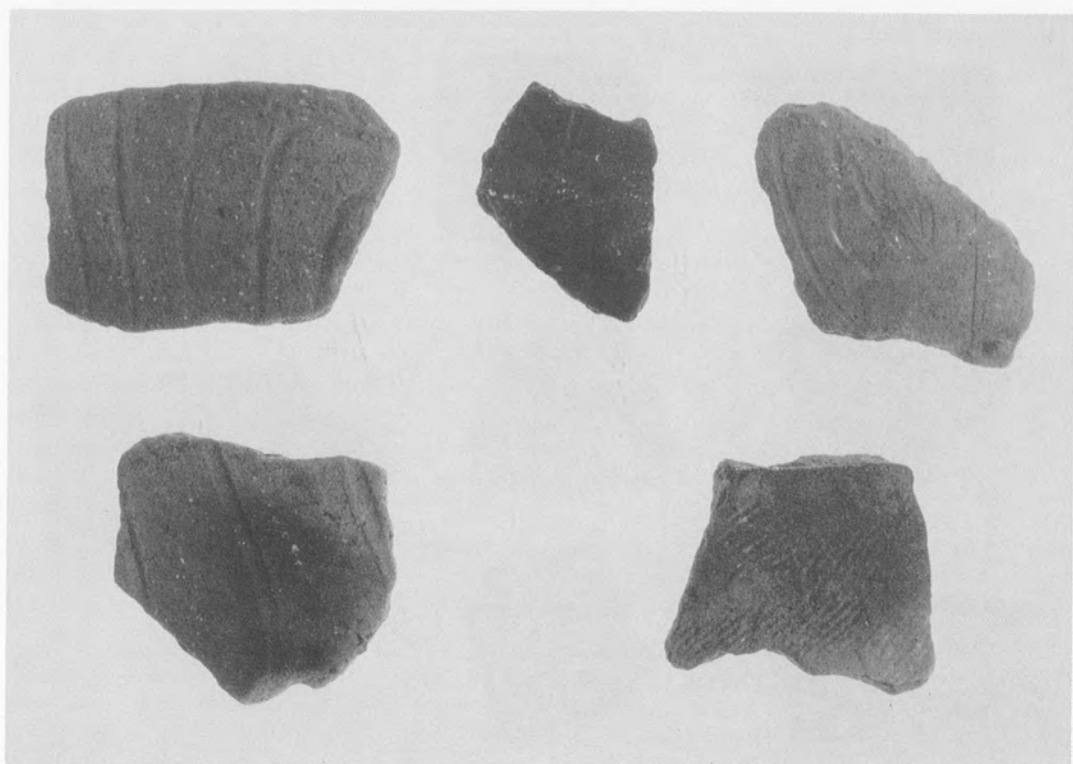
27. III類土器(3)



28. IV類土器(1)



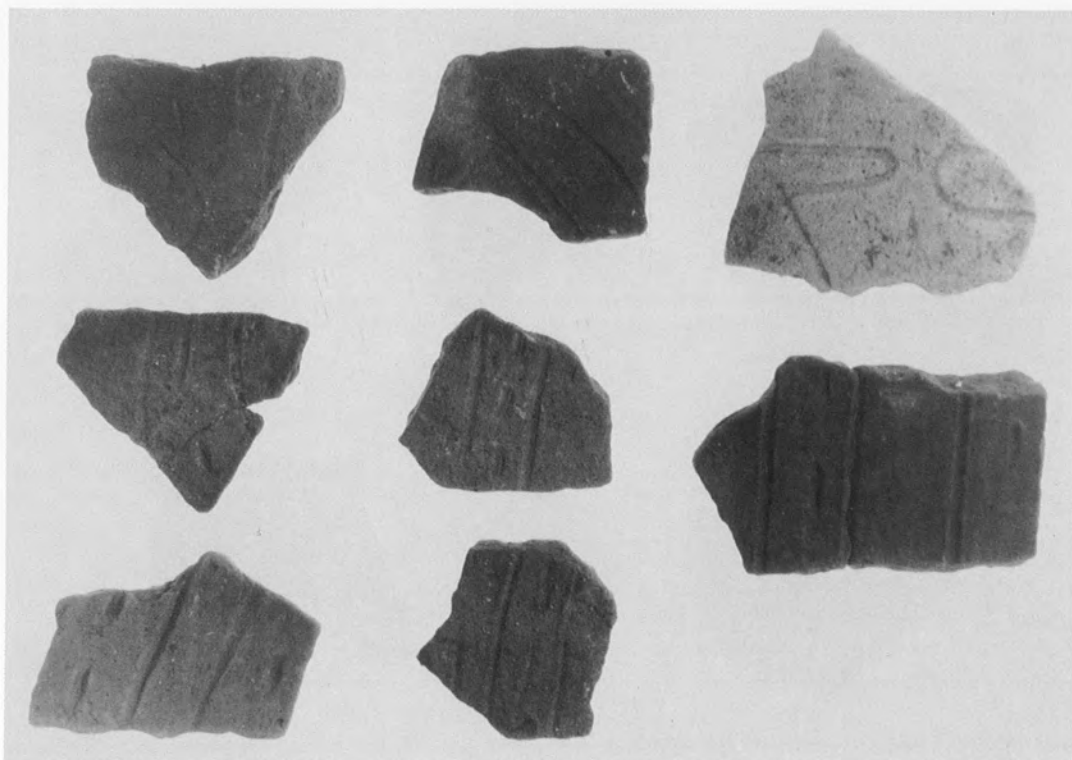
29. IV類土器(2)



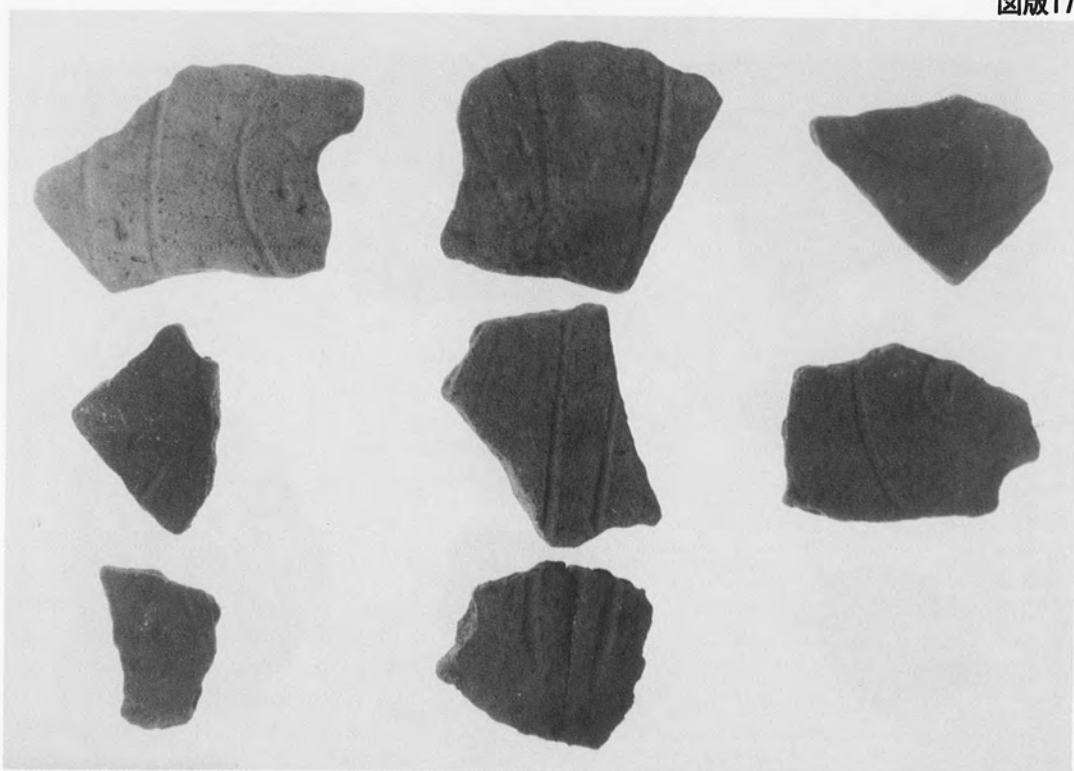
30. IV類土器(3)



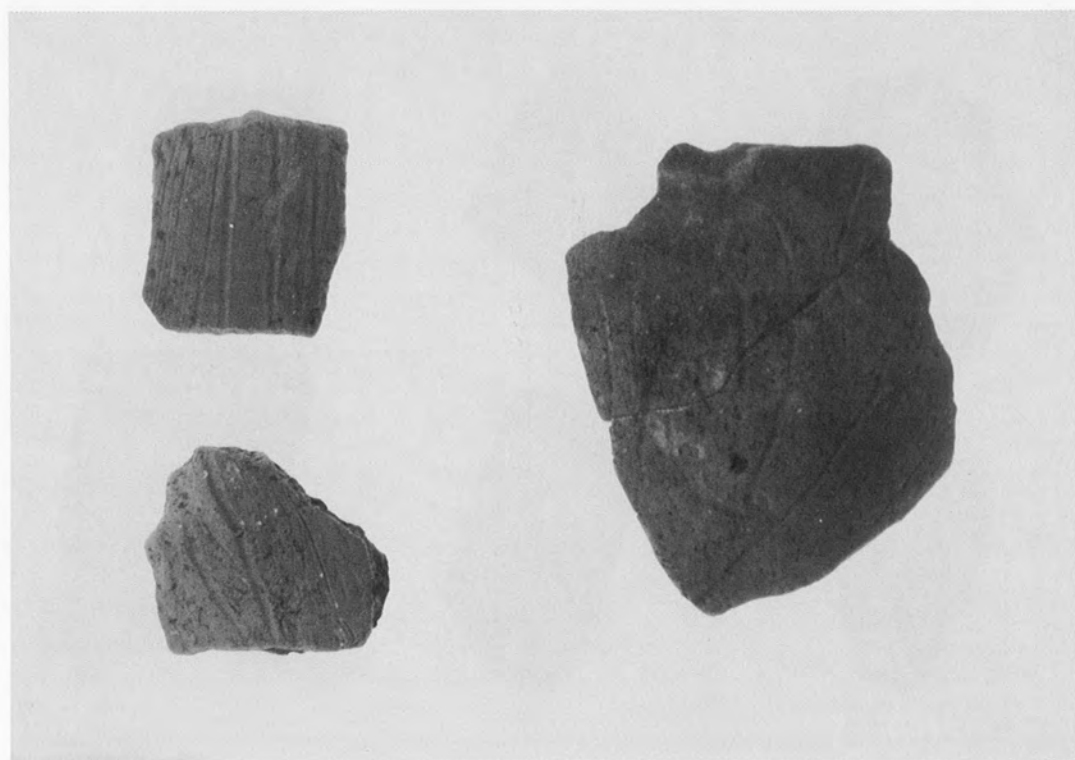
31. IV類土器(4)



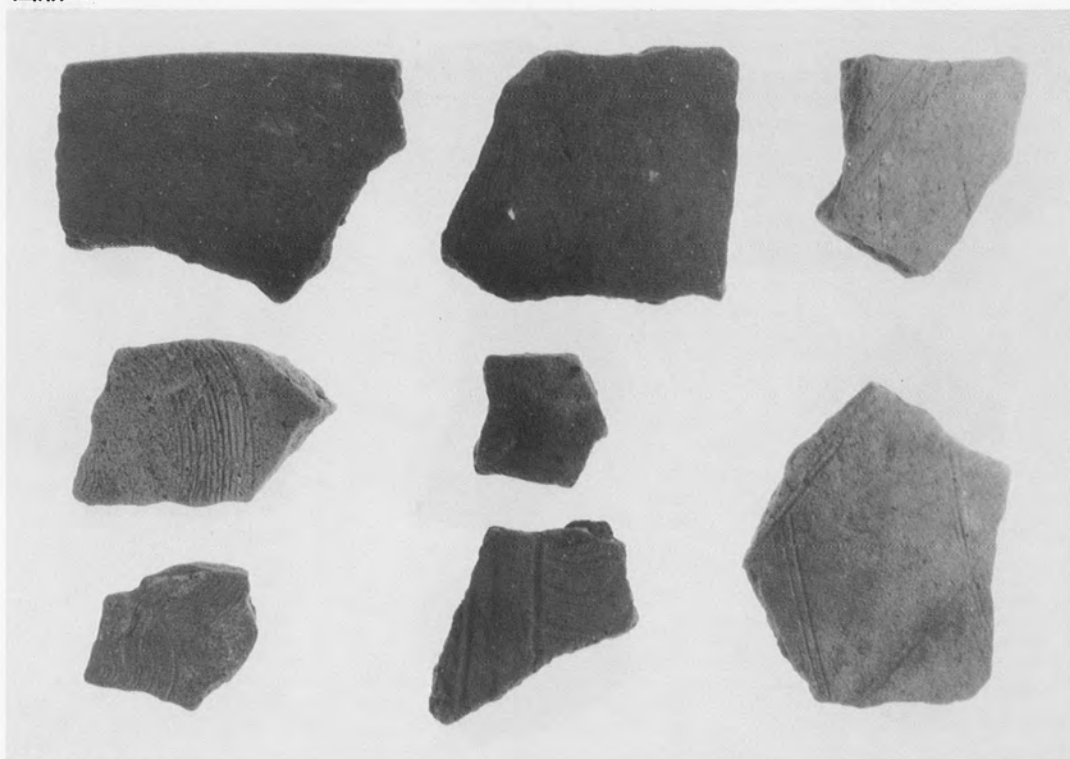
32. IV類土器(5)



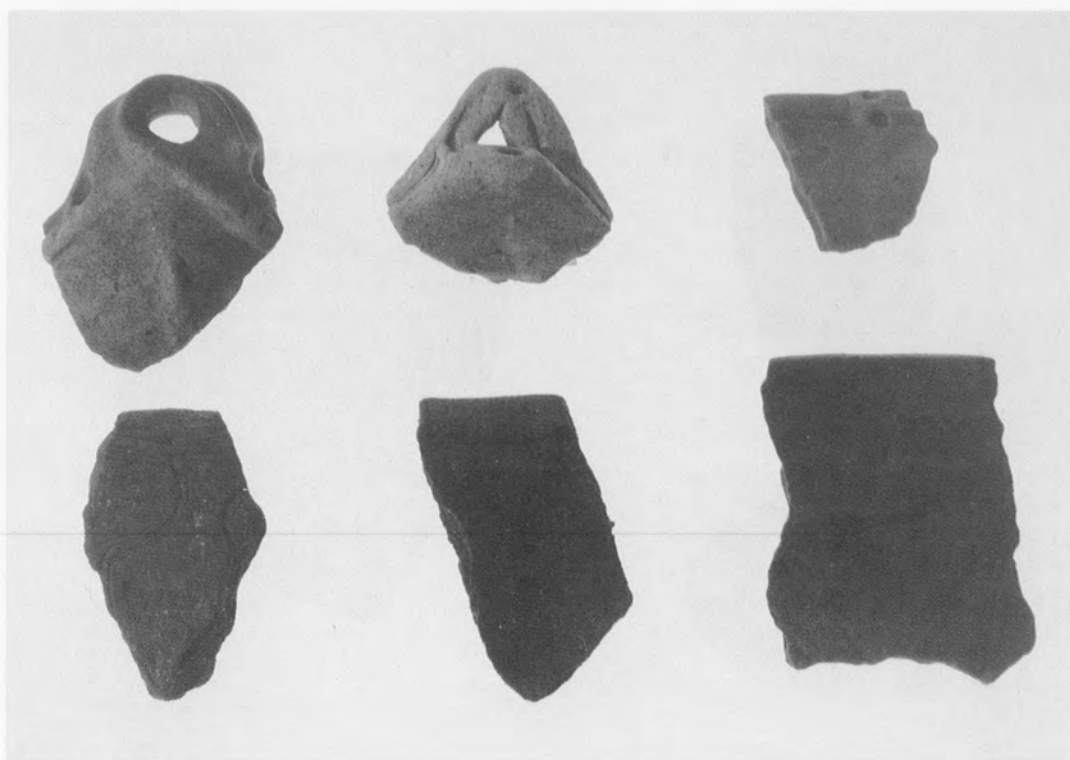
33. IV類土器(6)



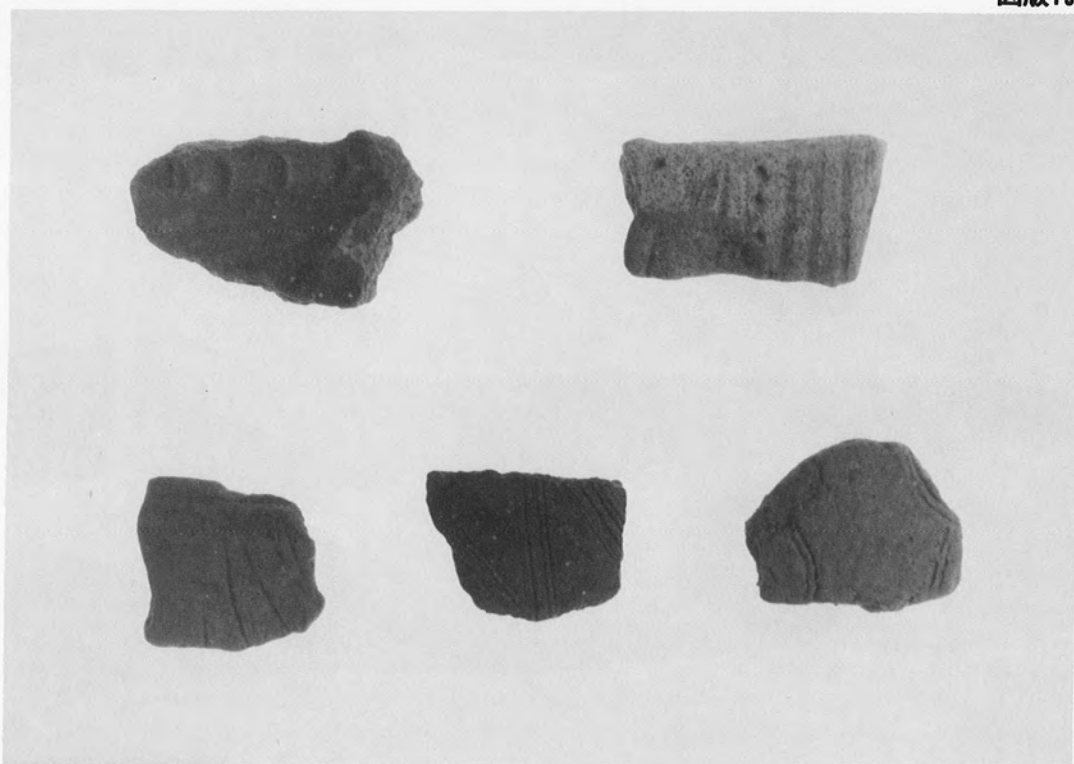
34. IV類土器(7)



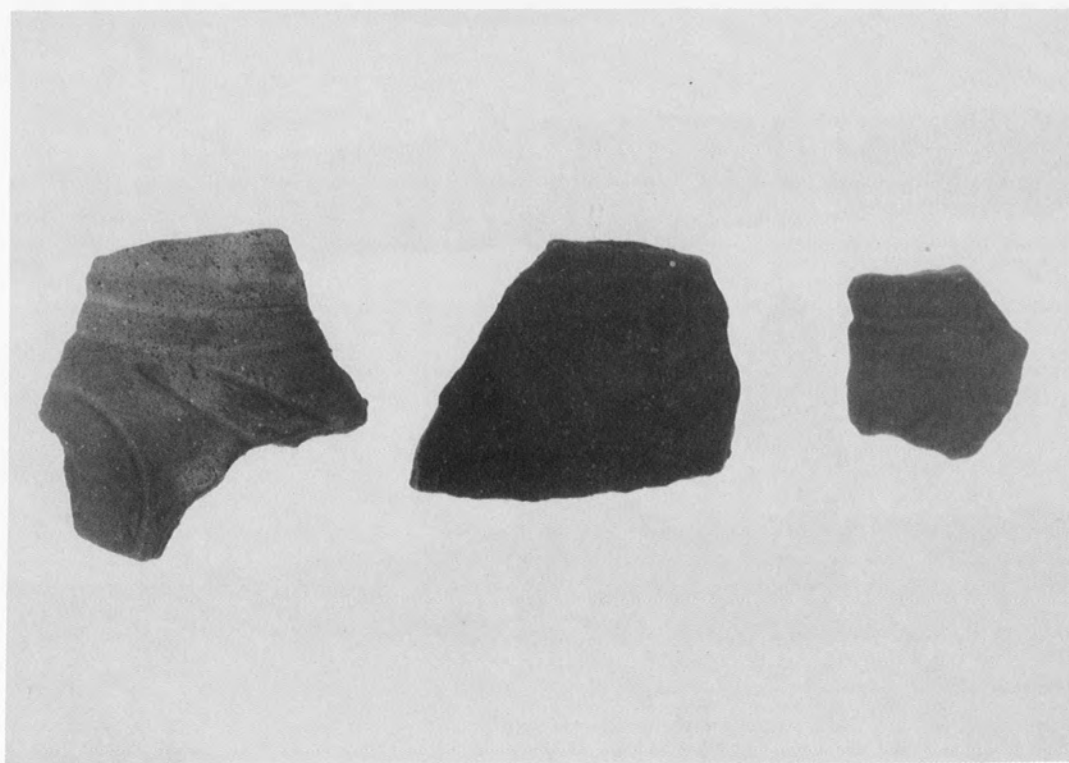
35. IV類土器(8)



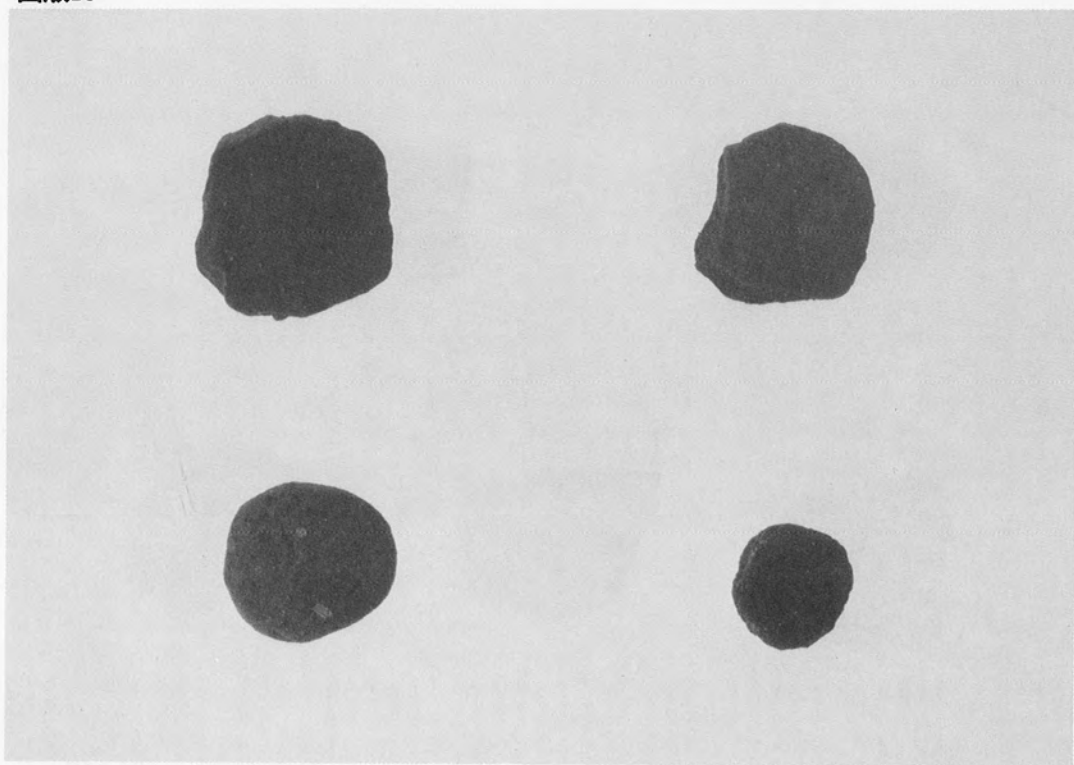
36. V類土器(1)



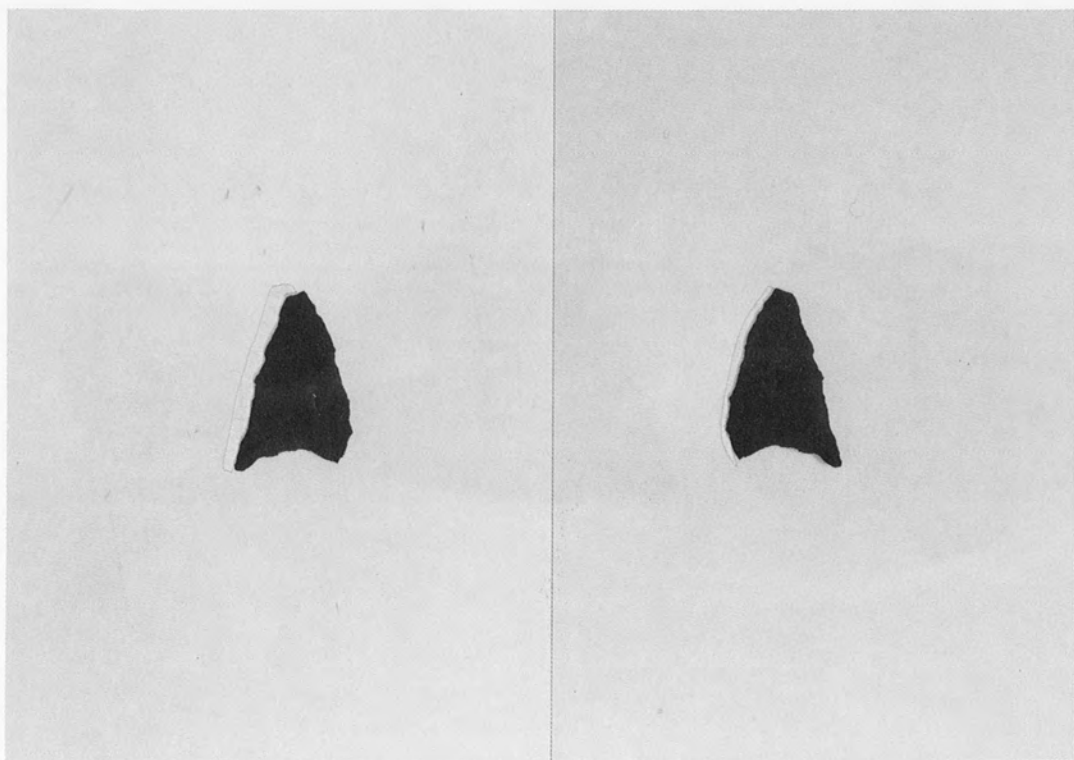
37. V類土器(2)



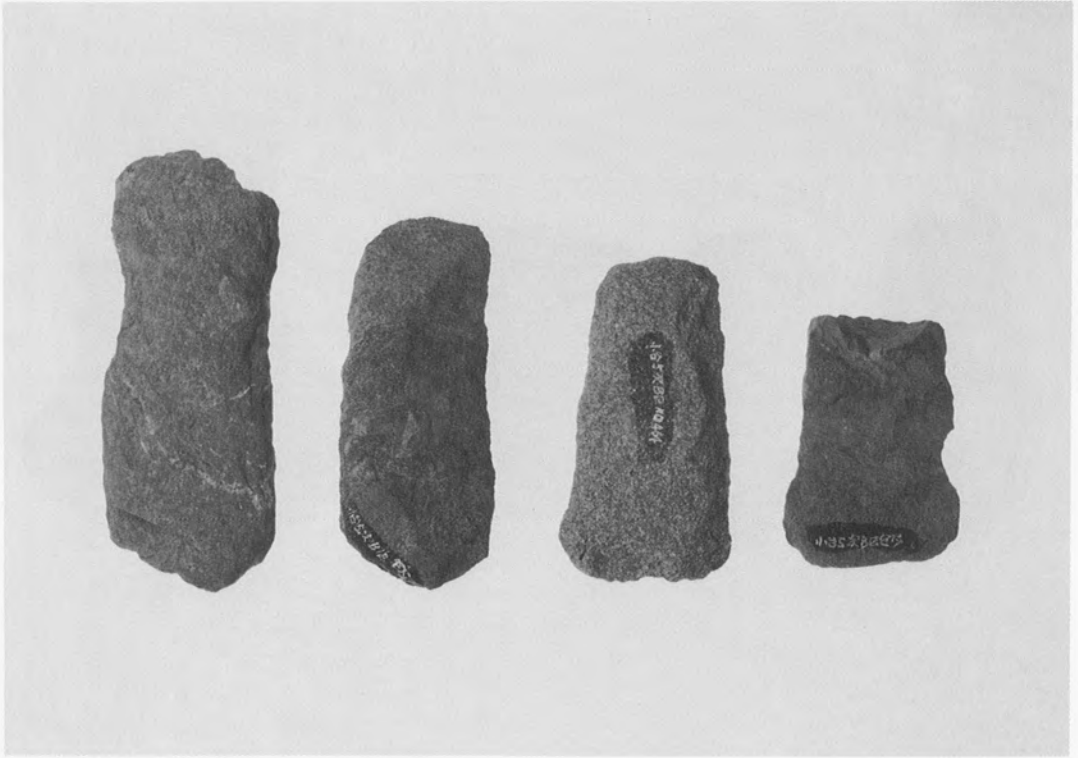
38. VI類土器



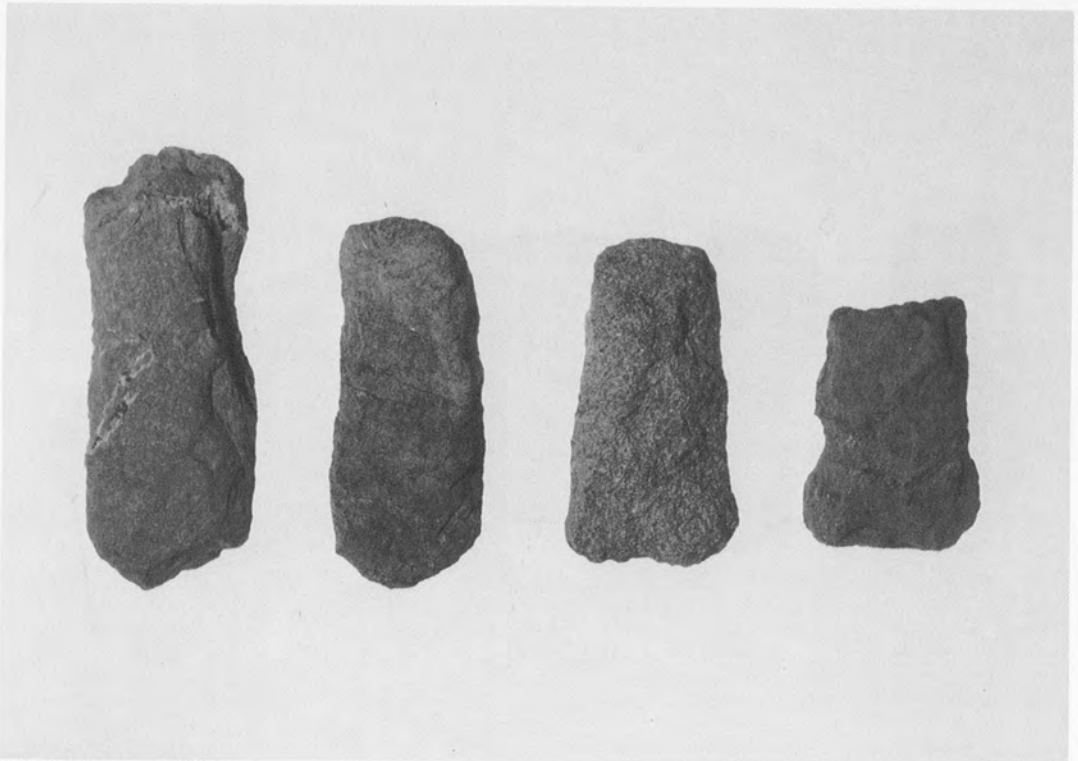
39. VIII類土器



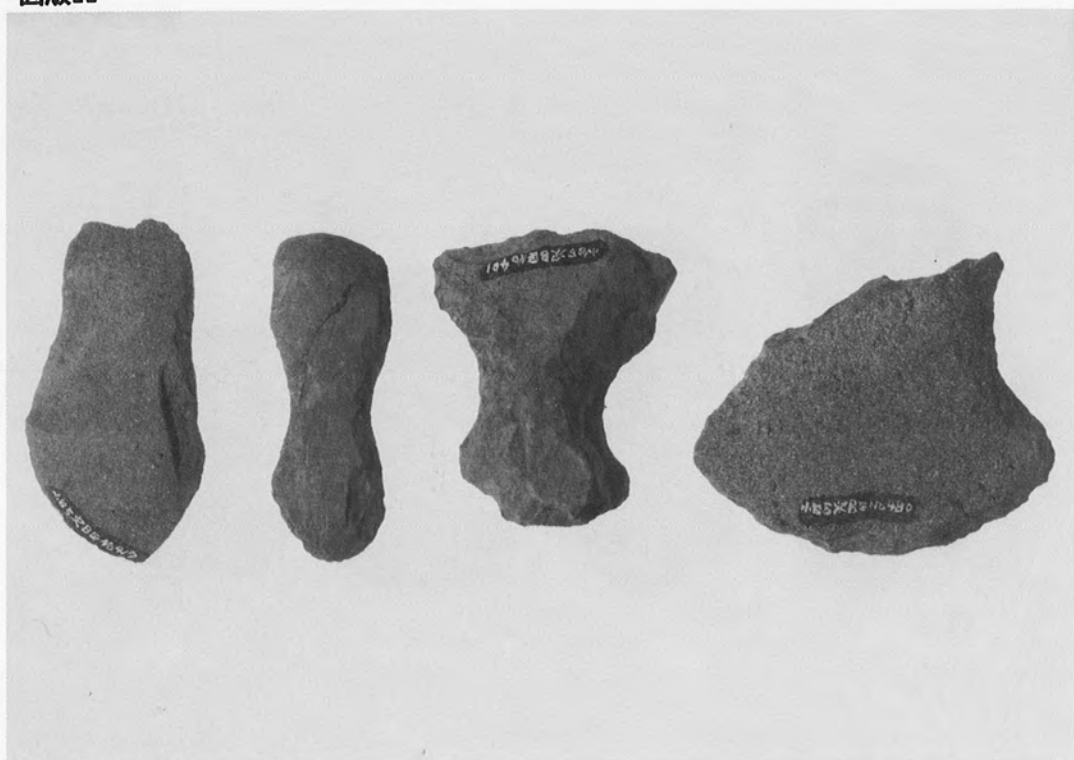
40. 石鏃



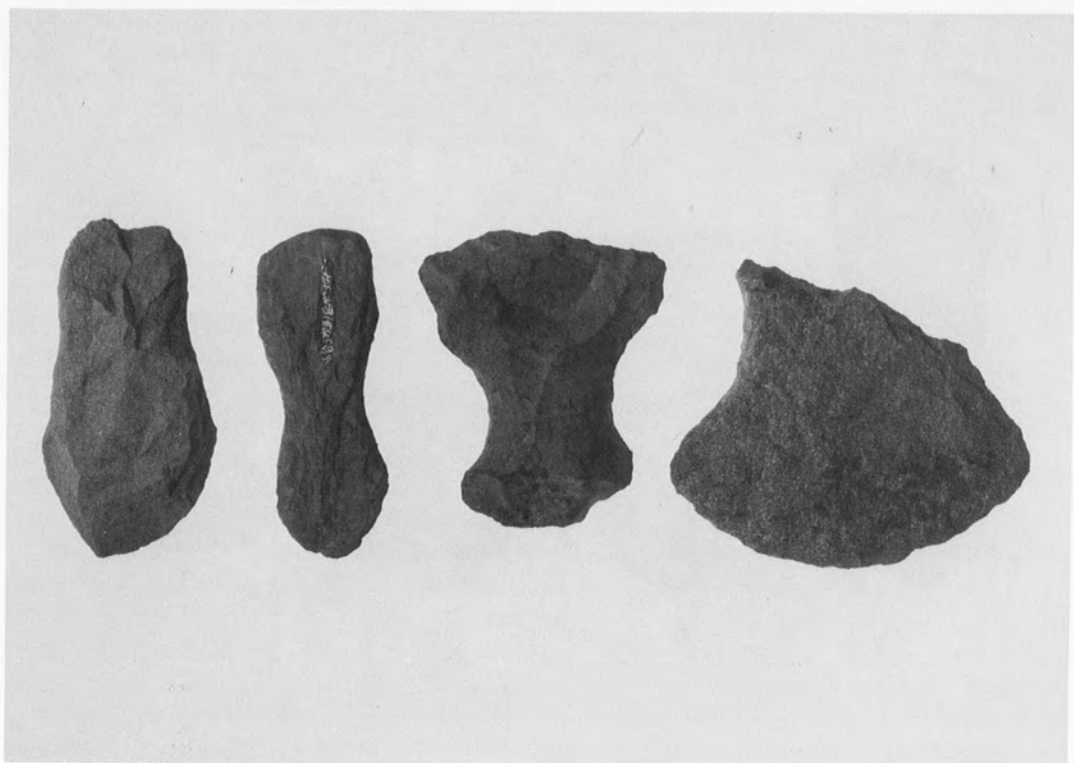
41. 打製石斧（表面）



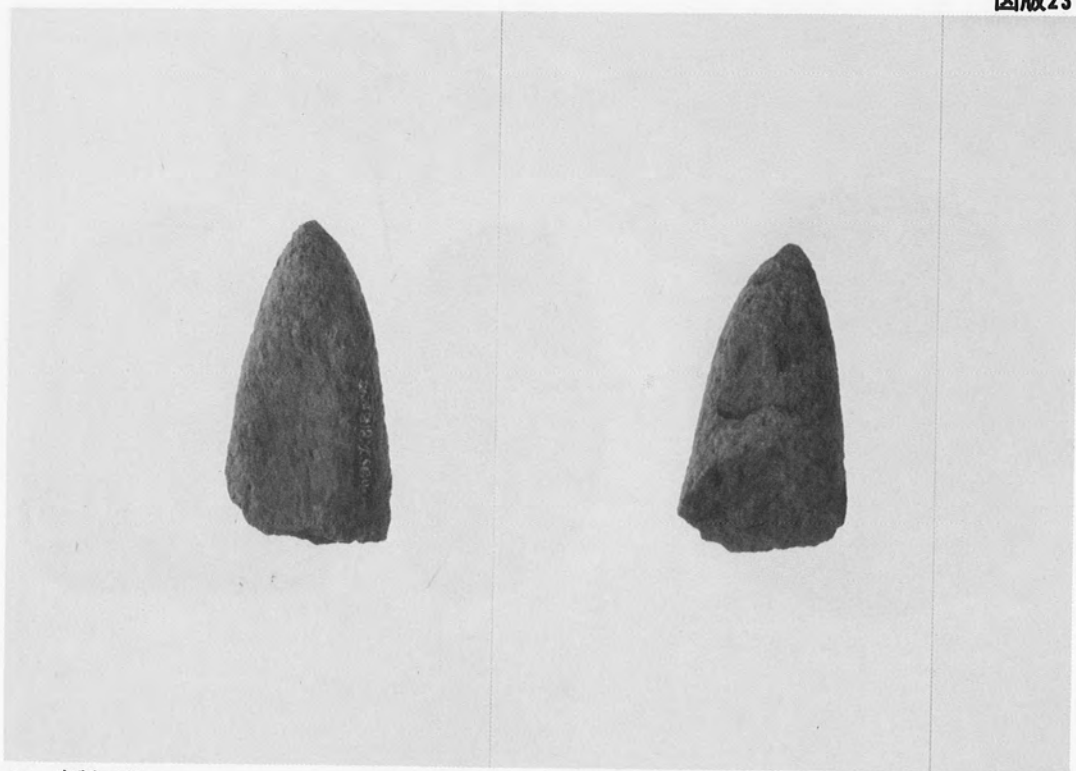
42. 打製石斧（裏面）



43. 打製石斧（表面）



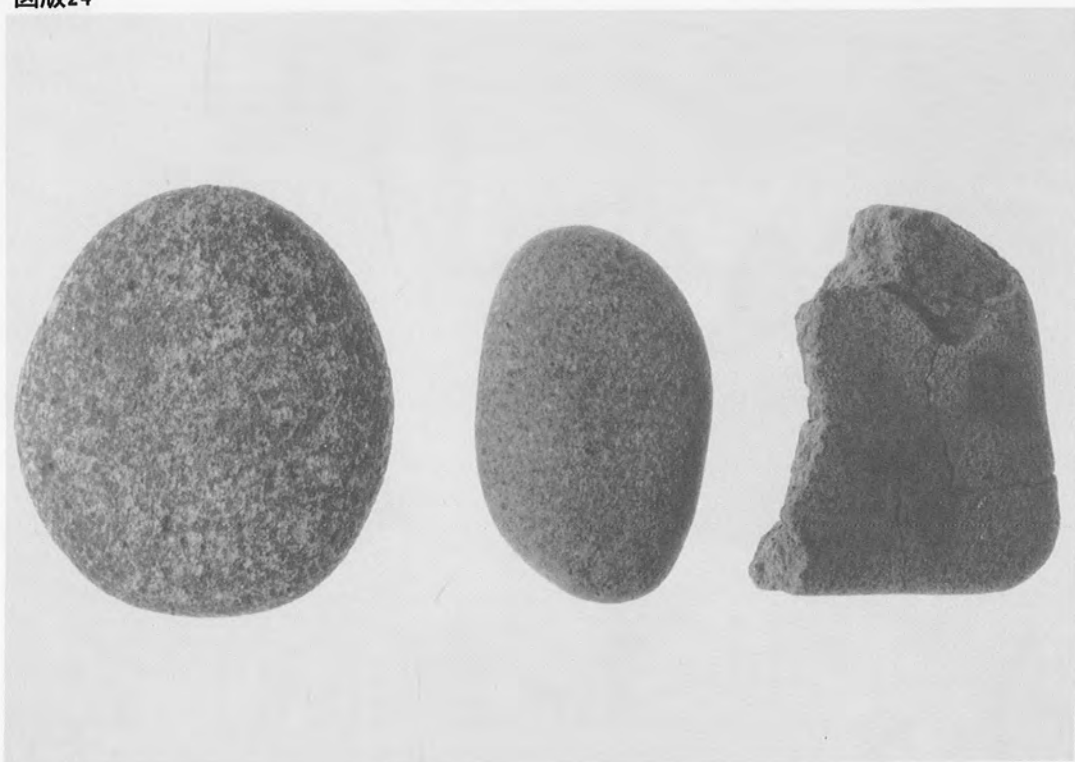
44. 打製石斧（裏面）



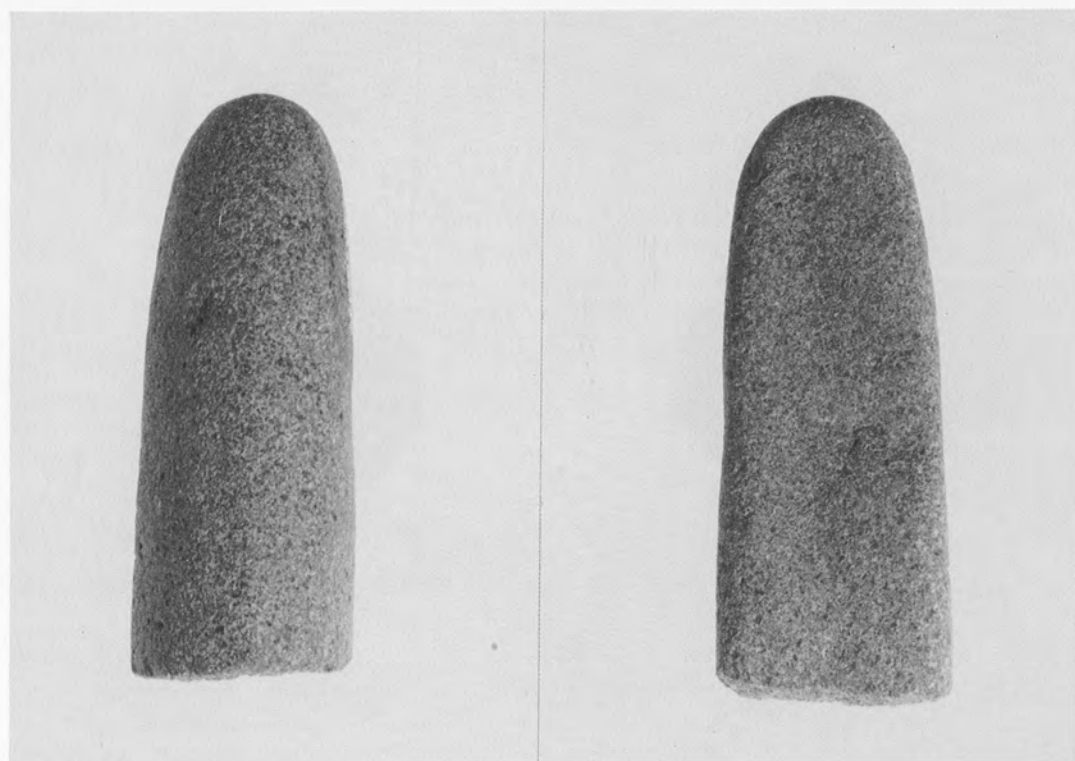
45. 磨製石斧



46. 石器未製品



47. 磨石



48. 棒状石製品

埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 第22集

小 台 遺 跡 (第5次)

印 刷 平成元年 3 月23日

発 行 平成元年 3 月31日

発行 深谷市教育委員会

印刷 大屋印刷株式会社
